

主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う 埋蔵文化財調査報告書

—三直中郷遺跡 坂ノ下地区—

平成15年3月

千葉県土木部
財団法人 千葉県文化財センター

主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う 埋蔵文化財調査報告書

—みのうなかごういせき さかのしたちく—
—三直中郷遺跡 坂ノ下地区—



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第453集として、千葉県土木部の主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴い実施した、君津市三直中郷遺跡坂ノ下地区の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、大量の木製農具類の出土と水田跡が調査され、この地域の歴史を知ることはもとより、古代の水田耕作に伴う農具研究および耕作技術研究の上で貴重な成果が得られております。

刊行にあたり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成15年3月25日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 清水新次

凡 例

- 1 本書は、千葉県土木部による「主要地方道君津鴨川線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書
－三直中郷遺跡坂ノ下地区－」である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県君津市三直字坂ノ下799-2他（遺跡コード 225-010C）に所在する三直中郷遺跡坂ノ下地区である。
三直中郷遺跡は「館山自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査」において
遺跡コード225-010A（中郷地区）
遺跡コード225-010B（沖田地区）
として調査され、別途発掘調査報告書が刊行される予定である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、第1章に記載したとおりである。
- 5 平成14年度における本書の執筆は、主席研究員相京邦彦、上席研究員安川正行が担当した。
- 6 木製品の保存修復に関しては、当センター資料部整理課森上席研究員が担当したが、長大の木製品については、（株）東都文化財保存研究所、パリノ・サー・ヴェイ株式会社に委託したものもある。
- 7 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化財課、千葉県土木部君津幹線建設事務所、君津市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 8 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図 国土地理院発行	1/50,000 地形図「木更津」	(NI-54-25-4)
国土地理院発行	1/50,000 地形図「富津」	(NI-54-26-1)
第2図 国土地理院発行	1/25,000 地形図「鹿野山」	(NI-54-26-1-1)
第71図 参謀本部陸軍部測量局作製	1/20,000 迅速図を転載 (明治15年測量・明治20年発行)	
第72図 木更津市役所発行	1/2,500 地形図をもとに転載	
- 9 周辺航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 10 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北であり、座標値は平成11年に実施した基準点測量の数値に基づいており、測量値は日本測地系による。
- 11 本書で使用した遺構の略称、スクリントーンは以下のとおりである。



木質部が焼けているか焦げている範囲



足板と横木の接触部などの圧痕の痕跡



柱跡と推定される範囲

本文目次

第1章はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 三直中郷遺跡坂ノ下地区の地理的・歴史的環境.....	2
第3節 調査の概要.....	6
1 基本層序.....	6
2 発掘調査の方法と経過.....	6
3 整理作業の方法と経過.....	10
(1) 調査後の仮処理方法.....	10
(2) 保存処理.....	10
第2章坂ノ下地区の各区の様相.....	11
第1節 I区の概要.....	11
第2節 II区の概要.....	12
第3節 III区の概要.....	20
第4節 その他の区の概要.....	27
第3章出土遺物.....	31
第1節 土器.....	31
第2節 その他の遺物.....	33
第4章木質遺物・木製品.....	36
第1節 出土状況.....	36
第2節 出土木製品の分類と分類基準.....	36
1 農具.....	37
① 田下駄の分類.....	37
② 足板に転用された木製品.....	38
2 祭祀具.....	38
3 生活用具.....	38
4 竹材.....	38
5 建築材・土木材.....	38
6 用途不明材.....	38
7 自然木.....	39
第3節 木質遺物および木製品.....	39
1 農具.....	39
① 木枠型大足.....	39
② 木枠型大足の小口板.....	48
③ 木枠型大足の横木.....	48
④ 木枠型大足の横板.....	52

⑤ 木枠型大足の櫂木	52
⑥ 四孔田下駄	52
⑦ 輪カンジキ型田下駄	56
a 板状足板（幅広）	56
b 板状足板（幅狭）	62
c 板状足板（船形）	66
d 板状足板（くびれをもつもの）	66
e その他の板状足板	66
f 輪カンジキのセット	71
g 横板（カキゾコ板の転用）	71
h 輪カンジキの横木・横板	74
⑧ 槌	77
⑨ 錘	77
⑩ 柄	80
2 祭祀具	80
有頭状木製品	80
3 生活用具	80
木針・木箸・曲げ物	80
4 竹材	85
5 建築材	85
① えつり	85
② その他の部材	85
a 建築材の杭先	85
b 建築材の板材	86
6 用途不明の加工材	94
第5章 まとめ	98
1 遺跡の性格と条里制の遺構について	98
2 木製品	98
3 使用樹木について	99
付編 「三直中郷遺跡坂ノ下地区から出土した木製品の材同定報告」(平成13年度)	103
報告書抄録	卷末

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置図 1:50,000	3	第31図 木枠型大足部材実測図（横木、小口板）	44
第2図 周辺の遺跡分布図 1:25,000	4	第32図 木枠型大足部材実測図（横木、小口板）	45
第3図 標準土層図	6	第33図 木枠型大足部材実測図（横木）	46
第4図 遺跡周辺地形図・確認グリッド配置図 1:5,000	8	第34図 木枠型大足部材実測図（くさび）	47
第5図 本調査範囲・調査区位置図 1:2,000	9	第35図 木製品実測図（小口板）	49
第6図 I 区遺物出土分布図	11	第36図 木製品実測図（小口板）	50
第7図 I 区出土木製品	12	第37図 木製品実測図（小口板、横木）	51
第8図 I 区遺物出土詳細図	12	第38図 木製品実測図（横木）	53
第9図 II 区遺構検出図（SD001、SD002）・遺構 検出面測量図	13	第39図 木製品実測図（四孔田下駄）	54
第10図 II 区遺物出土分布図	14	第40図 木製品実測図（四孔田下駄）	55
第11図 II 区出土木製品	15	第41図 木製品実測図（四孔田下駄、縦木、足板）	57
第12図 II 区木枠型大足出土詳細図	16	第42図 木製品実測図（足板）	58
第13図 II 区遺物出土詳細図（1）	17	第43図 木製品実測図（足板）	59
第14図 II 区遺物出土詳細図（2）	18	第44図 木製品実測図（足板）	60
第15図 II 区遺物出土詳細図（3）	18	第45図 木製品実測図（足板）	61
第16図 II 区遺物出土詳細図（4）	19	第46図 木製品実測図（足板）	63
第17図 III 区遺構配置図・遺構検出面測量図・土 層断面図・畦畔検出図	21	第47図 木製品実測図（足板）	64
第18図 III 区遺物出土分布図	22	第48図 木製品実測図（足板）	65
第19図 III 区出土木製品	23	第49図 木製品実測図（足板、横木、横板）	67
第20図 III 区遺物出土詳細図（1）	24	第50図 木製品実測図（足板）	68
第21図 III 区遺物出土詳細図（2）	25	第51図 木製品実測図（足板）	69
第22図 III 区遺物出土詳細図（3）	26	第52図 木製品実測図（足板、輪カンジキ）	72
第23図 III 区遺物出土詳細図（4）	27	第53図 木製品実測図（足板）	72
第24図 IV 区遺構検出図・土層断面図	28	第54図 木製品実測図（足板）	73
第25図 V～IX 区遺構検出図・土層断面図	30	第55図 木製品実測図（横板、足板）	75
第26図 遺物実測図（1） 土器・陶磁器・石	32	第56図 木製品実測図（横板、横木）	76
第27図 遺物実測図（2） 土器・錢貨・キセル	34	第57図 木製品実測図（横板、槌）	78
第28図 木枠型大足復元推定図	42	第58図 木製品実測図（平鉗、曲鉗、柄）	79
第29図 木製品実測図（足板）	42	第59図 木製品実測図（柄）	81
第30図 木枠型大足部材実測図（縦木）	43	第60図 木製品実測図（箸、有頭状、曲げ物）	82
		第61図 木製品実測図（曲げ物、板材、竹材）	83
		第62図 木製品実測図（板材、えつり）	84

第63図	木製品実測図（杭、板材）	87	第69図	木製品実測図（板材）	93
第64図	木製品実測図（建築材）	88	第70図	木製品実測図（板材、不明）	96
第65図	木製品実測図（板材、建築材）	89	第71図	遺跡周辺地形図（迅速図 1:10,000）	
第66図	木製品実測図（板材、不明）	90			100
第67図	木製品実測図（板材、建築材）	91	第72図	遺跡周辺地形図（都市計画図 1:10,000）	
第68図	木製品実測図（建築材）	92			101

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧	5	第5表	出土木製品一覧（2）	41
第2表	出土遺物観察表	31	第6表	樹種同定結果	104
第3表	出土錢貨計測表	35	第7表	樹種同定顕微鏡写真一覧	104
第4表	出土木製品一覧（1）	40			

図 版 目 次

図版1	遺跡周辺航空写真（昭和42年撮影）	1・2・103
図版2	1 三直中郷遺跡坂ノ下地区（西から）	2 遺物出土状況（B1~16）
	2 三直中郷遺跡坂ノ下地区（東から）	13（四孔田下駄）
図版3	1 I区遺物出土状況（II C-06）	3 遺物出土状況（B1~35）
	2 II区全景（北から）	12（四孔田下駄）
図版4	1 II区SD001（東から）	図版9 1 遺物出土状況（A2~04）
	2 II区SD001 土層断面（A-A'）	2 遺物出土状況（A1~B1）
	3 木粋型大足出土状況	3 遺物出土状況（A1~B1）
図版5	1 14（四孔田下駄）	図版10 1 遺物出土状況（A1~B1）
	2 61（鉢）	2 遺物出土状況（B1）
	3 木製品出土状況（II C4-98）	3 遺物出土状況（B1）
図版6	1 III区全景（北東から）	図版11 1 遺物出土状況（B1~00）
	2 III区全景（西から）	2 遺物出土状況（C0~C1）
	3 III区全景（北西から）	87（建築材）
図版7	1 III区SD001A・B全景	3 遺物出土状況（C0~C1）
	2 遺物出土状況（C0~92）	86（建築材）
	60（椎）	図版12 1 遺物出土状況（C0~C1）
	3 遺物出土状況（B1~10）	2 IV区全景（東から）
	71（曲げ物）	3 IV区全景（西から）
図版8	1 遺物出土状況（A1~29）	図版13 1 V区SD001
		2 VI区SD001

3	VII区SD001	図版28	木製品 農具 足板
図版14	1 VII区SD001	図版29	木製品 農具 足板
	2 IX区SD001	図版30	木製品 農具 足板
	3 X区SD001	図版31	木製品 農具 足板
図版15	1 XI区SD001	図版32	木製品 農具 足板
	2 沖田地区出土木枠型大足（1） D1-38-001	図版33	木製品 農具 足板
	3 沖田地区出土木枠型大足（2） D1-38-002	図版34	木製品 農具 足板
図版16	出土遺物（土器・陶磁器・石）	図版35	木製品 農具 横木、横板
図版17	出土遺物（土器・錢貨・キセル）	図版36	木製品 農具 横木、横板
図版18	木製品 農具 木枠型大足（1） 縦木、横木、小口板	図版37	木製品 農具 輪カンジキ、足板、槌
図版19	木製品 農具 木枠型大足（2） 縦木、横木、小口板	図版38	木製品 農具 平鋤、曲鋤
図版20	木製品 農具 木枠型大足（3） 足板 木枠型大足（4） くさび	図版39	木製品 農具 有頭状木製品、柄、箸、 木針
図版21	木製品 農具 小口板	図版40	木製品 生活具 曲げ物
図版22	木製品 農具 小口板	図版41	木製品 曲げ物、建築材、竹、えつり
図版23	木製品 農具 小口板、横木	図版42	木製品 建築材 杭、板材
図版24	木製品 農具 横木、四孔田下駄	図版43	木製品 建築材
図版25	木製品 農具 四孔田下駄	図版44	木製品 建築材
図版26	木製品 農具 縦木、足板	図版45	木製品 建築材、板材
図版27	木製品 農具 足板	図版46	木製品 建築材、板材
		図版47	木製品 建築材、板材
		図版48	木製品 建築材、板材
		図版49	木製品顕微鏡写真（1）
		図版50	木製品顕微鏡写真（2）

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

三直中郷遺跡は、千葉県君津市字三直（みのう）に所在している。千葉県南部は東関東自動車道館山線の建設計画を中心として、アクアラインの開通および東関東自動車道（千葉・富津）の開通と、本地域の道路整備事業は近年加速度的に進められている。東関東自動車道の木更津市までの開通は、それ以南の館山自動車道（富津・館山）の建設につながり、周辺地域の道路網の整備が進められている。

三直中郷遺跡は、館山自動車道（富津・館山）の君津ICの予定地に当たり、料金所施設と付属施設は東関東自動車道建設に伴う事業として発掘調査が実施され、君津鴨川線との取り付け道路と現道の道路拡幅工事に伴う発掘調査は別の事業として、同時に平行して実施された。

三直中郷遺跡の範囲は広く、坂ノ下地区、沖田地区、中郷地区の3地区（字）にわたって所在している。調査に当たっては、三直中郷遺跡という同一遺跡を調査の原因により「主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う発掘調査（坂ノ下地区）」と「館山自動車道建設に伴う発掘調査（沖田地区・中郷地区）」の2つの事業で実施されたことから、主要地方道君津鴨川線による調査をその所在する小字名をとって「坂ノ下地区」とし、館山自動車道による調査区を「沖田地区」「中郷地区」とした。ここで報告する坂ノ下地区は、三直中郷遺跡の最も北側に位置し、君津市字坂ノ下799-2を中心とした地区と、現道の「主要地方道君津鴨川線」の現道拡幅工事地区の2か所に分かれている。

発掘調査と整理作業の年度別内容は以下のとおりである。

1 平成11年度（発掘）

調査期間 平成11年10月1日～平成12年3月31日

南部調査事務所長 高田 博

担当 副所長 柴田龍司

事業名 主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査

規模 30,750m²

調査の対象 確認調査 上層 1,241m²/30,750m²

本調査面積 上層 9,354m²/30,750m²

調査成果 遺構 溝跡37条（古墳時代21, 古代9, 中世7）

遺物 繩文土器, 弥生土器, 古墳時代土師器, 奈良・平安時代土師器, 中世陶器,
奈良・平安時代木器

2 平成13年度（整理）

整理期間 平成13年4月2日～平成13年7月31日

南部調査事務所長 高田 博

担当 主席研究員 相京邦彦

事業名 主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査

県単道路改良（幹線）委託（法木作・文化財調査）

作業内容 出土遺物の水洗・注記から実測の一部まで

出土木製品のうち12点の保存処理委託を実施

3 平成14年度（整理）

整理期間 平成14年4月1日～平成14年8月31日

南部調査事務所長 鈴木定明

担当 主席研究員 相京邦彦、上席研究員 安川正行

事業名 主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査

県単道路改良（幹線）委託（法木作・文化財調査）

作業内容 実測の一部から原稿執筆の一部まで

出土木製品のうち6点の保存処理委託を実施

4 平成14年度（整理）

整理期間 平成14年10月1日～15年2月28日

事業名 主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査（公共）

県単道路改良（幹線）委託（法木作・文化財調査）として補助金による委託

南部調査事務所長 鈴木定明

担当 主席研究員 相京邦彦

作業内容 原稿執筆・編集・刊行

第2節 三直中郷遺跡坂ノ下地区の地理的・歴史的環境

上総丘陵愛宕山山系に源を発した小糸川は、上総丘陵での急勾配の流れから急激に解放され、本地域で流れを弱め、両岸に沖積地を形成しながら、東京湾に流入する。三直中郷遺跡の所在する場所は小糸川の流域としては中流に位置し、小糸川によって形成された沖積地と、その後背湿地との間に立地している。調査地はこの沖積地を望む台地裾部から小糸川によって形成された、標高20m前後の自然堤防と、その後背地に形成された標高17mほどの低地部分に営まれている¹⁾。

この地域は近年開発に伴い発掘調査が多数なされており、特に館山自動車道建設により発掘調査された遺跡が多く、環状盛り土遺構の調査された三直貝塚²⁾は北方台地上にあり、また、隣接して踊ヶ作遺跡、練木遺跡が調査されている。踊ヶ作遺跡からは石棺が調査されている。現在その整理作業が続けられている。また、弥生時代中期の環濠集落や埴輪が出土した鹿島台遺跡など多くの遺跡がある。坂ノ下地区から比高にして数メートルの台地先端部に沖込古墳³⁾がある。前方後方形を呈しているが、前方部の溝は明確でない。後世に塚に改変されていたが木棺直葬の主体部からは鉄石英製の管玉を含む玉類が出土した。また、周溝からは有段口縁をもつ壺が、墳丘から転落した状況で出土した。三直中郷遺跡坂ノ下地区的Ⅲ区の端は、これら遺跡の立地する台地の裾部から自然堤防の間に立地している。これらの遺跡は、近々発掘調査報告書が刊行される予定である。

三直中郷遺跡の周辺は、小糸川の後背湿地で、深田ながら長く水田耕作が行われてきた。しかし、近年は場整備等により、昔の面影はほとんど消えている。

古代における本地域では、外箕輪遺跡の発掘調査⁴⁾により篠生衛氏が8世紀代にさかのばる条里制の存在を指摘し、本遺跡の西側で財団法人君津都市文化財センターによる発掘調査⁵⁾が行われ、篠生氏の指摘した条里制区画が、さらに東側にも存在することを確認した。この調査では、多くの木製品の出土がみら



第1図 遺跡の位置図 1:50,000



第2図 周辺の遺跡分布図 1:25,000

れ、畦畔の補強に木製品が再利用されていることが確認された。

三直中郷遺跡の所在する本地域は特に遺跡の集中する地域で、西方約3kmには八重原古墳群と九十九坊廃寺が所在している。また、同じく西南方向約5kmには方形周溝墓や多量の木製品が調査された常代遺跡や道祖神裏古墳が所在している。この間には笠生氏が条里制の存在を指摘した際の基準とした塞神社や八幡神社古墳がある。

参考文献

- 1) 「君津・夷隅・安房地区（改訂版） 千葉県埋蔵文化財分布地図（4）」（財）千葉県文化財センター 2000
- 2) 吉野健一 「三直貝塚」 （財）千葉県文化財センター 年報No.25・26・27 1999～2002
- 3) 加藤修司 「沖込古墳」（研究紀要21号）（財）千葉県文化財センター 2000
- 4) 笠生 衛 「君津市外箕輪遺跡・八幡神社古墳発掘調査報告書」 （財）千葉県文化財センター 1989
- 5) 渡邊祐二 「三直中郷遺跡発掘調査報告書」 （財）君津都市文化財センター 168集 2001

第1表 周辺遺跡一覧

番号	No.	遺跡名	時代	種別	番号	No.	遺跡名	時代	種別
1	478	三重中郷遺跡(坂ノ下)	弥生・奈良・平安	包蔵地	52	368	南子安上の台2号墳	古墳	古墳
2	478	三重中郷遺跡(沖田)	弥生・奈良・平安	既調査	53	371	野馬木本古墳群	古墳	古墳
3	478	三重中郷遺跡(中郷)	弥生・古墳・奈良ほか	既調査	54	373	三重B行人塚群	近世	塚
4	60	三重貝塚	縄文	既調査	55	374	駒木木古墳群	古墳	古墳
5	61	神人塚跡	縄文	既調査	56	375	宇曾呂貝ツツ古墳群	古墳	古墳
6	62	津込遺跡1号墳	古墳	既調査	57	376	法末作古墳群	古墳	古墳
7	62	津込遺跡	中世	既調査	58	377	下新田古墳群	弥生・古墳	包蔵地
8	62	津込遺跡	古墳	既調査	59	378	下新田古墳群	古墳	古墳
9	62	津込古墳群	古墳	既調査	60	379	沖入2号塚	中近世	塚
10	492	津木台遺跡	中世	既調査	61	380	大笠遺跡	縄文早期	包蔵地
11	492	鶴木道跡	縄文・古墳・平安ほか	既調査	62	383	神楽坂古墳	古墳	既調査
12		鶴ケ作遺跡	古代・中世	既調査	63	421	外翼輪遺跡	古墳・奈良・平安・中世	集落跡・古墳・既調査
13	424	三重台古墳	古墳	既調査	64	422	台古墳	古墳	古墳
14	424	三重古墳群	古墳	既調査	65	423	鹿屋敷塚	中近世	塚
15	19	穴谷古墳群	古墳	古墳	66	495	船木道跡	古墳	包蔵地
16	20	守山城遺跡	縄文	包蔵地	67	496	柳山古墳群	古墳	古墳
17	41	子安板遺跡	古墳	包蔵地	68	440	天神台遺跡	古墳・奈良・平安	集落跡
18	42	子安坂古墳	古墳	古墳	69	475	南子金井塚遺跡	縄文早期・古墳後・奈良・平安	集落跡
19	43	上ノ原古墳	古墳	古墳	70	476	九十九坊台遺跡	奈良・平安	既調査
20	44	木瀬遺跡	古墳	包蔵地	71	477	八重東古墳群	古墳	既調査
21	45	木瀬原	中近世	塚	72	63	奥谷横穴	古墳	横穴
22	46	木瀬古墳	古墳	古墳	73	64	大山崎古墳群	古墳	古墳
23	47	九十九坊寺跡	奈良	寺跡跡・既調査	74	49	郡条里遺跡	弥生・奈良・平安	条里跡
24	49	姫尻古跡	縄文・弥生・古墳	集落跡・既調査	75	89	常代遺跡	田器・奈良・平安	集落跡
25	50	草谷上古墳	弥生・古墳ほか	包蔵地・古墳・既調査	76	94	浜子遺跡	古墳	包蔵地
26	51	三重A行人塚	近世	塚	77	95	浜子中谷横穴群	古墳	横穴
27	52	上村台遺跡	縄文・弥生・古墳	集落跡	78	96	浜子横穴群	古墳・中世	横穴・やぐら
28	53	外翼輪上ノ台古墳	古墳	古墳	79	97	浜子古墳	古墳	
29	54	道標神高古墳	古墳	既調査	80	430	開ノ前古墳	弥生・古墳	古墳・集落跡
30	55	八幡神社古墳	古墳	既調査	81	432	日影山横穴	古墳	横穴
31	56	三重城跡	中世	城跡跡	72	433	高間屋遺跡	近世	屋敷跡
32	57	鹿屋敷跡	近世	城跡跡	93	115	萬中谷古墳群	古墳	古墳
33	58	天王台遺跡	弥生・古墳	包蔵地	84	116	奥中谷横穴	中・近世	塚
34	59	沖入塚	中近世	塚	85	117	六手中谷横穴群	古墳	横穴
35	65	梅谷横穴	古墳	横穴	86	118	常代中谷横穴群	吉墳	横穴
36	66	台横穴	古墳	横穴	87	123	難野前古墳	古墳	古墳
37	67	池ノ谷横穴	古墳	横穴	88	124	嵐山古墳	古墳	古墳
38	68	丸堀古墳	古墳	古墳	89	125	嵐山御跡	中世	城跡跡
39	69	いご堀古墳	古墳	古墳	90	126	西山古墳群	古墳	古墳
40	71	寺崎遺跡	古墳	包蔵地	91	127	鳴鳥台古墳群	古墳	古墳
41	111	常代神社古墳	古墳	古墳	92	441	泉道跡	縄文～中世	集落跡・古墳
42	112	常代城跡	中世	城跡跡	93	384	白山裏古墳	古墳	古墳
43	113	川代台遺跡	古墳	包蔵地	94	437	星谷城跡	中世	城跡跡
44	114	八幡神社古墳群	古墳	古墳	95	438	泉南田遺跡	弥生	包蔵地
45	196	絆田遺跡	古墳・奈良・平安	既調査	96	439	泉徹治屋前遺跡	弥生	包蔵地
46	362	南子安遺跡	古墳	集落跡・生糸跡	97	143	竹郷遺跡	古墳	包蔵地
47	363	南子安古墳	古墳	古墳	98	145	鹿東城跡	中世	包蔵地
48	364	下武古墳	古墳	古墳	99	144	上武古墳群	古墳	古墳
49	365	中ノ原古墳	古墳	古墳	100	198	上江古墳	古墳	古墳
50	366	中ノ原2号墳	古墳	古墳	101	191	1ノ原古墳群	古墳	古墳
51	367	南子安上の台1号墳	古墳	古墳					

第3節 調査の概要

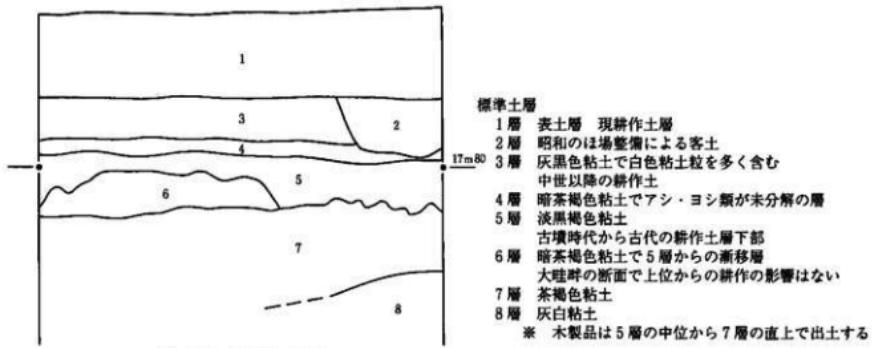
1 基本層序 (第3図)

三直地区では昭和に入ってから全域では場整備が実施されており、今回の調査でも、は場整備に伴って他所から搬入された客土が確認された。一方、調査区の境界の壁からは古代の畦畔の痕跡が確認され、この地域では古代から水田耕作が行われていたことが推定されている。

調査区の土層は基本的には8層まで確認された。これらのうち、現耕作土（1層）とは場整備による客土（2層）が1mほど堆積しており、その下に中世までの耕作土（3層）が堆積している。

木質遺物および木製品は、第5層中位から第7層の直上より出土している。つまり、第5層と第6層が遺物包含層である。第6層は畦畔の構築土であることから、出土した木製品が廃棄された状態で出土したのであれば第5層中からの出土ということができ、畦畔の補強材とすれば第6層からの出土いうことができる。第5層と第7層の間は、巻上り痕跡がみられる。また、後述するが調査によって出土した土器はそのほとんどが第5層を中心とした層からの出土で、この層は古墳時代から古代にかけての耕作土と思われる。このことから、坂ノ下地区においても各時代の畦畔が存在していたものと考えられるが、発掘調査においては畦畔の面的な検出はできなかった。

前述したとおり遺物の出土は少なく、調査区の溝内や表土層下部から出土したのみであった。出土した数少ない遺物は、弥生時代中期の宮ノ台式土器から奈良・平安時代、近世までの土器である。



第3図 標準土層図

標準土層	
1層	表土層 現耕作土層
2層	昭和のは場整備による客土
3層	灰黒色粘土で白色粘土粒を多く含む 中世以降の耕作土
4層	暗茶褐色粘土でアシ・ヨシ類が未分解の層
5層	淡黒褐色粘土 古墳時代から古代の耕作土層下部
6層	暗茶褐色粘土で5層からの漸移層 大畦畔の断面で上位からの耕作の影響はない
7層	茶褐色粘土
8層	灰白粘土
※ 木製品は5層の中位から7層の直上で出土する	

2 発掘調査の方法と経過

三直中郷遺跡坂ノ下地区的発掘調査は、層位的な方法での発掘調査はできなかった。また、面的な調査による同時代性をも確認できる状況ではなかった。

それは、木製品の出土した包含層が薄く、弥生時代中期の土器から中・近世の遺物まで出土するように、各時代の遺物を包含する土層を通して木製品が包蔵されていることからも伺える。

先にふれたように三直中郷遺跡の調査は、同一遺跡を調査の原因・事業者により「君津鴨川線建設に伴う発掘調査（坂ノ下地区）」と「館山自動車道建設に伴う発掘調査（沖田地区・中郷地区）」の2つの事業によって調査した。本報告の三直中郷遺跡坂ノ下地区は、主要地方道君津鴨川線による調査をその所在する小字をとて「坂ノ下地区」としたものである。なお、館山自動車道による調査区は「沖田地区」「中郷地区」として調査を実施した。

調査位置等の混乱を避けるため、三直中郷遺跡全体に一辺20m方眼の大グリッドを設定し調査を進めた。大グリッド内には一辺2mの小グリッドを設定した。グリッドは国家座標を使用している。

グリッドは、東方向へA区から順にB・C・D区を、西方向へⅡA・ⅡB・ⅡC区とした。つまり、A区の西側はⅡA区が接する。また、北から南方向へ向かって1・2・3区とした。西端はⅡM区、東端はG区まで、北は1区の北側を0区とし、0区から11区までが設定できた。

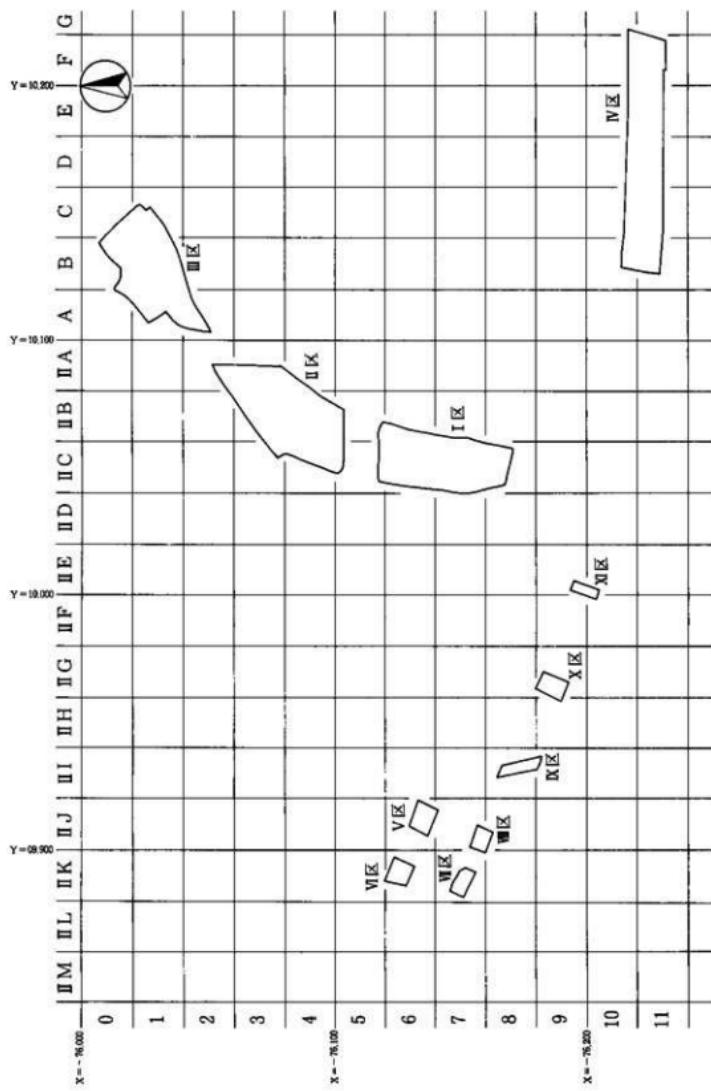
確認調査はT1からT46まで（欠番のトレンチもある）を設定し、遺構および遺物の出土状況を確認した。その結果、11か所から遺構が検出され、拡張し本調査を実施することになった。この11か所の拡張区はⅠ区からⅪ区と命名した。これらのうち特にⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区は他区に比して広く拡張した。

実施したトレンチ遺構番号の付け方として、例えばⅢ区から検出された001B号溝は「ⅢSD001B」と呼称し、遺構名として「○SD○○△」とした。出土した遺物は、各トレンチごと、拡張した区においては、拡張した範囲で個々に番号を付して取り上げた。

調査は、館山自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査区と隣接し、遺物が両区にまたがって出土したところもみられた。この場合は、その多くの部分が属する区・事業にその帰属をさせた。そのため、整理作業段階で調査時点とは帰属が変更になった遺物もあり、混乱を生じた場合もあった。

第4図 遺跡周辺地形図・確認グリッド配置図 1:5,000





第5図 本調査範囲・調査区位置図 1:2.000

3 整理作業の方法と経過

三直中郷遺跡坂ノ下地区の整理作業だけでなく、館山自動車道三直中郷遺跡の発掘作業が実施されている段階で、すでに多量の木製品の取扱いについて、検討を進めてきた。しかしながら、多量の木質遺物・木製品の処理および報告書の刊行までどのように保管すべきかなど、明確な方向性を出せないまま調査を進めざるを得なかった。

発掘調査の段階においては、木製品の保存処理を実施できる機関は限られており、また、どの範囲まで、どの遺物を保存修復するのか、試行錯誤の時期であった。最終的には、事業費には必要最低限の保存処理費を計上し、他の多くの遺物は当センター整理課でPEG処理を実施した。

(1) 調査後の仮処理方法

発掘調査現場では乾燥を避けるようにし、時々水分を供給するとともに、出土した木製品に晒し（さらし）を掛け乾燥を防いだ。その後、事務所に運搬し、整理箱に収納したのち、事務所倉庫で保管した。長さ約2m以上の大形遺物は市原調査事務所のコンクリート製水槽に水漬けし、小型品は木更津調査事務所に運搬し収納した。事務所ではまず簡単に水洗いを行い、泥・ゴミ等を洗い落とし、整理箱内に「ホクサイト」溶液を満し、冷暗場所に保管した。その後、小型遺物は「ホクサイト」溶液を満たしたシールパックを施した。

「ホクサイト」を満たしたシールパックの問題点として、シールパック内の溶液が腐敗し、変色したものがある。木製品の質変は認められないが、決して好ましくはない。また、「ホクサイト」は有害物質で、素手で取扱いはできない。その上、使用済み溶液を野外に廃棄することは環境汚濁になり、結局ポリタンクに保管し、下水道に流すしかない。

最近のこの種の保管は、水道水による水漬けが作業効率上においても、整理作業員の健康面からも最適と考えられているようである。水道水の腐敗を防ぐため商品名「風呂水ワンダー」を入れることにより、水の腐敗は防げるようであり、最良の方法と思われる。

(2) 保存処理

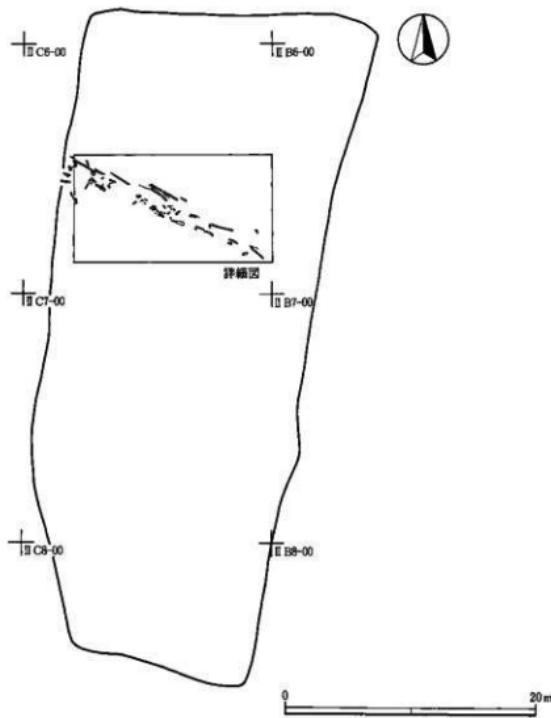
保存修復処理は当センター資料部整理課が行ったが、PEG水槽の大きさの制約と将来の展示資料としての理由から、凍結乾燥方式によるPEG処理を（株）東都文化財保存研究所に委託した。

第2章 坂ノ下地区の各区の様相

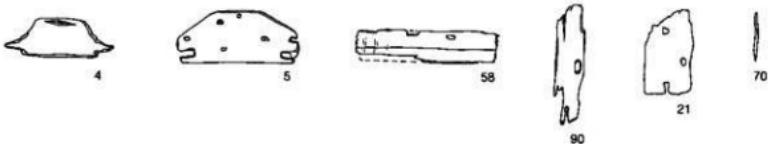
第1節 I区の概要(第5~7・26図)

I区からは遺構の検出はなかったが、調査区の中央やや北位置に、斜め方向に自然木や木製品の割り木が列状に出土した。出土状況から畦畔の補強用のものと推定される。流路の可能性もあるが、畦畔の補強用の木製品と断定した。君津都市文化財センターの調査による第3号畦畔が、この木製品の出土方位には一一致し、また、後述するように条里制の区割りに乗っていることから、畦畔と思われる。

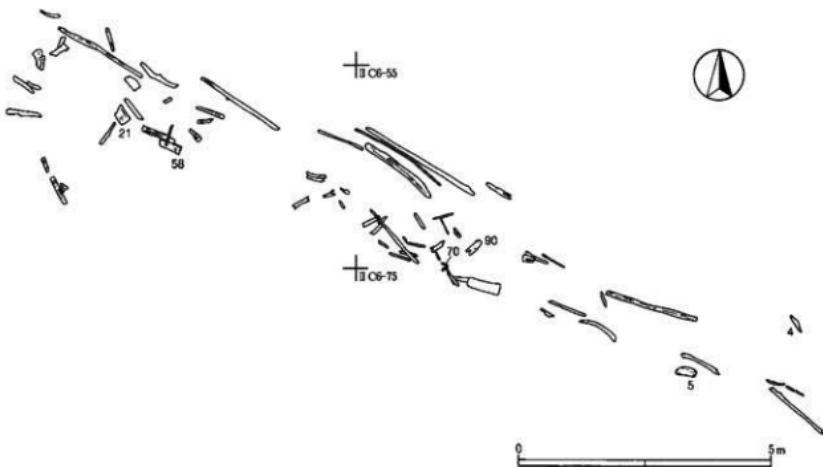
I区では5点の木製品を図化した。1・2は箱形の大足の小口板で、足板が小口の上部に付くタイプである。3・4は輪カンジキの横板と思われるが、明確な根拠はない。5は足板と思われる。これらの部材からは1組の木枠型大足が組みあがり、本来は組み合わされていたことになる。



第6図 I区遺物出土分布図



第7図 I区出土木製品

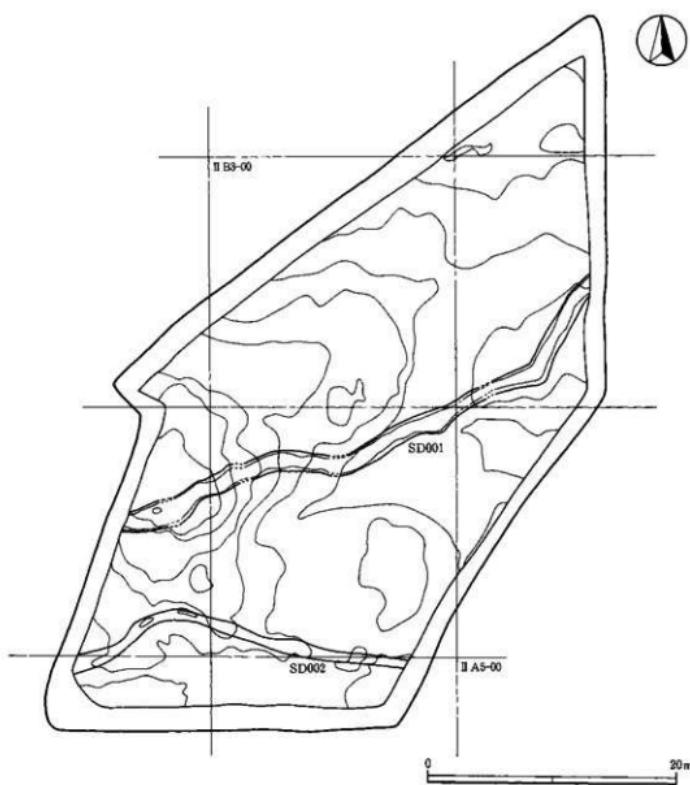


第8図 I区遺物出土詳細図

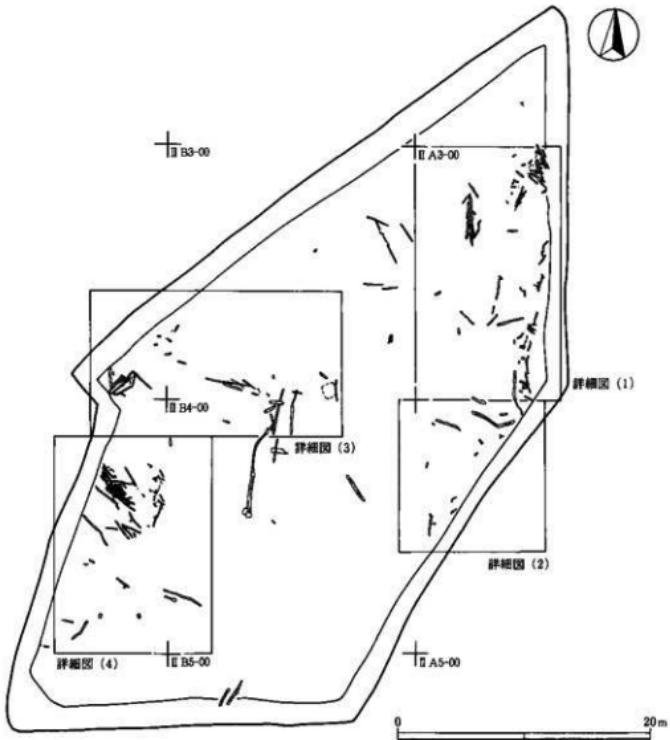
第2節 II区の概要（第5・9～11・26図）

II C 4・37・38からは木枠型大足が出土した。木枠型大足の出土した下位からは、板材や柄状木製品や自然木などが、ほぼ同じ方向を向いて出土しており、畦畔の補強のためと思われる。

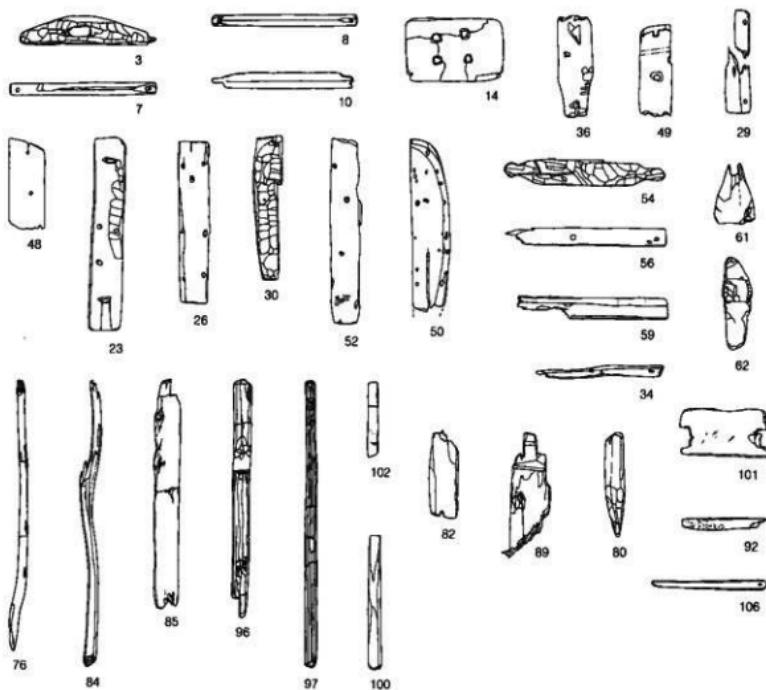
II区からは33点の木製品が図化できた。1は木枠型大足の小口板。2・3・4は木枠型大足の横木で、2・3は両端にほぞ穴のあるタイプ、4は両端がほぞになるタイプである。5は縦木と思われる。6・8は輪カンジキの横板で、7も輪カンジキの横木と思われる。このことから、本区でも木枠型大足と輪カンジキの両者が同時に使用されていたことがわかる。9は数少ない四孔田下駄で、ほぼ完形である。足代のないタイプで、時期的には古墳時代後期から古代と推定される。10～18は輪カンジキの足板と思われるものである。10・16はカキゾコ底板の転用である。19は鉄形木製品で直柄平鍬であり、本遺跡からは唯1点の出土遺物である。20は曲柄の二叉鍬であり、向かって左側を欠損する。本区からも、木枠型大足と輪カンジキの出土がみられる。また、農具として19・20がみられる。本区の遺物出土状況は、溝状遺構検出面から弥生時代中期宮ノ台式土器の壺底部の破片が出土している。



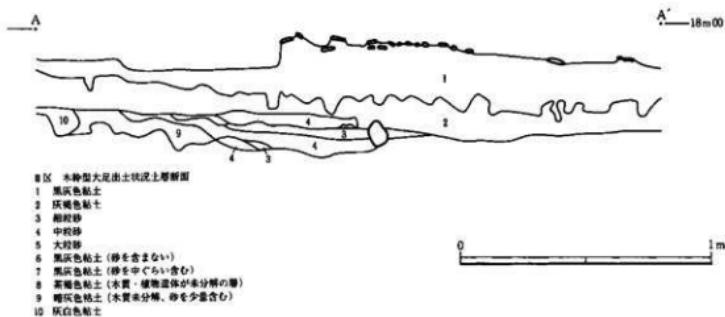
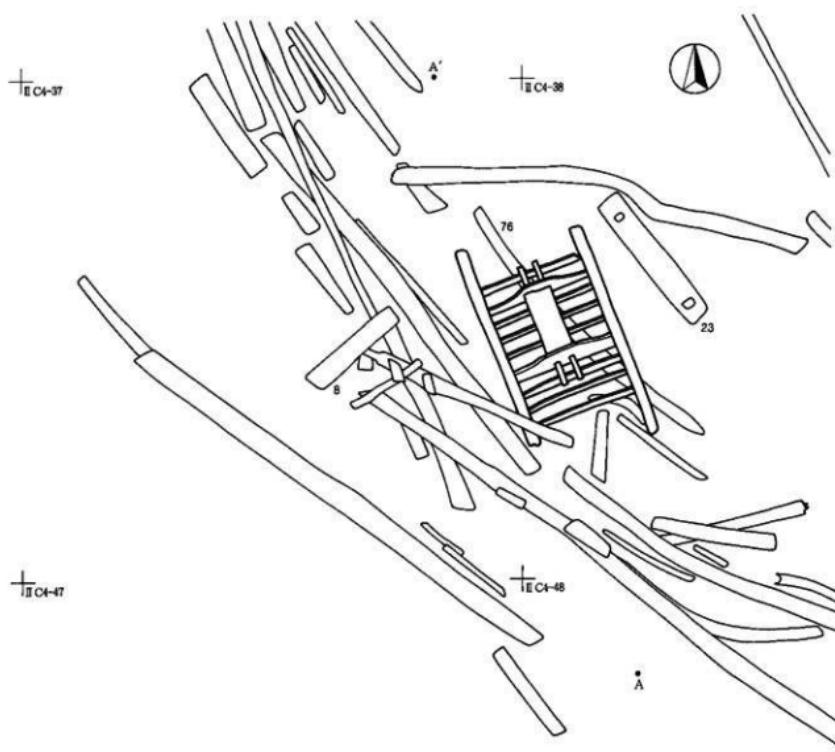
第9図 II区遺構検出図 (SD001、SD002)・遺構検出面測量図



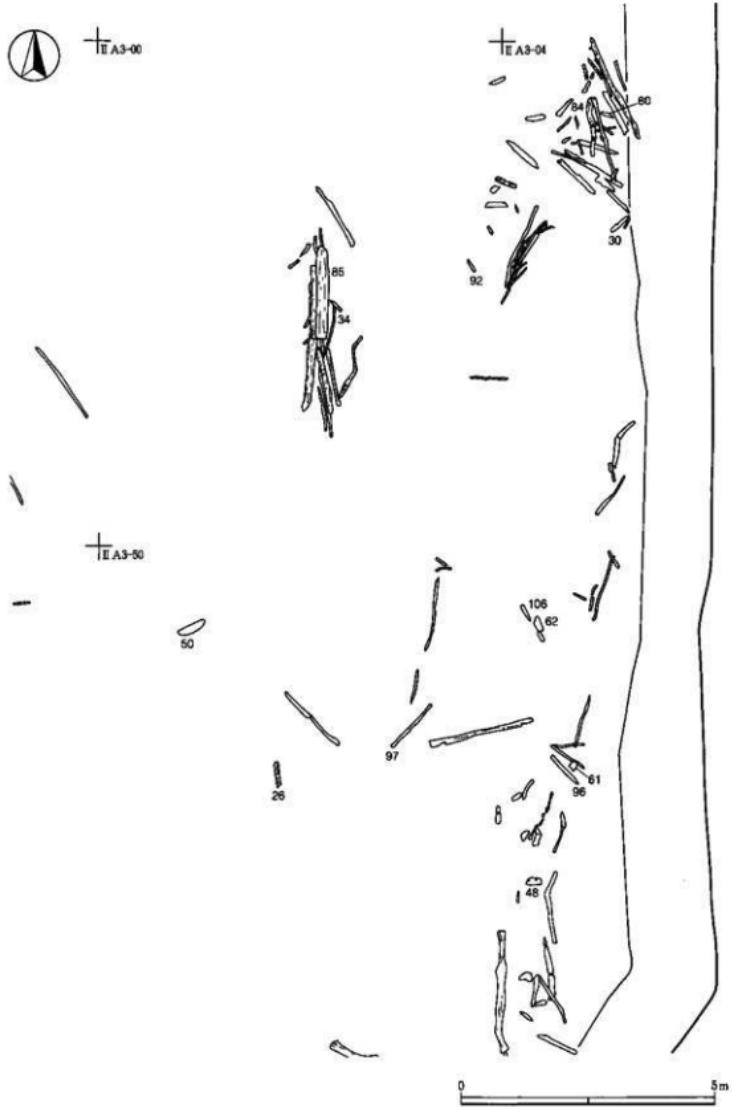
第10図 II区遺物出土分布図



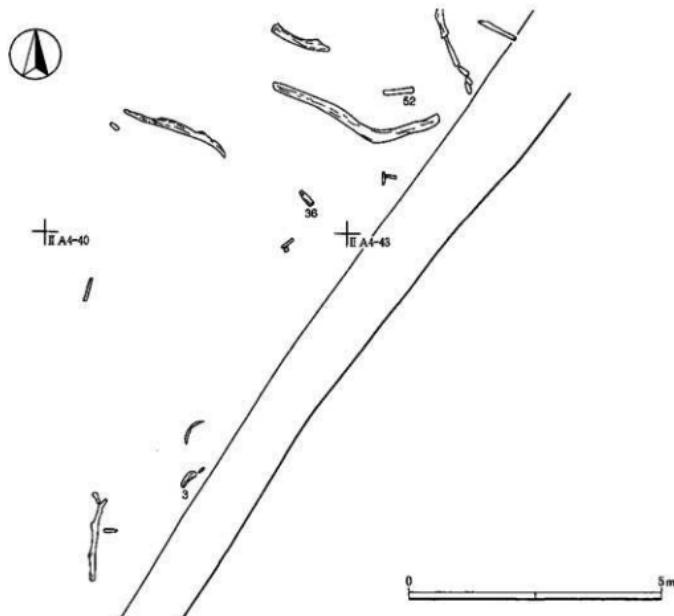
第11図 II区出土木製品



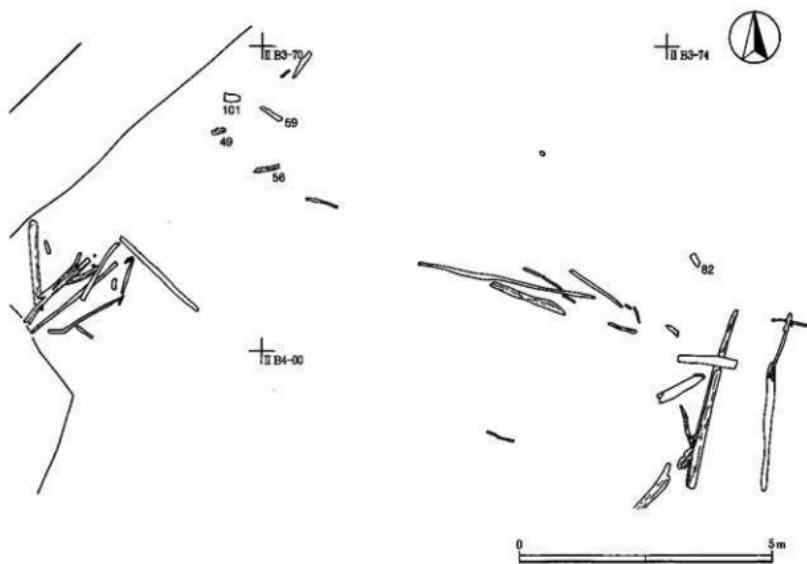
第12図 II区木枠型大足出土詳細図



第13図 II区遺物出土詳細図(1)



第14図 II区遺物出土詳細図(2)



第15図 II区遺物出土詳細図(3)



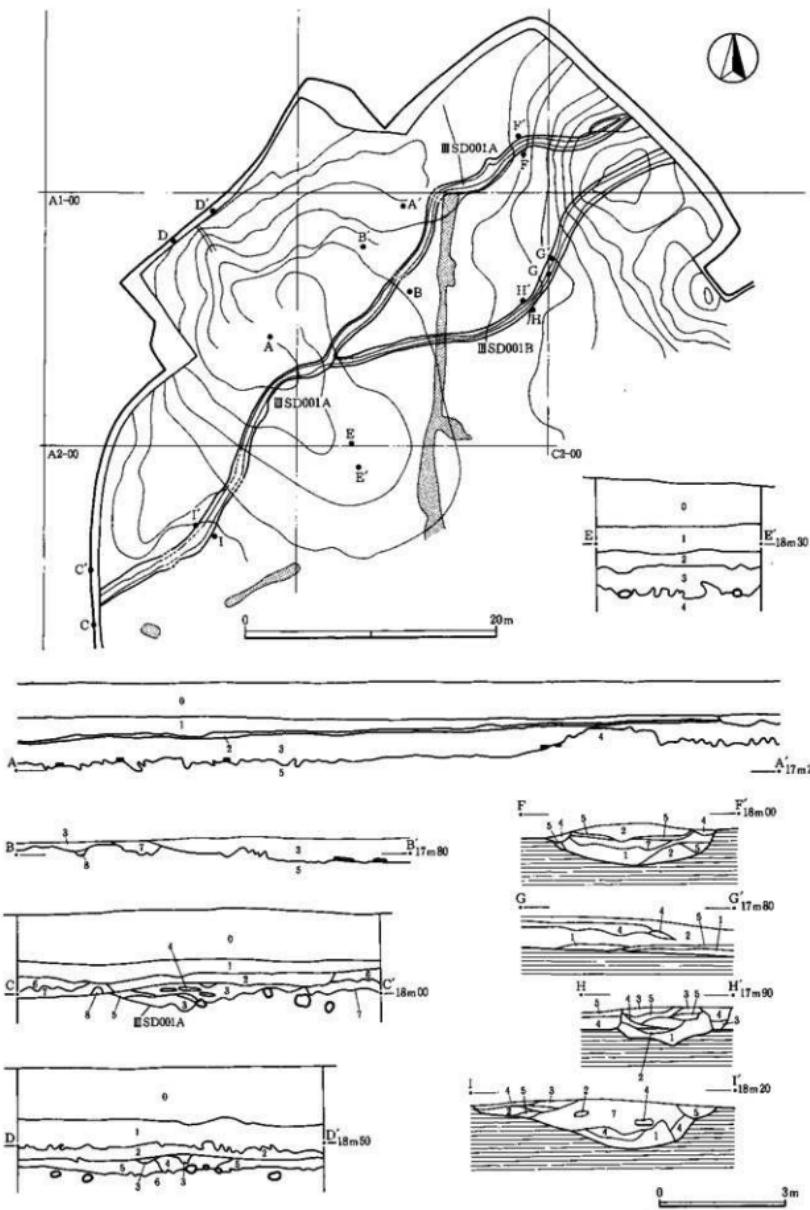
第16図 II区遺物出土詳細図(4)

第3節 III区の概要（第17~19・26図）

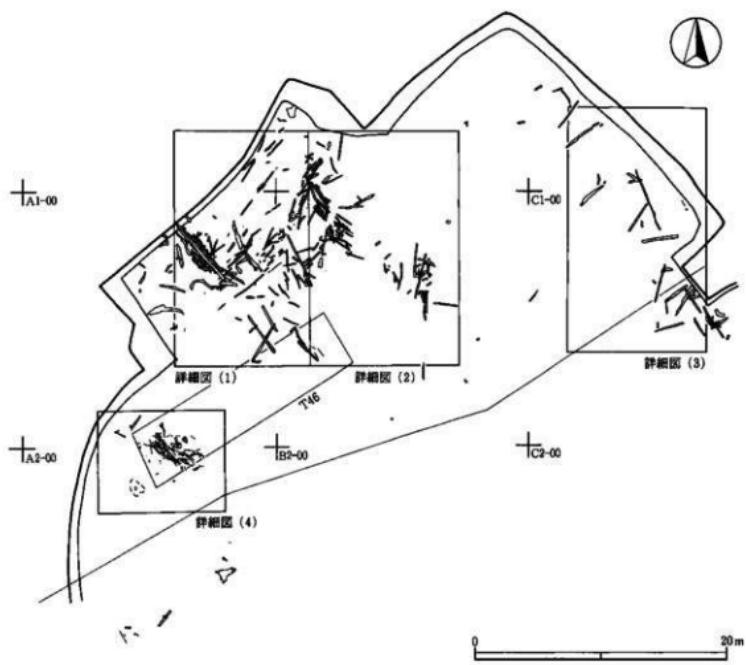
最も多くの木製品が出土した地区である。確認調査実施時の確認トレンチT46はこのIII区内に所在している。検出された遺構は溝が2条で、ⅢSD001AとⅢSD001Bである。ⅢSD001AにⅢSD001Bが途中で流入している。溝の覆土は流路である堆積状態を示している。遺物は弥生土器および土師器である。弥生土器は中期の宮ノ台式土器片であり、土師器は表面が磨滅している。

III区からは、坂ノ下地区で唯一の畦畔が確認された。2方向の畦畔があり、ひとつはほぼ南北方向に、もうひとつは東北から西南へ軸線をとっている。I区で確認された畦畔と軸線は一致せず、同一企画の畦畔ではないと考えられる。遺構・遺物の検出面および遺物出土面のコンター測量を実施したが（第17図上）、全域のコンター線が整合せず、標高の標示はできなかった。しかしこの図面から、北西にかけて検出面の傾斜がみられ、木製品の出土状況（第18図）と併せて検討すると、III区出土の木製品は北西の方向へ向かって流れ込んでいる様子が伺える。しかし、III区出土の木製品の全てが自然の流路からの出土ということはできない。それは、木製品同士がお互いに直行する状態で出土している所も数多くあり、単純に流れてきたものがそのまま埋まって出土したとは考えにくい。木製品の内容は、多種多様なものが出土している。農具をはじめとして、建築材、生活用具が出土していることである。これは、坂ノ下地区という狭い範囲でありながら、これらの木製品がここに集まっているという必然性、つまり、このIII区の流路の近くに生活の本拠地があることが伺えるからである。

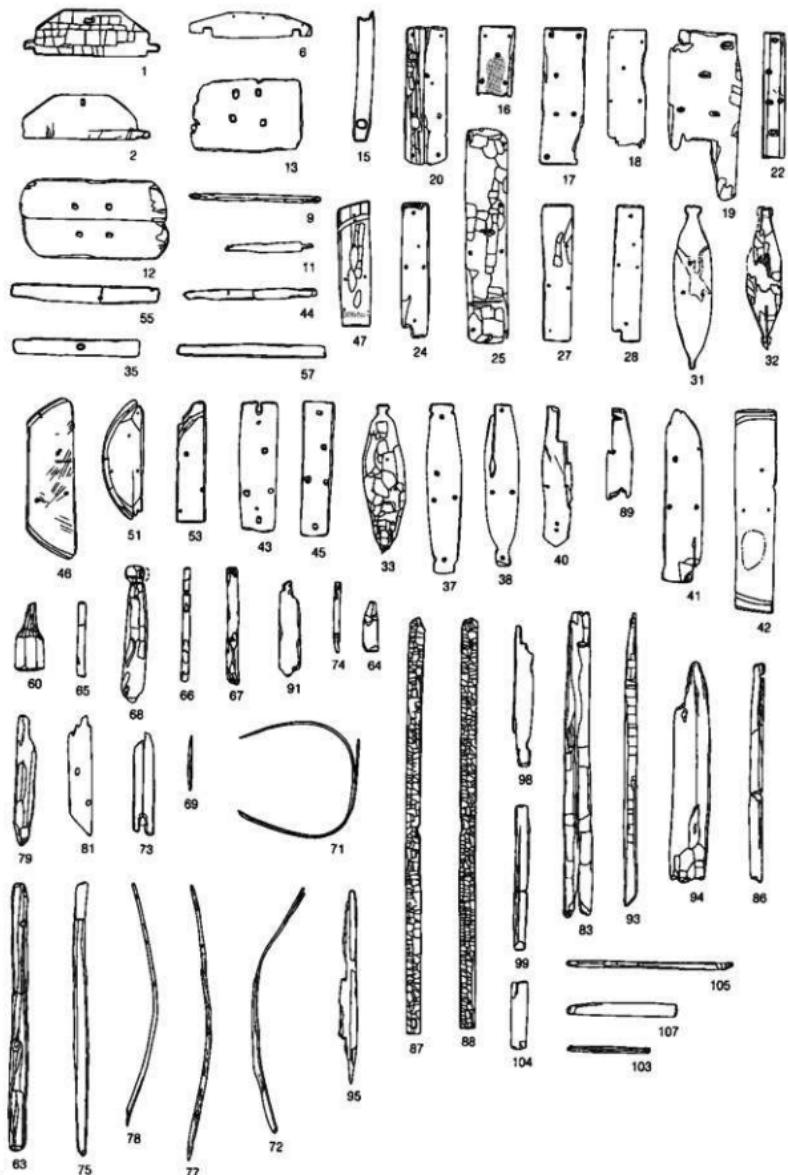
III区 土層断面		S P D - D'
SPA-A', B-B'		
0層 は場整備による客土		0層 は場整備による客土
1層 灰黒色粘土層 白色粘土粒を多く含む		1層 黒色粘土層
2層 暗褐色粘土層 植物遺体の未分解層		2層 暗茶褐色粘土層 白色・黄色粒を若干含む
3層 淡黒褐色粘土層 古墳時代～古代の耕作土		3層 黑灰色粘土層
4層 暗茶褐色粘土層 大畦畔の断面		4層 暗茶褐色粘土層 植物遺体を含む
5層 黒褐色粘土層		5層 茶褐色粘土層 植物遺体を多く含む
6層 灰白色粘土層		6層 茶褐色粘土層 植物遺体の未分解層
7層 青灰色砂層 暗茶褐色粘土が帯状に入る		
8層 青灰色砂ブロック		
木製品は3層中位から5層直上から出土		
SPC-C'		S P E - E'
0層 は場整備による客土		0層 は場整備による客土
1層 黒色粘土層		1層 黒色粘土層 貢灰色粘土粒を多量に含む
2層 細粒砂層		2層 黑褐色粘土層
3層 細粒砂層 黑灰色粘土を含む		3層 暗茶褐色粘土層 植物遺体を多く含む
4層 大粒砂層		4層 茶褐色粘土層 S P D - D' 6層と同一層か？
5層 暗茶褐色土層 植物遺体を少し含む		
6層 茶褐色土層 植物遺体を中くらい含む		
7層 黑褐色土層		
8層 明茶褐色土層 植物遺体を多く含む		
S P F - F', G - G B', H - H', I - I'		
		1層 青灰色層 細粒砂層で黄化する
		2層 青灰色層 中粒砂層で黄化する
		3層 青灰色層 大粒砂層で黄化する
		4層 黑灰色粘土層 砂を含まない
		5層 黑灰色粘土層 細粒砂を中含む
		6層 茶褐色粘土層 植物遺体の未分解層
		7層 青灰色砂層 暗茶褐色粘土を層状に含む



第17図 III区遺構配置図・遺構検出面測量図・土層断面図・畦畔検出図



第18図 III区遺物出土分布図



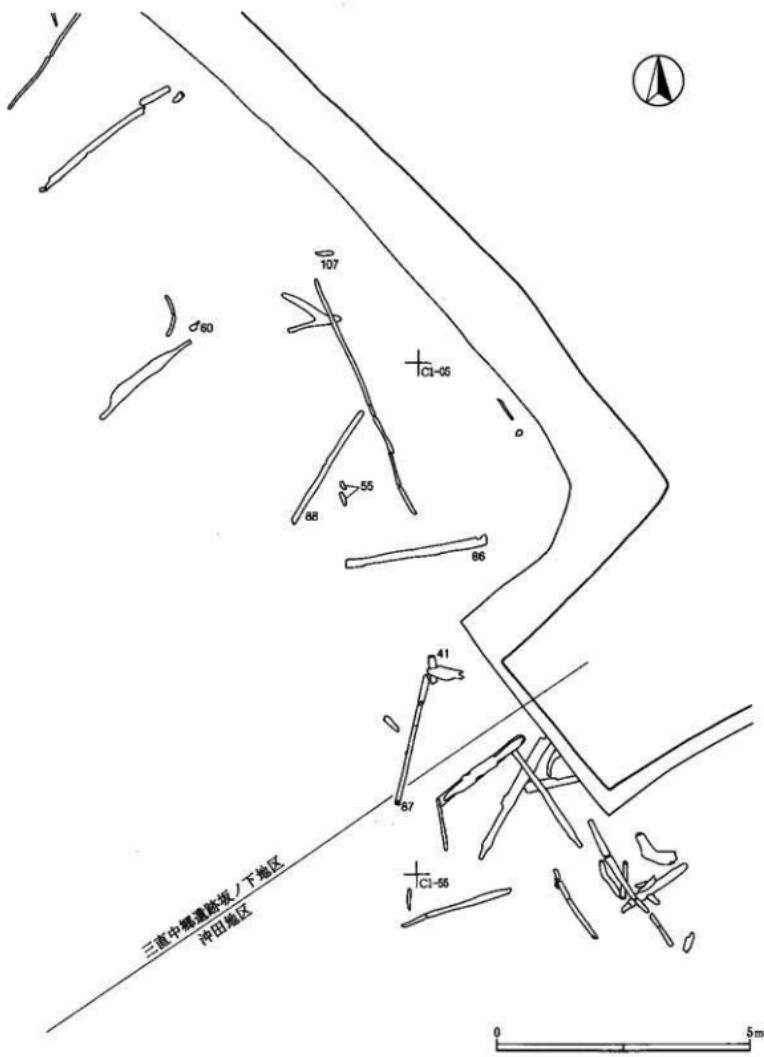
第19図 III区出土木製品



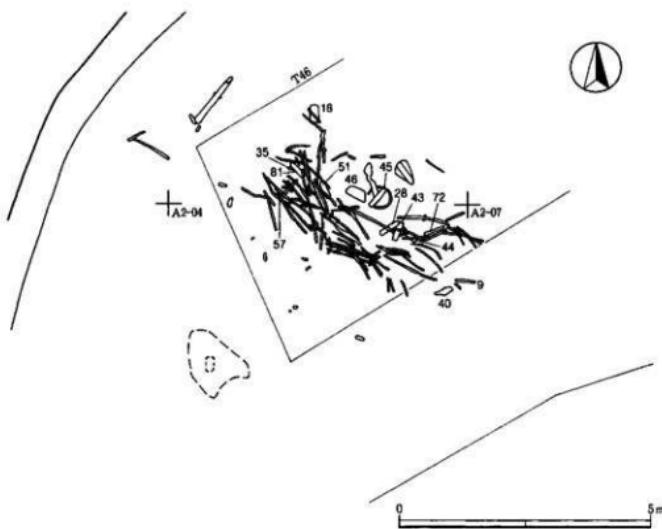
第20図 III区遺物出土詳細図（1）



第21図 III区遺物出土詳細図 (2)



第22図 Ⅲ区遺物出土詳細図 (3)



第23図 III区遺物出土詳細図（4）

第4節 その他の区の概要

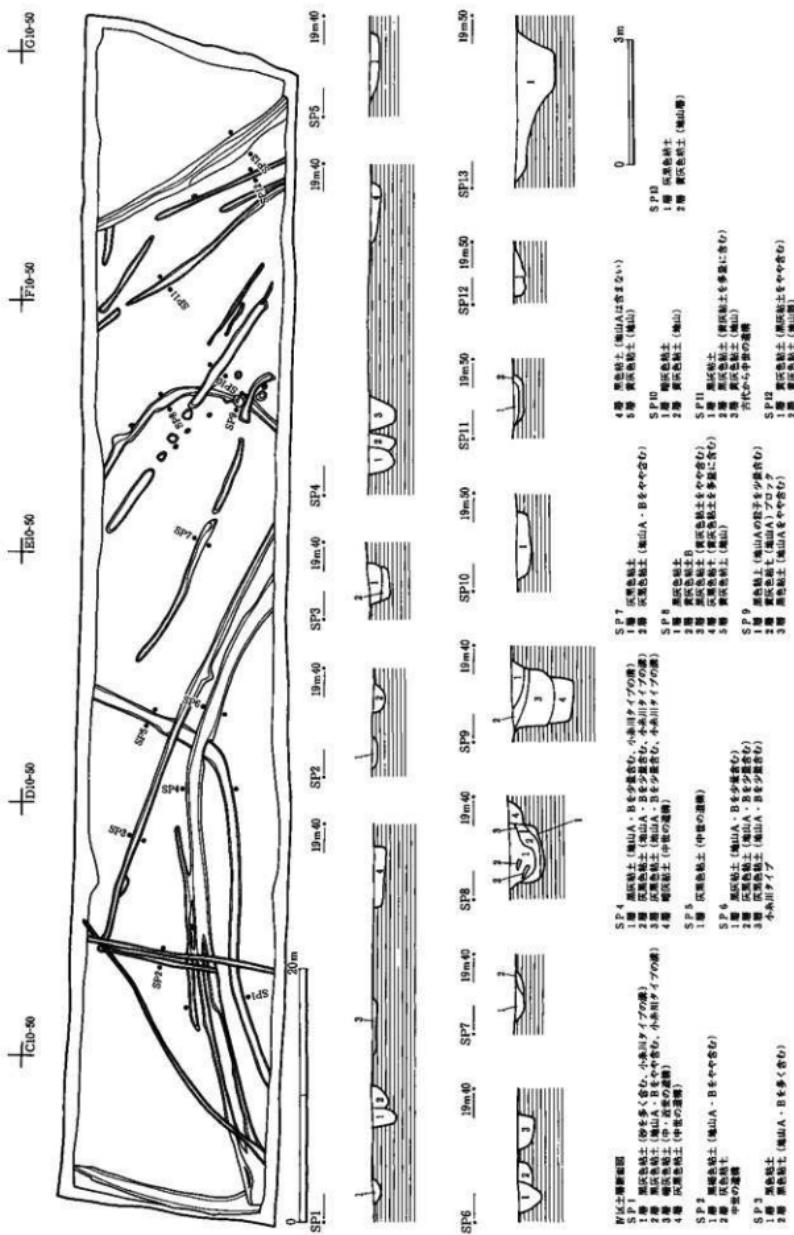
1 IV区の概要（第24・26図、図版12）

主要地方道君津鴨川線に沿って拡張された調査区である。遺構は溝状遺構のみで、溝の方位に企画性はみられない。調査区の中央部の溝は、その方位はI区で調査された木製品の出土方向に近いが、同一の企画による条里制に伴う遺構とは考えられない。検出された溝は、断面形状からいわゆる小糸川タイプの溝と推定でき、出土した遺物から古墳時代から古代の遺構と推定される。

2 V区の概要（第25・26図、図版13）

V区では溝が2条調査された。VSD001AとVSD001Bの2条で、VSD001Aが新しく、VSD001Bが古い。001Aは幅が広く、深さは浅い。覆土は2層に分けられ、単純な堆積をしている。一方、001Bは2層に分けられ、001Aに比べて深く、幅は狭い。このことから、001Bは本地域でみられる小糸川タイプの溝と思われる。VSD001Bの検出面で中世陶器と古銭が出土している。

古銭は7点出土しており、判読できる2点は両者とも渡来銭で、「皇宋通寶」と「至元通寶」である。このことから、VSD001AとVSD001Bは両者とも中世の遺構と推定され、近くに当該期の聚落があったことが推定される。出土遺物は図化できるものはなかったが、SD001確認面からキセル（第27図）が出土した。



第24図 IV区透構検出図・土層断面図

3 VI区の概要（第25・26図、図版13）

VI区では溝が4条調査され、4条とも並行して検出された。出土遺物はないが、溝が4条とも並行していること、また断面および覆土の状況から、本地域でみられる小糸川タイプの溝と推定される。遺物のうち土器は小破片のみで、図化できなかった。S D 0 0 1 の覆土からキセルが出土している。

4 VII区の概要（第25図、図版13）

VII区では溝が3条調査された。この区の溝も並行しており、本地域でみられる小糸川タイプの溝と思われる。遺物の出土は小破片のみで、図化できなかった。

5 VIII区の概要（第25図、図版13）

VIII区では溝が2条調査された。1本の溝に沿った状態で他の溝がみられる。この状況は、VI・VII区にみられる小糸川タイプの溝のあり方と同様である。遺物の出土は小破片のみで、図化できなかった。

6 IX区の概要（第25図、図版13）

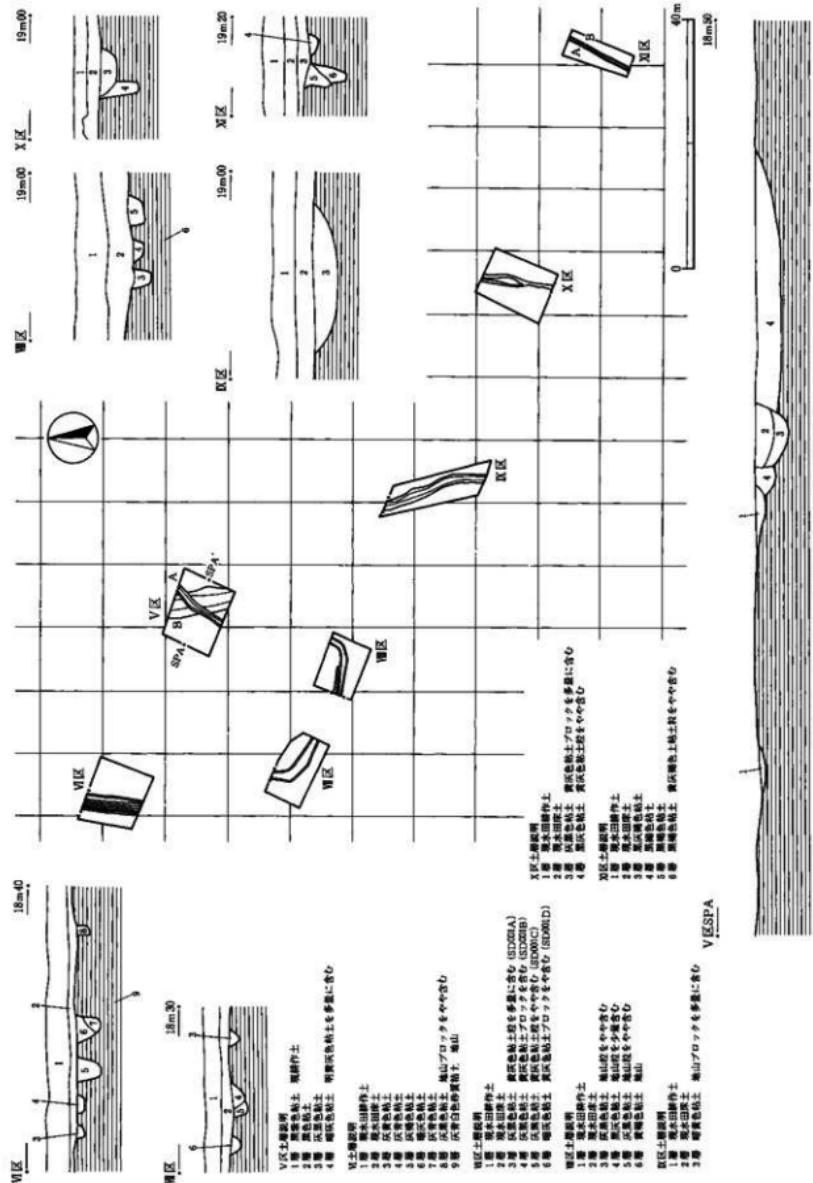
IX区では溝が1条調査された。溝は1条のみで、覆土も単純で1層のみである。覆土は地山のブロックを多く含んでいる。こらのことから、調査担当者は中世の所産と推定している。出土遺物は小破片のみで、図化できなかった。

7 X区の概要（第25図、図版13）

X区では2条の溝が検出された。X S D 0 0 1 AとX S D 0 0 1 Bで、X S D 0 0 1 Bが古く、X S D 0 0 1 Aが新しい。調査担当者は、その覆土の色調等からX S D 0 0 1 Aは中世、X S D 0 0 1 Bは古代の所産と推定している。いわゆる小糸川タイプの溝と思われる。出土遺物は小破片で、図化できなかった。

8 XI区の概要（第25図、図版13）

XI区では2条の溝が検出されたが、ほぼ並行している。X I S D 0 0 1 AとX I S D 0 0 1 Bで、調査担当者は、その覆土の色調等からX I S D 0 0 1 Aは中世、X I S D 0 0 1 Bは古代の所産と推定している。いわゆる小糸川タイプの溝と思われる。出土遺物は小破片で、図化できなかった。



第25图 V~IX区遭检出图·土层断面图

第3章 出土遺物

木製品と伴出した遺物は、弥生時代中期の官ノ台式土器から奈良・平安時代の土器までと長期にわたっている。器面全体が摩滅しており、調整痕は明瞭でない。ここでは器形のわかるものを掲載した。

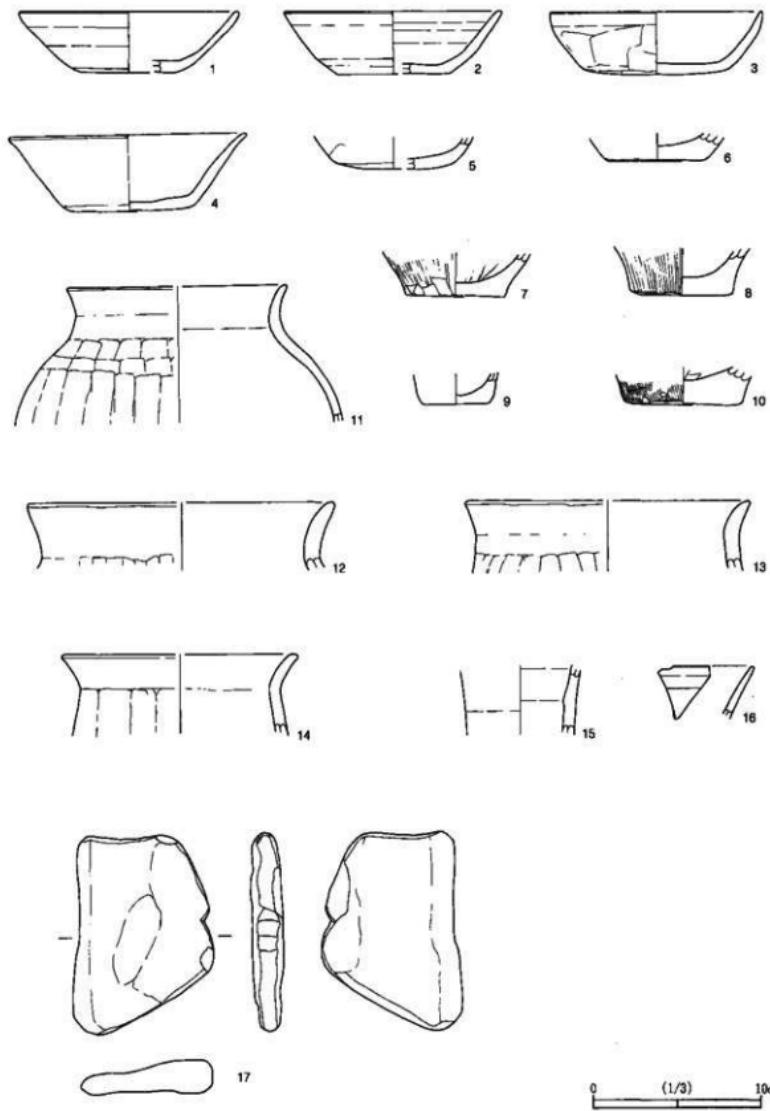
1 土器（第26・27図、第2表、図版16・17）

I 区からは第26図1～5が出土した。すべて土師器片である。1は底部を欠損するが、ほぼ完形である。底部周辺はヘラ削りを施し、胎土は密で橙色粒子を含む。焼成は普通。全体に摩滅しているが、9世紀前半代と思われる。2は底部を欠損する壺形土器で、底部周囲は手持ちヘラ削りを施す。全体に摩滅しているが、8世紀前半から中頃と考えられる。3は1/3を残存する壺形土器で、外面はヘラ削りを施す。焼成は良好で、橙色を呈する。全体に摩滅しているが、8世紀前半から第3四半期と考えられる。5とはほぼ同時期と思われる。底部周囲にはヘラ削りを施す。4は体部の1/2を欠損するが、底部はほぼ残存する。回転ヘラ切りで、底部周囲を後に調整する。9世紀後半頃と考えられる。1と同時期頃と思われる。5は土師器底部片である。全体に摩滅している。

第2表 出土遺物観察表

() は残存量

件番番号	器 形	区	遺物番号	口径	器高	底径	特 徴	焼成	備 考
第26図 1	土師器 壺、底部を欠損	I	10	12.8	3.7	5.5	緻密	良好	褐色、茶色
2	土師器 壺	I	37-38-50	12.8	3.9	6.6	普通	良好	赤褐色
3	土師器 壺	I	6-7-8-12	12.4	3.8	6.6	緻密	良好	褐色、茶色
4	土師器 壺	I	19-61-62	13.8	4.5	6.8	やや粗い	普通	赤褐色
5	土師器 壺、裏面一部欠損	I	16-40-58-60	(1.95)	3.6	普通		普通	肌色
6 弥生	底盤片	II	101	(1.7)	8.8		粗く、砂粒を多く含む	普通	灰白色
7 弥生	底盤片	II	192	(2.6)	3.9		砂粒を多く含む	普通	外表面褐色、内面灰褐色
8 弥生	底盤片	II	1	(2.7)	5.9		外表面ハケ調査	普通	
9 弥生	底盤片	II	55	(2.8)	9.6			普通	
10 土師器 壺	II	235	6.8	(2.3)		緻密	良好	外表面黒色、内面は暗褐色	
11 土師器 壺	II	27	12.8	(8.1)		緻密・砂粒を含む	普通	黄色っぽい肌色	
12 土師器 壺	II	131	17.8	(4)		長石粒を含み粒子は粗い	普通	両面肌色	
13 土師器 壺	II	48	16.7	(4.5)		大きめの砂粒を含む	普通	黒褐色	
14 土師器 壺	II	47-49	13.6	(4.7)			普通	暗褐色	
15 鐵戸瓦軸 環状片	IV	46						良好	
16 中国青磁 口縁部片	IV	3						良好	14-15世紀か？
17 石	II	1							
第27図 1	弥生	口縁部片	II	2				普通	
2	弥生	口縁部片	II	201				普通	
3	弥生	口縁部片	II	160				普通	
4	弥生	口縁部片	II	123-128			折返し口縁、粒子は粗い	普通	
5	弥生	口縁部片	II	248			口縁下に孔がある	普通	
6	弥生	口縁部片	II	174			口縁部に鈍文	普通	
7	弥生	胴部片	II	197				普通	
8	弥生	胴部片	II	225				普通	
9	弥生	胴部片	II	180				普通	
10	弥生	胴部片	II	254				普通	
11	弥生	胴部片	II	203				普通	
12	弥生	胴部片	II	224				普通	
13	弥生	胴部片	II					普通	
14	弥生	胴部片	II	177				普通	
15	弥生	胴部片	II	176				普通	
16	弥生	胴部片	II	258				普通	
17	瓦	平瓦片	II	195				普通	
18	鐵戸尖端 底盤片	IV	12				鐵戸尖端底盤片	良好	大盛期15世紀か？
9 キセル	吸い口	VI	001	1.1			長さ9.0cm		
10 キセル	吸い口	V	004	0.8			長さ7.3cm		



第26図 遺物実測図(1) 土器・陶磁器・石

Ⅱ区からは第26図8・9と17の石が出土した。8・9はともに弥生土器の底部片である。8は外面にハケメがみられる。9の外面は摩滅して不明。両者とも弥生時代中期の宮ノ台式土器と考えられる。

Ⅲ区からは第26図6・7・10・11~14が出土した。6は土師器底部片で、色調は灰白色をしている。弥生時代中期の宮ノ台式期のものと考えられる。7・10は弥生土器の底部片で、外面はハケメがみられる。弥生時代中期の宮ノ台式期の所産と考えられる。11は土師器壺形土器で、胴部下半を欠損する。外面は縦ヘラ削り、口縁部は横ナデで調整である。胎土は密で、茶褐色粒を含む。12は土師器壺形土器で、口縁部の1/6が残存し、頸部以下を欠損する。胎土は粗く、長石粒を多く含む。焼成は普通。13は土師器壺形土器で、口縁部の1/6が残存し、胴部上位以下を欠損する。胎土は粗く、砂粒を多く含む。14は土師器壺形土器で、頸部以下を欠損する。胎土は長石粒と砂粒を多く含む。焼成は普通で、暗褐色を呈する。

第27図1~16は弥生土器片の拓影で、すべてⅢ区から出土した。1~6は口縁の破片である。1は内外面ともに細かなハケ調整を施しており、口端部は面取りしている。2・3は口唇部に押圧が施される。4は折返し口縁であるが、幅は狭い。5は口縁に焼成後の孔が1孔みられる。6は口唇部に繩文が施される。7~10・13・15は胴部破片で、沈線によって区画された中に繩文が施される。11・12・14は細かな刷毛状具によるハケメがみられる。8・9は同一個体の破片と思われる。

第26図15・16と第27図18はIV区から出土した細片の陶磁器である。15は瀬戸焼の灰釉陶器片で、頸部の一部が残存する。16は中国青磁片で、14世紀ないし15世紀と推定される。18は瀬戸美濃窯の鉄釉拂り鉢で大窓期と推定され、16世紀頃と考えられる。

1 その他の遺物

石（第26図17、第2表、図版16）

全体に使用痕がみられ、摩滅している。用途は不明である。

瓦（第27図17、第2表、図版16）

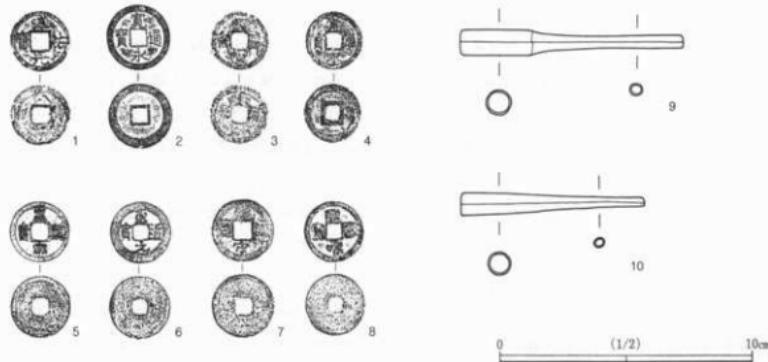
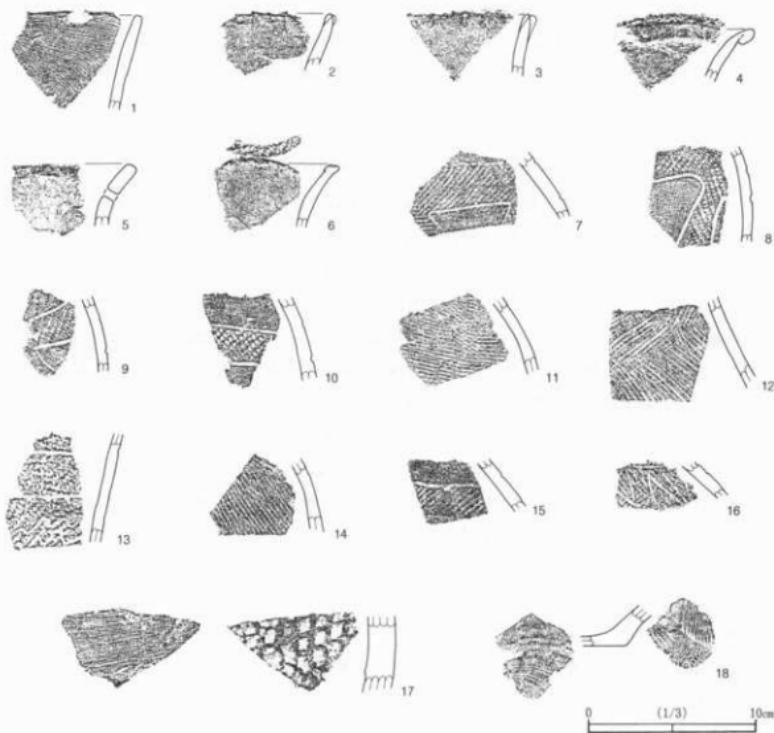
瓦片が1片出土した。平瓦片で、灰青色を呈する。四角形の叩き目と布目痕がみられる。両面ともに磨滅している。胎土は緻密である。

銭貨（第27図下段1~9、第3表、図版17）

古銭が全部で9点出土した。2点は確認トレンチの調査時に、7点はV区の本調査時に出土している。これらのうち、伴出遭構が明確なのはV区から出土した7点で、確認トレンチ時の2点はトレンチ内覆土からの出土である。1はT15から出土した古銭で、「〇〇元寶」と確認できる。法量は第3表のとおりである。2はT42から出土した古銭で、「寛永通宝」である。法量は第3表のとおりである。3~9はV区のSD001A・Bの覆土からの出土である。3・4・7~9は古銭名は不明であるが、法量は第3表のとおりである。5は「皇宋通寶」で、法量は第3表のとおりである。6は「至元通寶」で、法量は第3表のとおりである。9は脆く、拓影図はとれず写真のみ掲載した。

キセル（第27図9・10、第2表、図版17）

キセルが2点出土した。1・2ともに煙管吸口部で、1はVI区のSD001の確認面からの出土で、暗青灰色を呈する。耕作面の最下層からの出土である。遺物番号は001である。長さ9.8cmを計る。2はV区の同じくSD001の確認面から出土し、暗青灰色を呈する。遺物番号は004である。長さ7.3cmを計る。



第27図 遺物実測図(2) 土器・錢貨・キセル

第3表 出土錢貨計測表

区	遺構番号	遺物番号	銭名	A	B	C	D	重量(g)	備考
1	T15	—	○○元寶	23.8	23.8	20.3	20.6	2.53	
2	T42	—	寛永通寶	25.5	25.6	20.8	20.6	2.66	
3	V区	SD-001A・B	5 不明	22.6	22.2	20.4	20.4	1.70	
4	V区	SD-001A・B	5 不明	22.7	22.7	19.5	19.5	2.27	
5	V区	SD-001A・B	5 皇宋通寶	24.0	23.9	21.1	21.1	2.75	
6	V区	SD-001A・B	5 至元通寶	24.7	24.7	18.3	18.3	3.06	
7	V区	SD-001A・B	5 不明	24.7	25.0	21.4	21.4	3.59	
8	V区	SD-001A・B	5 不明	24.7	25.1	20.0	21.1	3.79	
9	V区	SD-001A・B	7 不明	—	—	—	—	2.11	

第4章 木質遺物・木製品

第1節 出土状況

坂ノ下地区の木製品の出土状況は、単純なものではなく、幾通りかの理由が考えられる。木製品の多くが畦畔の補強用として再利用されて出土したものと、畦畔の近くに廃棄されたと思われる状態で出土したもの、それに、自然流路に流れついた状態で出土したものの3者が考えられた。

畦畔の補強用とされたものは、その出土状況が畦畔とほぼ同じ軸方向で出土している。また、適當な大きさに削られて割材として出土したものがある。一方、畦畔の近くに廃棄されたと思われるものには、木枠型大足のようにそのままの状態で出土しているものがある。さらに、自然流路からの出土と思われるものもあり、このことは単独で出土し、周辺の出土木製品とは軸を同一にとらないことからも推定される。I区からIII区にかけて、第2章で述べたとおり、北側の山すそ側に近づくにつれて地形が下がっている状況から、自然木や木製品もこの場所に流れ着いたと推定されるものもある。今回の調査では、自然木と思われる立木が確認されており、この場所が、湿地であります立木もあるという環境であることを伺い知ることができる。

第2節 出土木製品の分類と分類基準

三直中郷遺跡から出土した木製品の特色として、坂ノ下地区から1点、沖田地区から2点のほぼ完形に近い木枠型大足が出土したことがある。本報告書は坂ノ下地区を対象としているのでこれらのうち坂ノ下地区出土の木枠型大足を報告することにとどめ、三直中郷遺跡出土の木枠型大足3点の検証は、現在整理作業が進められている館山自動車道三直中郷遺跡出土田下駄の検証と合わせて論じができると思われる。

三直中郷遺跡出土の木製品を報告するにあたってもっとも苦慮したことは、出土した木製品の多くが再転用されたものであったり、破損し再利用されたものが多く、本来の機能が不明であるものが多いことである。それは、本来の形状をとどめないものや、とどめていたとしても製品の一部で、推測の域を出ないようなものもあることであった。

そこで、本報告書では三直中郷遺跡の木製品に合致する独自の分類試案を作成した。まず、先学の研究による機能的分類を参考に、形態的なものを加味して分類を試みた。しかし、瀬名遺跡¹¹⁾の「機能分類の問題点」や「形態分類」の項で指摘しているように、機能と分類が一致していないものや、明確な分類ができない木製品等がみられることがあった。先に指摘したとおり、本遺跡出土の木製品には、転用等により当初の製品の形状を著しく変えたもの、あるいは一部に本来の形状を残したもの、特異な木製品に似てはいるが、一部分のみ残存している場合は元の製品も不明確の上、最終的な木製品も不明確なものがみられることなどである。そこで、本報告書においては、先学の分類にもっとも形態的に類似するものをその製品名としていることをまず断っておきたい。

三直中郷遺跡坂ノ下地区出土の木質品および木製品の種類は多岐にわたっている。それらには、転用され本来の製品名が不明のものが多々あり、最終的に廃棄される直前に使用されていた品名しかわからないものや、当初の品名はわかるが、転用された後の品名がわからないものもある。つまり、本報告書の分類は両者が混在している可能性があることを事前に断っておきたい。そこで、あえて分類したものが下記の

もので、以下のとおりに農具、祭祀具、生活用具、竹材、建築材、そして用途不明材とに分類できた。

1 農具

農具に分類できる木製品として木枠型大足、四孔田下駄、槌、鉤、柄が、また転用されたものとして、田下駄の足板に転用された曲げ物の底板が出土している。

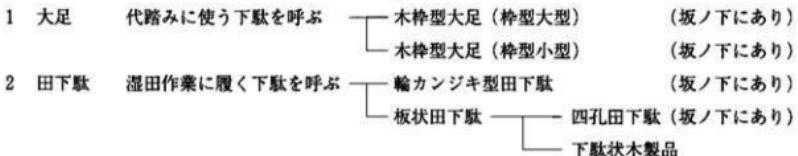
① 田下駄の分類

田下駄の分類は、多くの先学によりなされている。本遺跡では、市原条里制遺跡¹⁾、瀬名遺跡¹⁾、曲金北遺跡²⁾を参考に、田下駄に分類されるものを抽出し、分類を行ってみたい⁴⁾。

一般に湿田で足に履いて使用する農具には「大足」と「田下駄」がある。「大足」は代踏みに使う下駄を呼び、本報告では「木枠型大足」と呼んでいるものが該当する。一方、湿田での作業に使用する下駄を「田下駄」と呼び、三直中郷遺跡からは「輪カンジキ型田下駄」と「板状田下駄」が出土している。「板状田下駄」は「四孔田下駄」と「下駄状木製品」とに分類でき、本遺跡からは四孔田下駄が出土している。

板状田下駄は、古墳時代中期頃に消滅し、次第に輪カンジキ型田下駄への変化がたどれることから¹⁾、本遺跡出土の板状田下駄（四孔田下駄）の所属時期は古代に属するものと推定される。

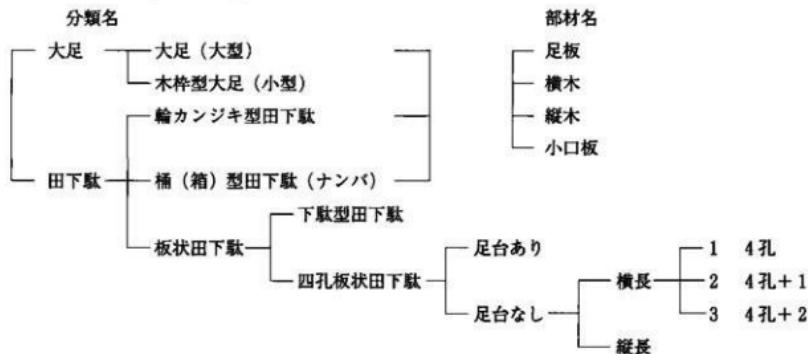
「田下駄」の細分は、まず民俗学の分野から論じられてきたが、近年になって発掘調査による資料の増加に伴い、多くの論考が提出されている。本報告書においては、田下駄の使用方法による分類をまず概観し、次に出土遺物に基づいて分類を試みたいと思う。



田下駄は農業技術によるその使用方法によって以下の6類型に分類できる。

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| 1 下駄型 | 切り株で足を傷つけないため |
| 2 板型 | 稲刈り、代搔きに使用 (縦長) |
| 3 輪カンジキ型 | 稲刈りに使用 |
| 4 枠型小型 | 稲刈り |
| 5 枠型大型 | 土塊を細かく碎く代搔き、葉を踏み込む代搔き、草踏み、田植え前の稲株踏み |
| 6 足駄型 | 出水田での稲刈り |

これらのことから、「田下駄」使用方法および形から下記のように分類が可能である。



本報告書においてはこの分類を使用して検討していく。

② 足板に転用された木製品

足板に転用された、曲げ物の底板が出土している。曲げ物の底板には側板との接合のために溝が掘られている。この溝の形状から「クレゾコ」と「カキゾコ」の2種に分けられる。「クレゾコ」は「曲げ物の底板が側板の内側に入り込んでしまうもの」、「カキゾコ」は「曲げ物の底板の径が側板の径よりも1cm前後長く、底板が側板よりはみ出しているもの」に分けられ、本遺跡の転用材にはクレゾコの曲げ物底板を再利用しているものがみられる。また、小口板等の表面に刃痕が認められるものがある。これは、まな板を転用したものと考えられる。

2 祭祀具

有頭状木製品が1点出土している。

3 生活用具

人為的な加工が施されている木針69と箸70、そして曲げ物が出土している。転用されたものとしては輪カンジキの足板が多量に出土している。足板には刃痕がみられるものがある。

4 竹材

材質が竹のもので、74は製品名は不明であるが、端は鋭利な刃物で斜めに切られている。用途は不明である。竹製品としては、「たも」と思われる破片も出土しているが、小破片で断定することは難しい。

5 建築材・土木材

建築材、土木材としては梁材や柱材、えつりと推定される部材がある。土木材としては、杭などがある。

6 用途不明材

用途不明材としては板状の加工材や、ほぞ穴があり加工痕がみられるものがある。

7 自然木

立木の状態で検出されたものもあったが、多くは自然木として流木状に確認された。

参考文献

- 1) 中山正典ほか「瀬名遺跡Ⅲ（遺物編Ⅰ）」（財）静岡県埋蔵文化財センター 1994
 - 2) 大谷弘幸ほか「市原市市原条里制遺跡－東関東自動車道（千葉富津線）」，市原市道80号線埋蔵文化財調査報告書」（財）千葉県文化財センター 1999年
 - 3) 「曲金北遺跡」（財）静岡県埋蔵文化財センター 1997
 - 4) 「木器集成図録 近畿原始編」奈良文化財研究所 1993
- 潮田鉄雄 「千葉県の田下駄－分布と仕様」民族学研究32-1
潮田鉄雄 「続千葉県の田下駄」民族学研究31-1
潮田鉄雄 「千葉県の田下駄」民族学研究29-2
潮田鉄雄 「田下駄図集 千葉県」非売品 1988（初版1967.6.25）
- その他として県内関係文献がある
- 菅谷保則 「国府間」（財）長生郡市文化財センター 1993
大谷・半澤 「各都道府県出土農具の状況－千葉県－」農具の変遷 1994

第3節 木質遺物および木製品

三直中郷遺跡坂ノ下地区、沖田地区からは多量の木質遺物および木製品が出土した。

発掘調査の段階では、製品か否かの判断が大変難しく、残りの良好な状態で検出できた遺物を可能な限り採取した。後に、実測を実施しなかった遺物を含めると約500点もの数をかぞえることができた。これらの遺物のうち、その後の水洗および初期処理の過程で、自然木や木製品の小破片などを廃棄処分したが、加工痕が確認できたものだけでも、300点を優に越す数量であった。本報告書では、これらのうちから図化でき、人為的な加工痕が明瞭なものを選択し、112点の遺物を実測掲載した。

1 農具

① 木枠型大足（第28～34図、第4表、図版18～20）

坂ノ下地区出土の唯一の木枠型大足のはぞ完形品である。II区から出土した。遺物番号はC 4-37・38である。沖田地区からは2点の木枠型大足が重なるように出土したが、坂ノ下地区からは1点のみであった。この木枠型大足の出土した場所は、周辺に木製品および木材片が多量に出土しており（第10・12・16図、図版4）、まさに流れてきたか使用後そのまま廃棄された状況で出土した。

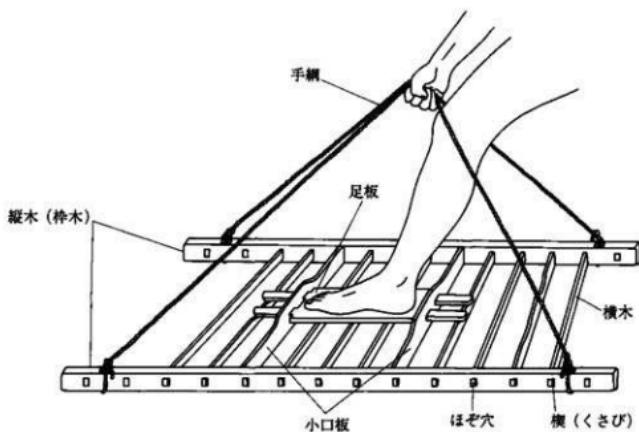
復元推定図のように、2本の縦木にはぞ穴が片方に14個ずつ穿れている。縦木の断面はかまぼこ型を呈し、丁寧な作りである。この縦木の間に、小口板と横木をわたす形であり、小口板に2孔を開け、足板の前後に削りだしたほぞを差し込む作りをしている。横木の断面は、最大厚が中央やや下にあり、柳葉形でこれも丁寧な作りである。足板の裏面は横木に接していたために両者が強く圧迫された痕跡が残っている。縦木には14個のほぞ穴と向きを変えて、手綱を結んだと推定される穴がある（97・98）。手綱を結んだものと考えられるが、ほぞ98からは第34図98が入っていた。また、ほぞとほぞ穴の隙間にはくさびが打ち込

第4表 出土木製品一覧(1)

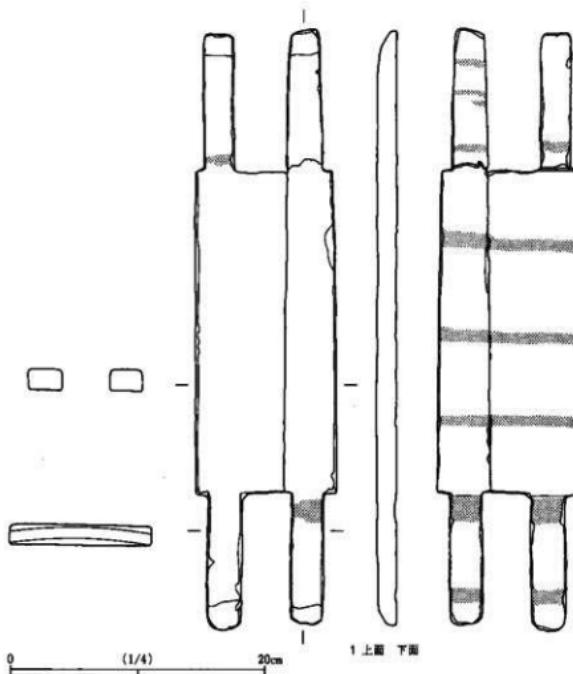
遺物番号	神田 番号	写真 図版	埋蔵出土 状況図	実測 番号	遺物番号 - 遺物 - 柱番	大分類	製品分類名	木材名称	樹種	保存処理の有無	遺存状態	計測値		
												長	×	幅(径) × 高
大足	29-24	18-20	Ⅲ区 4	13	C 4-37-38	農具	木枠型	完存品	ヒノキ	済み	完存	65.0	×	62.0 × 10.0
1	35	21	Ⅲ区 1	15	A 1-29-001	農具	木枠型	小口板	ヒノキ	済理	完存	43.0	×	14.5 × 2.3
2	35	21	Ⅲ区 1	1	A 1-29-002	農具	木枠型	小口板	スギ	済み	完存	36.9	×	14.3 × 2.5
3	36	21	Ⅲ区 2	8	E A 4-41-001	農具	木枠型	小口板	ヒノキ	済み	完存	43.0	×	8.8 × 1.8
4	36	22	I区	89	E C 6-7-9-001	農具	木枠型	小口板		予定	残存	34.7	×	12.4 × 2.4
5	37	22	I区	24	E C 6-8-8-001	農具	木枠型	小口板		予定	完存	38.7	×	16.4 × 1.7
6	37	23	Ⅲ区 1	28	B 1-0-1-001	農具	木枠型	小口板		予定	完存	38.3	×	8.0 × 1.7
7	37	23	Ⅲ区 4	45	E C 4-37-010	農具	木枠型	横木		予定	完存	46.1	×	3.6 × 1.9
8	38	23	Ⅲ区 4	46	E C 4-37-011	農具	木枠型	横木		予定	完存	46.1	×	3.5 × 1.8
9	38	23	Ⅲ区 4	65	A 2-0-6-003	農具	木枠型	横木		予定	残存	36.4	×	2.4 × 2.0
10	38	23	Ⅲ区 4	62	E C 4-38-007	農具	木枠型	横木	ヒノキ	予定	完存	45.2	×	4.8 × 1.5
11	38	24	Ⅲ区 1	85	A 1-56-001	農具	木枠型	横木		予定	残存	28.0	×	3.2 × 1.2
12	39	24	Ⅲ区 2	10	B 1-3-8-001	農具	田下駄	四孔足板	ヒノキ	済み	完存	46.1	×	12.3 × 2.5
13	39	24	Ⅲ区 2	11	B 1-3-5-002	農具	田下駄	四孔足板	ヒノキ	済み	完存	47.0	×	24.6 × 2.5
14	40	25	Ⅲ区 2	25	B 1-16-001-1	農具	田下駄	四孔足板		整理	完存	34.9	×	23.6 × 2.0
15	41	25	Ⅲ区 4	4	E C 4-87-002	農具	田下駄	四孔足板	ケヤキ	済み	完存	30.6	×	20.3 × 2.2
16	41	26	Ⅲ区 1	53	A 1-29-010	農具	木枠型大足	横木		予定	残存	42.3	×	5.2 × 2.0
16	41	26	Ⅲ区 2	72	B 1-1-2-004	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	22.7	×	11.0 × 1.4
17	42	26	Ⅲ区 2	14	B 1-2-3-001	農具	輪カシキ	足板		整理	完存	44.1	×	13.0 × 2.3
18	42	27	Ⅲ区 4	74	T 4-6-008	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	38.7	×	13.0 × 0.8
19	43	28	Ⅲ区 1	213	B 0-9-1-001-1	農具	輪カシキ	足板		整理	完存	53.7	×	23.1 × 2.1
20	44	28	Ⅲ区 2	6	B 1-1-2-002	農具	輪カシキ	足板	ヒノキ	済み	完存	44.3	×	13.4 × 1.4
20	44	28	Ⅲ区 2	9	B 1-1-2-003	農具	輪カシキ	足板	スギ	済み	完存	44.0	×	6.0 × 1.2
21	44	27	I区	143	E C 6-52-001	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	27.6	×	14.7 × 0.8
22	45	28	Ⅲ区 1	21	B 1-1-0-010	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	40.2	×	7.0 × 1.5
23	45	28	Ⅲ区 4	12	E C 4-3-8-003	農具	輪カシキ	足板	モミ属	済み	完存	60.8	×	10.3 × 2.3
24	45	29	Ⅲ区 1	26	A 1-4-9-002	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	42.4	×	8.6 × 2.2
25	46	29	Ⅲ区 1	29	B 1-1-0-001	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	67.0	×	13.4 × 2.5
26	46	29	Ⅲ区 1	99	E A 3-7-1-001	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	51.6	×	9.8 × 2.3
27	47	29	Ⅲ区 2	103	B 1-3-8-001	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	43.5	×	10.1 × 2.2
28	47	30	Ⅲ区 4	21	T 4-6-038	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	43.4	×	9.0 × 1.9
29	47	30	Ⅲ区 0	146	E B 3-4-6-001	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	28.0	×	5.0 × 1.0
29	47	30	Ⅲ区 0	139	E B 3-4-6-002	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	36.7	×	8.4 × 1.4
30	48	30	Ⅲ区 1	20	E A 3-5-8-001-1	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	45.0	×	9.3 × 1.7
31	48	30	Ⅲ区 1	19	B 0-9-1-002	農具	輪カシキ	足板		整理	完存	51.5	×	11.8 × 1.6
32	48	31	Ⅲ区 1	122	B 1-2-0-001	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	45.0	×	11.3 × 1.5
33	49	31	Ⅲ区 2	19	B 1-2-3-001	農具	輪カシキ	足板		整理	完存	46.0	×	12.9 × 1.8
34	49	35	Ⅲ区 1	170	E A 3-2-2-003	農具	輪カシキ	横木		予定	完存	40.8	×	3.3 × 1.9
35	49	35	Ⅲ区 4	48	T 4-6-035	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	40.4	×	5.0 × 1.2
36	50	32	Ⅲ区 2	76	E A 4-12-001	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	32.8	×	10.8 × 2.0
37	50	31	Ⅲ区 1	17	A 1-2-9-003	農具	輪カシキ	足板		整理	完存	53.5	×	10.9 × 2.0
38	50	31	Ⅲ区 1	33	B 1-0-0-005	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	50.7	×	10.4 × 1.8
39	51	32	Ⅲ区 0	119	B 1-7-7-001	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	29.1	×	8.0 × 1.6
40	51	32	Ⅲ区 4	87	A 2-0-6-001	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	44.3	×	9.0 × 0.8
41	51	32	Ⅲ区 3	78	C 1-2-5-001	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	53.6	×	12.5 × 1.2
42	52	33	Ⅲ区 1	22	B 1-1-1-001	農具	輪カシキ	足板		整理	完存	63.1	×	13.1 × 2.2
43	52	37	Ⅲ区 4	34	T 4-6-024	農具	輪カシキ I-1	足板		予定	完存	41.1	×	11.5 × 1.8
44	52	37	Ⅲ区 4	35	T 4-6-025	農具	輪カシキ I-2	横木		予定	完存	41.9	×	3.2 × 1.9
45	53	37	Ⅲ区 4	37	T 4-6-028	農具	輪カシキ II-1	足板		予定	完存	42.7	×	9.7 × 2.3
46	53	33	Ⅲ区 4	36	T 4-6-030	農具	輪カシキ	足板		整理	完存	45.6	×	15.3 × 1.6
47	53	33	Ⅲ区 2	16	B 1-0-2-005-1	農具	輪カシキ	足板		整理	完存	39.5	×	10.3 × 1.5
48	53	33	Ⅲ区 1	32	E A 3-8-4-002	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	28.4	×	11.5 × 1.1
49	53	33	Ⅲ区 1	33	E A 3-8-4-002	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	29.5	×	10.5 × 1.2
50	54	34	Ⅲ区 1	79	E A 3-5-0-001	農具	輪カシキ	足板		予定	残存	54.5	×	12.0 × 1.0
51	54	34	Ⅲ区 4	82	T 4-6-039	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	37.9	×	12.8 × 1.5
52	55	36	Ⅲ区 2	93	E A 4-0-3-001	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	58.5	×	10.0 × 1.6
53	55	34	Ⅲ区 2	103	B 1-0-2-001	農具	輪カシキ	足板		予定	完存	38.5	×	9.0 × 1.1

第5表 出土木製品一覧(2)

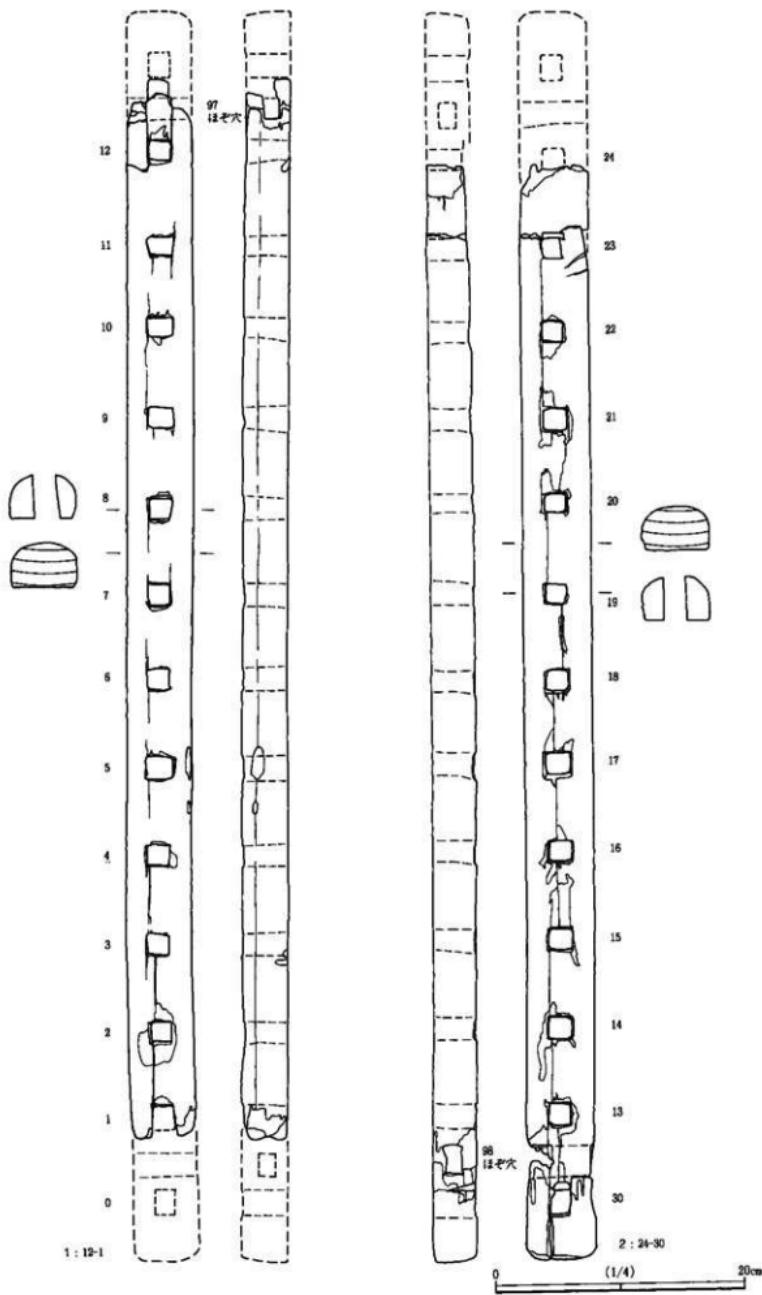
遺物 番号	神代 年号	算出 年号	神代出土 状況図	実測 番号	遺物番号 - 遺物 - 技番	大分類	製品分類名	部材名称	種類	保存状 態の有無	適な状態 別	計画値				
												長	幅(面)	高		
54	56	36	II区 4	3	EC4-6-6-002	道具	輪カンジキ	横板	モニ萬	済み	完存	50.4	×	8.0	×	2.0
55	56	35	II区 3	27	C1-14-001-1	道具	輪カンジキ	横木	予定	完存	48.5	×	5.5	×	1.5	
56	55	35	II区 3	353	EB3-8-0-001	道具	輪カンジキ	横木	予定	残存	51.0	×	5.5	×	0.9	
57	56	35	II区 4	61	T46-0-040	道具	輪カンジキ	横木	予定	完存	47.3	×	4.0	×	2.5	
58	57	36	II区 1	123	EC6-5-3-002	道具	輪カンジキ	横板	予定	残存	46.1	×	10.3	×	1.0	
59	57	36	II区 3	90	EB3-7-0-001	道具	輪カンジキ	横板	予定	残存	47.8	×	6.5	×	0.9	
60	57	37	II区 3	2	C0-9-2-001	道具	縦	縦	ヒイラギ	済み	完存	21.0	×	9.2	×	7.6
61	58	38	II区 1	62	EA3-7-4-002	道具	歯	手鋸	アカガシ 茎属	済み	完存	19.1	×	12.9	×	3.1
62	58	38	II区 1	157	EA3-5-4-002	道具	歯	曲柄	アカガシ 茎属	済み	完存	29.1	×	9.6	×	2.1
63	58	39	Ⅲ区 1	101	A0-9-9-002	道具	柄	丸柄	予定	残存	83.9	×	5.6	×	4.4	
64	58	39	Ⅲ区 1	178	A1-2-9-006	道具	柄	丸柄	予定	残存	16.1	×	4.7	×	4.3	
65	59	39	Ⅲ区 1	165	A1-2-8-001	道具	柄	丸柄	予定	残存	23.9	×	2.5	×	2.5	
66	59	39	Ⅲ区 1	206	B1-1-0-003	道具	柄	丸柄	予定	残存	36.4	×	2.4	×	2.5	
67	58	39	Ⅲ区 1	175	A1-1-0-002-2	道具	柄	丸柄	予定	残存	37.0	×	3.8	×	3.7	
68	60	39	Ⅲ区 1	175	B1-1-0-004	祭祀記	有頭木製品	済み	完存	43.8	×	6.8	×	5.5		
69	60	39	Ⅲ区 2	42	B1-0-3-0-004	生活用具	木杓	木杓	予定	完存	17.2	×	1.1	×	0.9	
70	60	39	Ⅲ区 2	217	EC6-6-5-006	生活用具	箸	箸	予定	残存	15.8	×	1.1	×	1.0	
71	60	40	Ⅲ区 1	40	B1-1-0-0-005	生活用具	曲げ物	側板	予定	完存	37.2	×	35.8	×	4.6	
72	61	41	Ⅲ区 4	81	T46-0-037	生活用具	曲げ物	側板	予定	残存	78.0	×	8.0	×	0.7	
73	61	41	Ⅲ区 1	83	A0-8-9-005	生活用具	部材	板材	予定	残存	32.0	×	6.2	×	1.8	
74	61	41	Ⅲ区 4	210	T46-0-009	竹材	竹材	竹材	予定	残存	22.4	×	2.1	×	2.3	
75	62	42	Ⅲ区 1	135	B1-0-0-0-002	建築材	板材	板材	予定	残存	111.0	×	11.8	×	4.0	
76	62	41	Ⅲ区 4	23	EC4-3-8-0-004	建築用具	えつり	えつり	整理	完存	128.0	×	4.8	×	3.6	
77	62	41	Ⅲ区 2	116	B1-3-4-0-001	建築用具	えつり	えつり	整理	完存	219.0	×	5.0	×	4.0	
78	62	41	Ⅲ区 1	179	A1-2-7-0-003	建築用具	えつり	えつり	整理	完存	191.7	×	2.1	×	3.1	
79	63	42	Ⅲ区 1	197	A1-2-7-0-001	建築材	板	板	予定	残存	40.8	×	6.0	×	6.6	
80	63	42	Ⅲ区 1	71	EA3-0-3-0-001	建築材	板	板	予定	残存	33.1	×	6.1	×	5.3	
81	63	42	Ⅲ区 4	125	T46-0-010	建築材	板材	板材	予定	残存	37.5	×	7.5	×	1.0	
82	63	42	Ⅲ区 3	185	EB3-9-4-0-001-1	建築材	板材	板	予定	残存	28.0	×	9.1	×	2.1	
83	64	43	Ⅲ区 1	234	A1-5-9-0-001-1	建築材	板材	板材	予定	完存	194.1	×	15.3	×	6.6	
84	64	45	Ⅲ区 1	230	EA3-0-4-0-001	建築材	部材	丸材	予定	完存	226.8	×	9.0	×	6.5	
85	64	42	Ⅲ区 1	248	EA3-2-2-0-001	建築材	板材	板	予定	残存	182.6	×	20.5	×	4.0	
86	65	43	Ⅲ区 3	43	C1-1-4-0-001-2	建築材	板材	加工材	済み	完存	284.0	×	16.0	×	5.5	
87	65	44	Ⅲ区 3	47	C1-3-4-0-001	建築材	板材	加工材	済み	完存	264.0	×	8.0	×	4.0	
88	65	44	Ⅲ区 3	49	C1-0-4-0-001	建築材	板材	加工材	済み	完存	258.0	×	9.0	×	3.0	
89	66	45	Ⅲ区 0	84	EB4-4-2-0-001	建築材	板材	板材	予定	残存	39.8	×	12.6	×	3.0	
90	66	45	Ⅲ区 1	120	EC6-6-6-0-001	建築材	板材	板材	予定	残存	39.4	×	9.0	×	1.7	
91	66	47	Ⅲ区 0	96	C0-5-0-0-001	建築材	板材	板材	予定	残存	29.9	×	7.0	×	2.5	
92	66	46	Ⅲ区 1	127	EA3-2-3-0-001	建築材	板材	板材	予定	残存	26.9	×	3.7	×	2.3	
93	67	45	Ⅲ区 1	130	B1-0-0-0-001	建築材	板材	角材	予定	残存	189.3	×	7.3	×	5.2	
94	67	46	Ⅲ区 1	151	A1-3-8-0-005	建築材	板材	板材	予定	完存	199.6	×	23.1	×	10.8	
95	67	47	Ⅲ区 1	444	A1-5-9-0-001-2	建築材	板材	板材	予定	完存	120.0	×	11.2	×	7.9	
96	68	45	Ⅲ区 1	207	EA3-7-4-0-001	建築材	板材	丸材	予定	完存	75.3	×	5.5	×	4.4	
97	68	46	Ⅲ区 1	396	EA3-6-3-0-001	建築材	板材	丸材	整理	完存	113.6	×	4.3	×	4.5	
98	69	47	Ⅲ区 1	140	A0-6-9-0-004	用途不明	部材	板	予定	完存	44.4	×	6.1	×	0.8	
99	69	47	Ⅲ区 2	58	B1-5-7-0-001	用途不明	部材	板	予定	完存	45.6	×	4.1	×	0.9	
100	69	47	Ⅲ区 4	54	EC4-3-8-0-002	用途不明	部材	板	予定	完存	42.6	×	4.2	×	1.7	
101	69	46	Ⅲ区 3	86	EC3-7-9-0-001	用途不明	部材	板	予定	完存	28.0	×	15.1	×	1.6	
102	69	47	Ⅲ区 4	129	EC4-3-7-0-009	用途不明	部材	板	予定	残存	34.0	×	3.4	×	1.0	
103	70	48	Ⅲ区 1	111	A1-2-9-0-005	用途不明	部材	板?	予定	残存	26.3	×	2.2	×	1.8	
104	70	46	Ⅲ区 2	96	B1-0-2-0-003	用途不明	部材	板	予定	残存	21.4	×	5.2	×	0.9	
105	70	48	Ⅲ区 1	105	B0-7-1-0-001	用途不明	部材	板	予定	完存	33.6	×	3.4	×	2.0	
106	70	48	Ⅲ区 1	64	B0-8-1-0-002	用途不明	部材	板	予定	完存	32.9	×	3.3	×	2.1	
107	70	46	Ⅲ区 1	177	EA3-5-4-0-001	用途不明	部材	板	予定	完存	36.5	×	3.1	×	1.7	
107	70	46	Ⅲ区 3	66	C0-8-4-0-001	用途不明	部材	板	予定	完存	34.5	×	4.1	×	1.2	



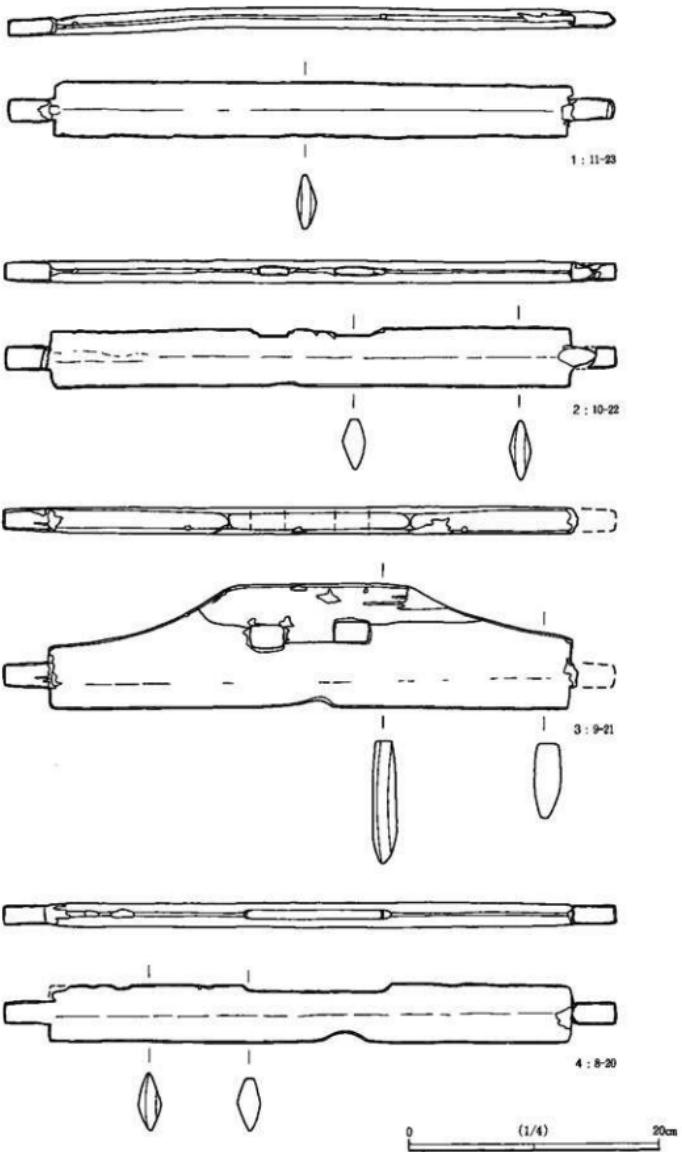
第28図 木枠型大足復元推定図



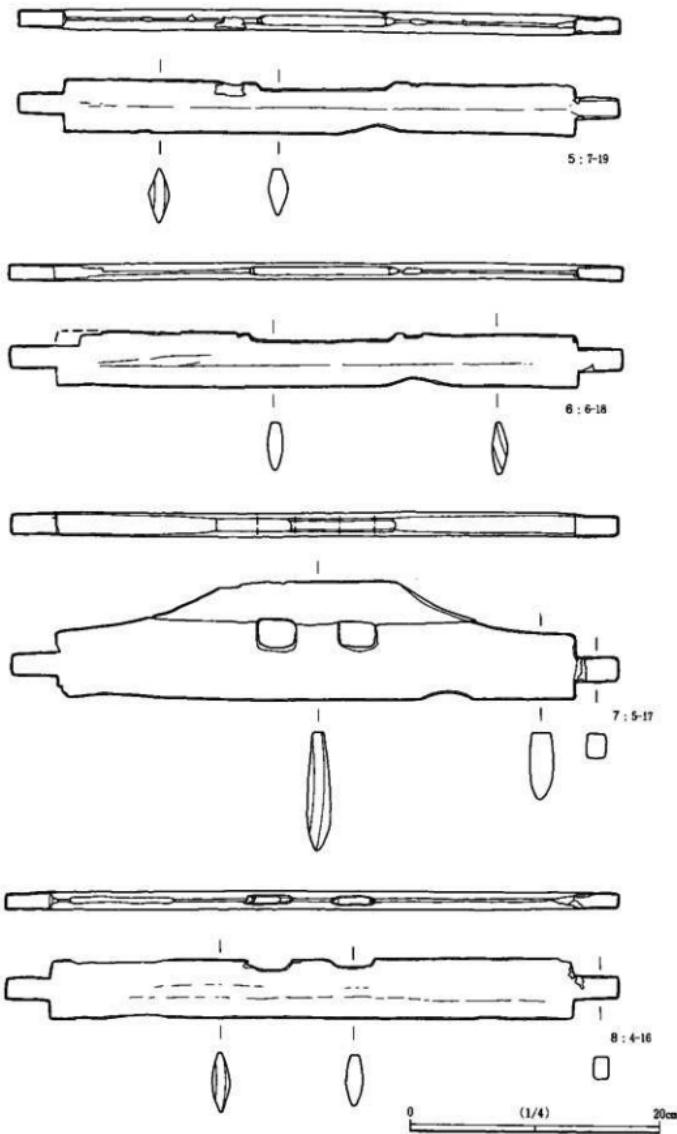
第29図 木製品実測図（足板）



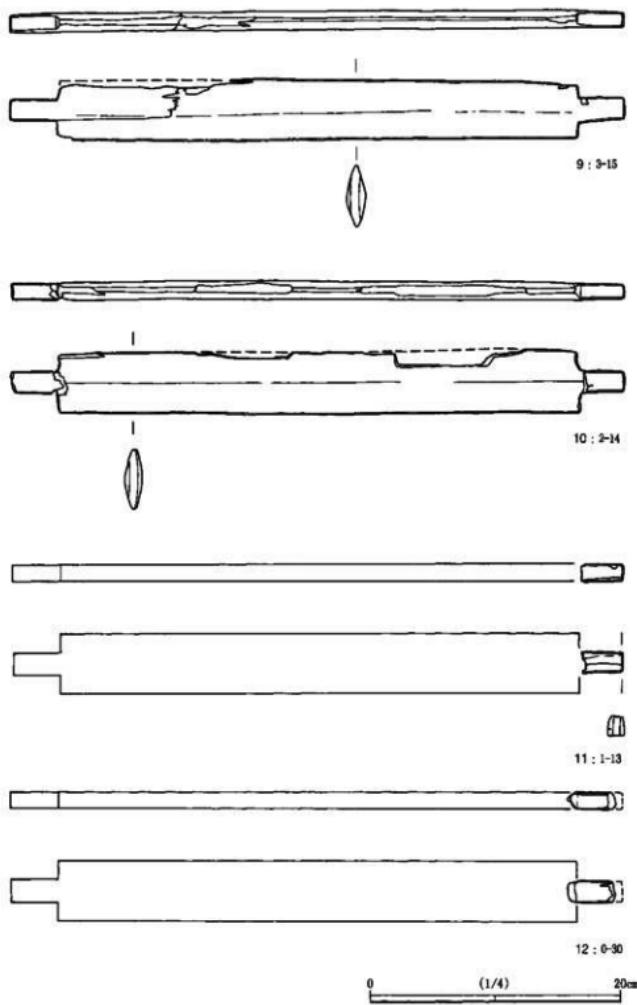
第30図 木棒型大足部材実測図（縮木）



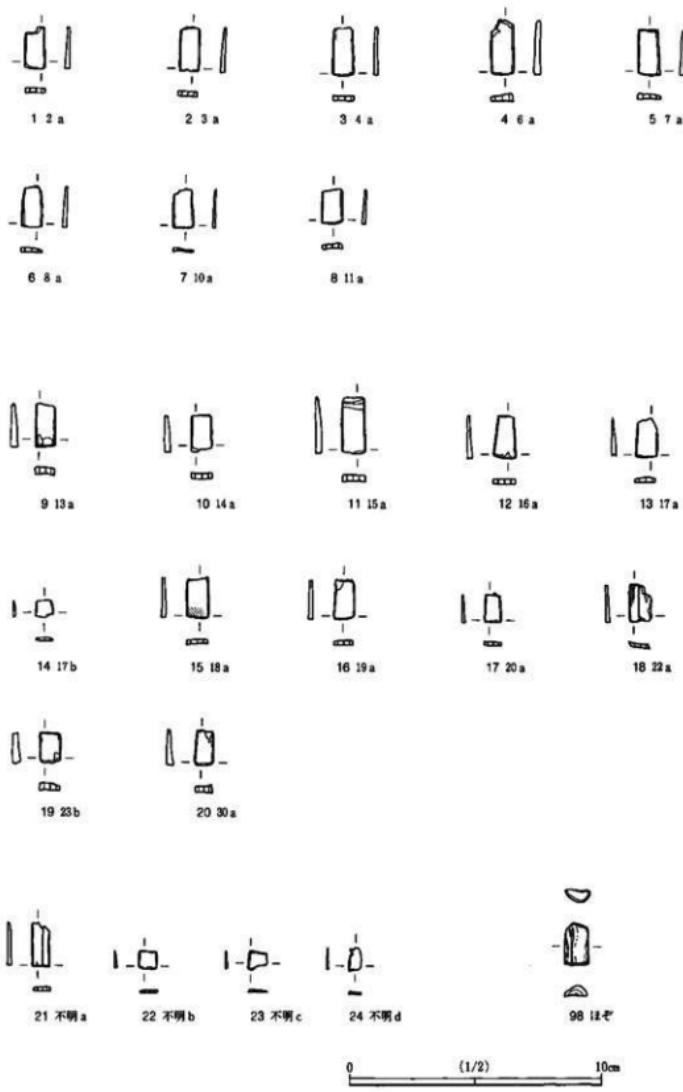
第31図 木枠型大足部材実測図（横木、小口板）



第32図 木枠型大足部材実測図（横木、小口板）



第33図 木枠型大足部材実測図（横木）



第34図 木枠型大足部材実測図（くさび）

まれていた。法量は長さ85cm、幅62cm、高さ10cmを計る。材質はヒノキである。

② 木枠型大足の小口板（第35～37図、第4表、図版21～23）

木枠型大足の小口板を一括した。1・2は両端にはほぞを有し、足板受け部下に1孔をもつ。足板が小口板上に乗る形である。4～6は縦木が下位にくるものである。

1は木枠型大足の小口板で、両面ともに加工痕が明瞭である。Ⅲ区から出土した。第35図、図版21に掲載。遺物番号はA 1-29-001である。実測番号は15である。足板受け部下の孔は横長の孔で、丁寧な作りをしている。両面ともに削り痕が明瞭である。完存で、長さ43.0cm、幅14.5cm、厚さ2.3cmを計る。材質は不明である。

2はやや丸みを持った小口板で、Ⅲ区から出土した。第35図、図版21に掲載。遺物番号はA 1-29-002である。実測番号は1である。足板は小口部の上に乗る形式で、箱形の木枠型大足の部材である。足板受け部の下に1孔をもつ。形は円形である。両面に刃痕がみられ、まな板の転用と思われる。ほぞの一方を欠損している。完存で、長さ39.9cm、幅14.3cm、厚さ2.5cmを計る。材質はスギである。

3は木枠型大足の小口板で、Ⅱ区から出土した。第36図、図版21に掲載。遺物番号はⅡ A 4-41-001である。実測番号は8である。両端にはほぞをもつが、一方を欠損する。両端は細くなっている、ほぞもありしっかりしていない。足板を小口板の穴にはめ込む形で、全体としてはやや小型である。完存で、長さ43.0cm、幅8.8cm、長さ1.8cmを計る。材質はヒノキである。

4は木枠型大足の小口板で、Ⅰ区から出土した。第36図、図版22に掲載。遺物番号はⅡ C 6-79-001である。実測番号は89である。全体に破損がひどく、磨滅もひどい。小口板とするには躊躇したが、足板受け部下の孔や両端にはほぞ様の突起があるので小口板とした。両端のほぞを欠損する。残存法量は34.7cm、幅12.4cm、厚さ2.4cmを計る。材質は不明である。

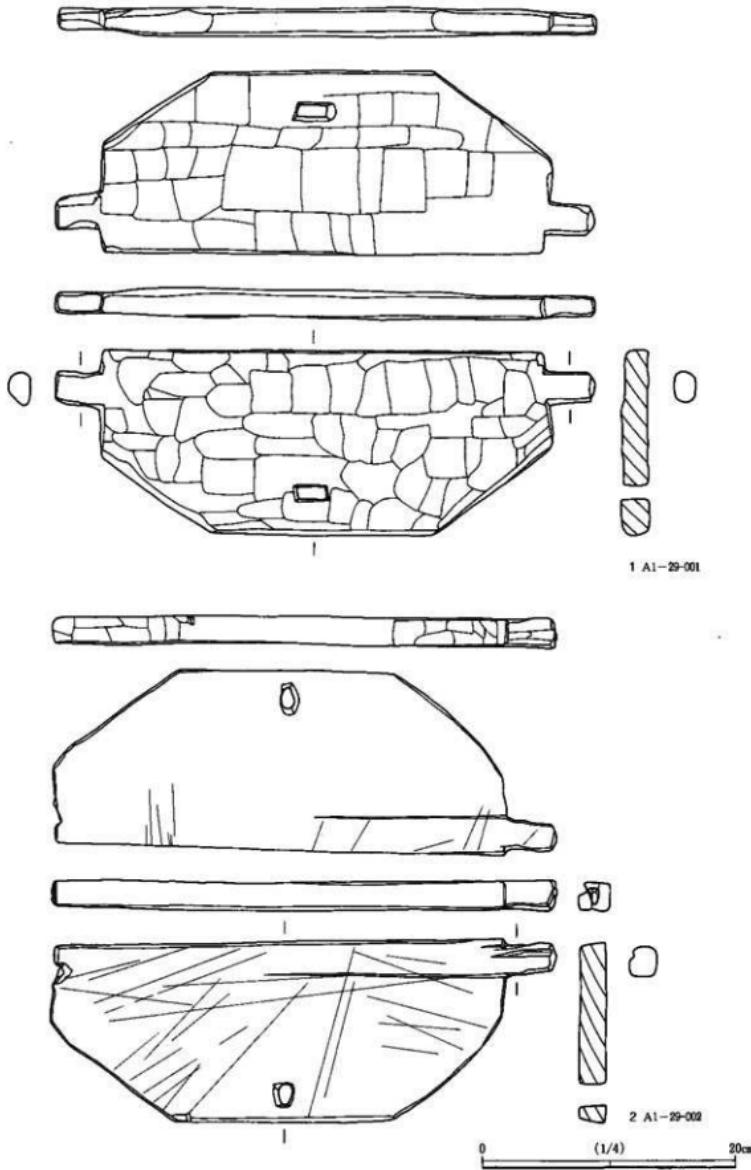
5は木枠型大足の小口板で、Ⅰ区から出土した。第37図、図版22に掲載。遺物番号はⅡ C 6-88-001である。実測番号は24である。縦木を小口板の両脇にある孔に通す形状である。足板は天井部に付くもので、足板受け部下に1孔がみられる。他に小口面に小孔がある。木枠型大足の小口板を足板に転用したものとも考えられる。縦木（枠木）が組み合わさる孔の両端上位に小孔があり、縦木と小口板を紐で結んだものと考えられる。横木を通す穴（切り込み式）がある。完存で、長さ38.7cm、幅16.4cm、厚さ1.7cmを計る。材質は不明である。

6は木枠型大足の小口板で、Ⅲ区から出土した。第37図、図版23に掲載。遺物番号はB 1-01-001である。実測番号は25である。縦木が下に組み合わさる形で、縦木の切り込みが下面にある。足板は上部に乗る形である。足板押さえのための孔が2孔確認できる。表面に刃痕あり、まな板状のものの転用と思われる。完存で、長さ38.3cm、幅8.0cm、厚さ1.7cmを計る。材質は不明である。

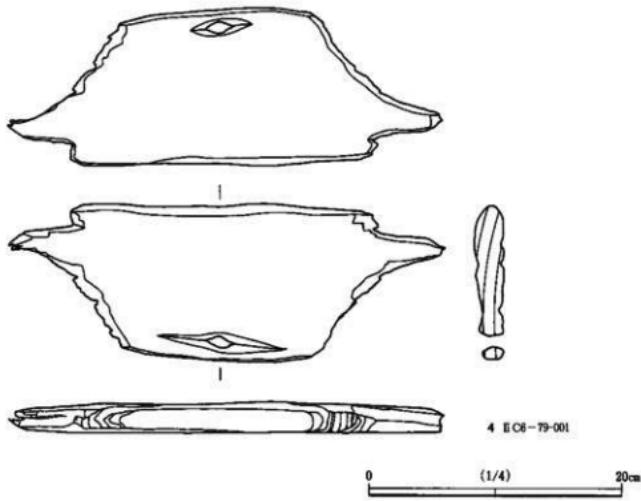
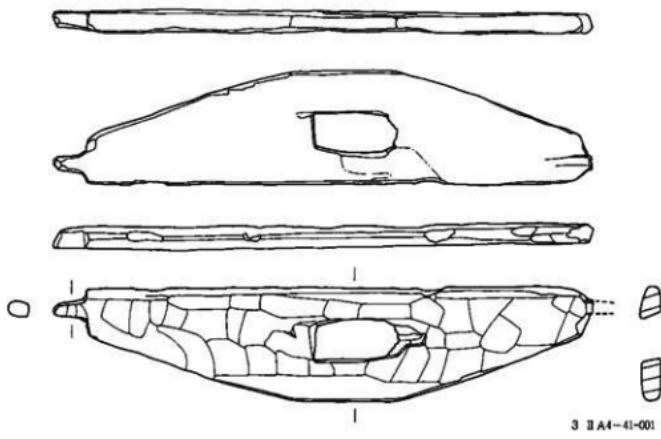
③ 木枠型大足の横木（第37・38図、第4表、図版23・24）

7～11は木枠型大足の横木である。7～9は断面が菱形のもので、両端に孔がある。孔の部分は丁寧に面取りし、厚さは中央に比べて薄い。

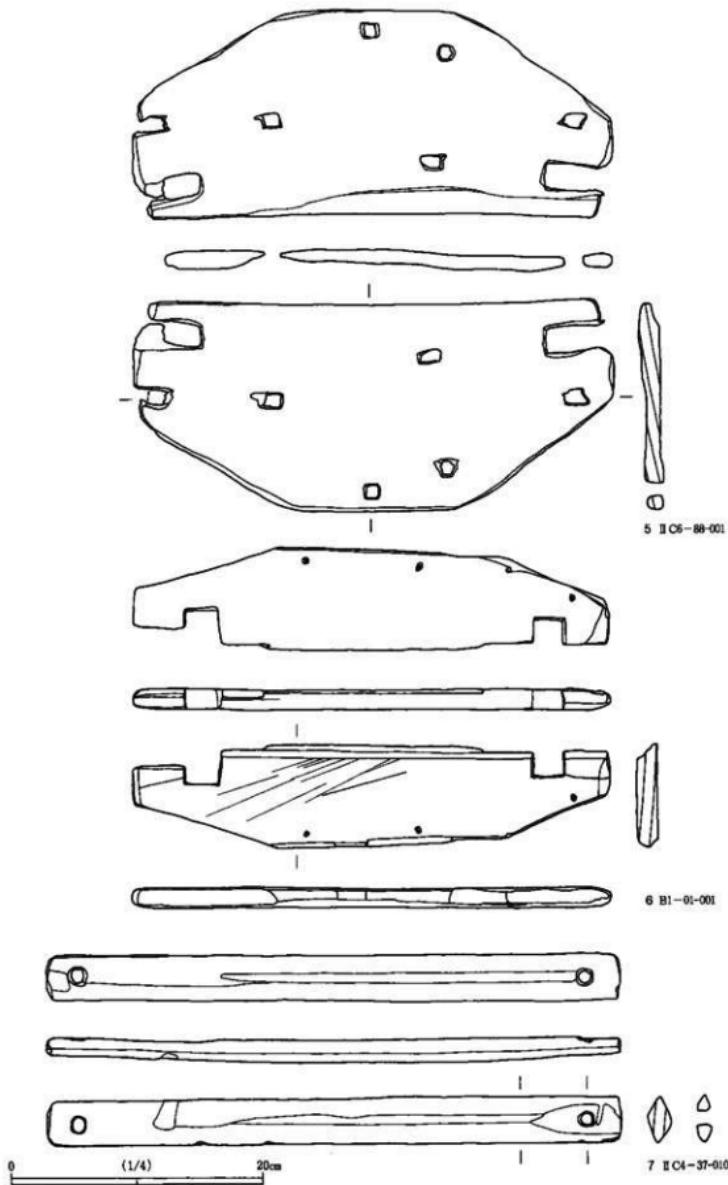
7は木枠型大足の横木で、Ⅱ区から出土した。第37図、図版23に掲載。遺物番号はⅡ C 4-37-010である。実測番号は45である。丁寧な作りで、両端にはほぞ穴が1孔ずつある。断面は菱形を呈し、最大厚は



第35図 木製品実測図（小口板）



第36図 木製品実測図（小口板）



第37図 木製品実測図（小口板、横木）

中央部にある。両端に孔があり、その部分は面取りがされている。完存で、長さ46.1cm、幅3.6cm、厚さ1.9cmを計る。材質は不明である。

8は木枠型大足の横木で、II区から出土した。第38図、図版23に掲載。遺物番号はII C 4-37-011である。実測番号は46である。7に類似し、両端にはぞ穴が1孔ずつある。断面は菱形を呈するが、孔の部分の面取りはあまり広くない。完存で、長さ46.1cm、幅3.5cm、厚さ1.8cmを計る。材質は不明である。

9は木枠型大足の横木で、III区から出土した。第38図、図版23に掲載。遺物番号はA 2-06-003である。実測番号は65である。断面は菱形で、正方形に近い中央部に圧痕がみられ、足板等との接続部と推定される。一端を欠損するが、残存する端部に刃痕がある。残存法量は長さ36.4cm、幅2.4cm、厚さ2.0cmを計る。材質は不明である。

④ 木枠型大足の横板（第38図、第4表、図版23・24）

10~11は木枠型大足の横板（横木）である。最大厚は中央にあり、峰が明瞭なもの（10）と流葉形のもの（11）がある。

10は木枠型大足の横板で、II区から出土した。第38図、図版23に掲載。遺物番号はII C 4-38-007である。実測番号は52である。ほぞの一方を欠損する。断面がやや長めの菱形で、坂ノ下地区から出土した木枠型大足の横板（横木）に類似する。断面は菱形を呈する。峰は明瞭である。ほぞの一端は細く突出しており、断面は丸形に近い。ほぼ完存で、長さ45.2cm、幅4.8cm、厚さ1.5cmを計る。材質は不明である。

11は木枠型大足の横板で、III区から出土した。第38図、図版24に掲載。遺物番号はA 1-56-001である。実測番号は85である。残存法量は長さ28.0cm、幅3.2cm、厚さ1.2cmを計る。断面は菱形を呈するが、流葉形に近い。約半分を欠損する。ほぞは他の横木・横板に比べて細く長い。材質は不明である。

⑤ 木枠型田下駄の縦木（枠木）（第41図、第3表、図版26）

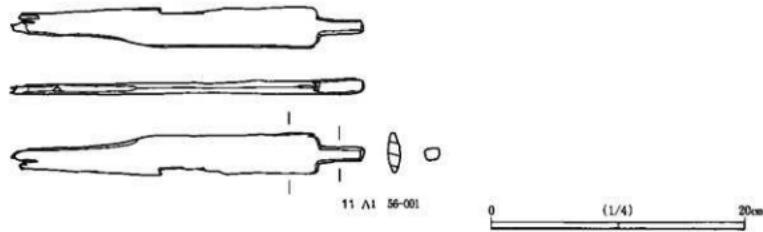
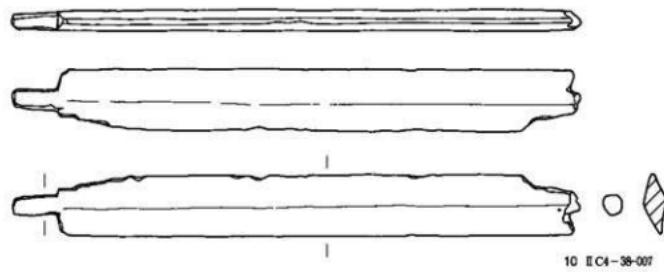
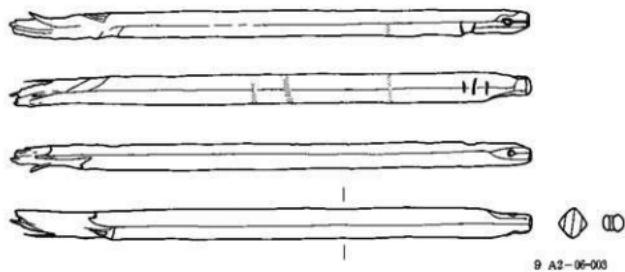
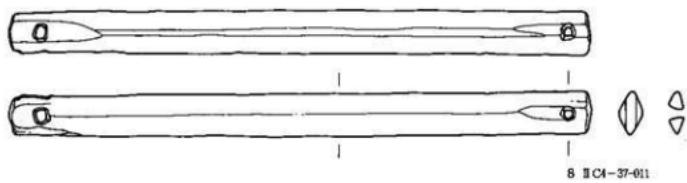
15は木枠型田下駄の縦木で、III区から出土した。第41図、図版26に掲載。遺物番号はA 1-29-010である。実測番号は63である。縦木の両端に大きめの孔がある。片方を欠損するが孔の跡があり、木枠型大足の縦木と思われる。残存法量は長さ42.3cm、幅5.2cm、厚さ2.0cmを計る。材質は不明である。

⑥ 四孔田下駄（第39~41図、第4表、図版24・25）

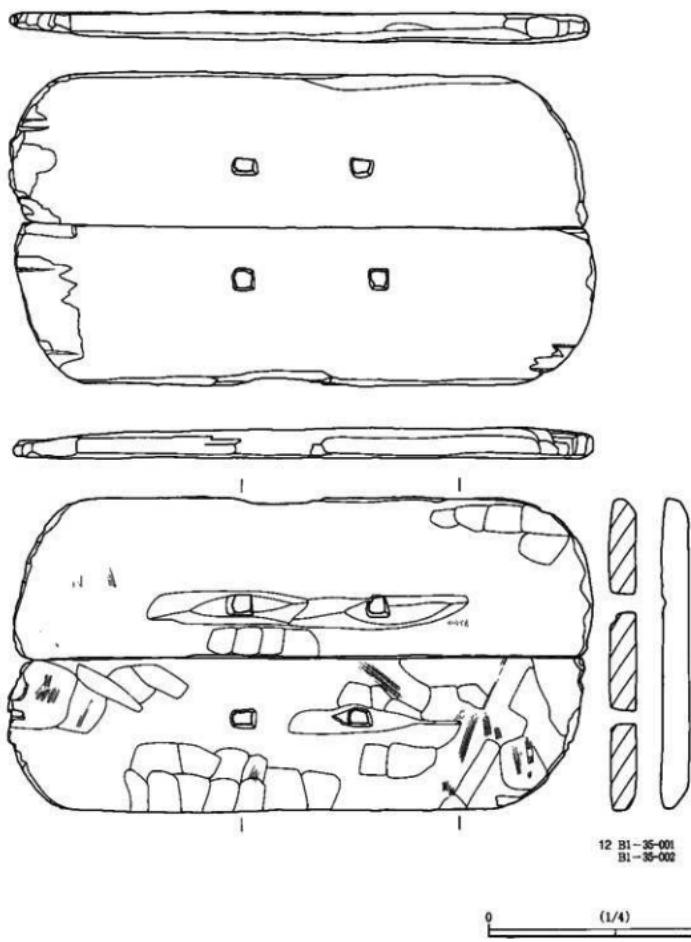
12~14は四孔田下駄で、3点ともに足台はない。2片に割れて出土したものが多く、畦畔の補強材として再利用されたものと思われる。

12は四孔田下駄で、III区から出土した。第39図、図版24に掲載。実測番号10（遺物番号B 1-35-001）と、実測番号11（遺物番号B 1-35-002）が接合する。2片に分かれて出土したが、2片の合わせ目は若干磨滅しており、廃棄される前に他に転用されていた可能性がある。孔の形は四角形である。足台はない。001は長さ46.1cm、幅12.3cm、厚さ2.5cmを計り、002は長さ47.0cm、幅24.6cm、厚さ2.5cmを計る。材質はヒノキである。

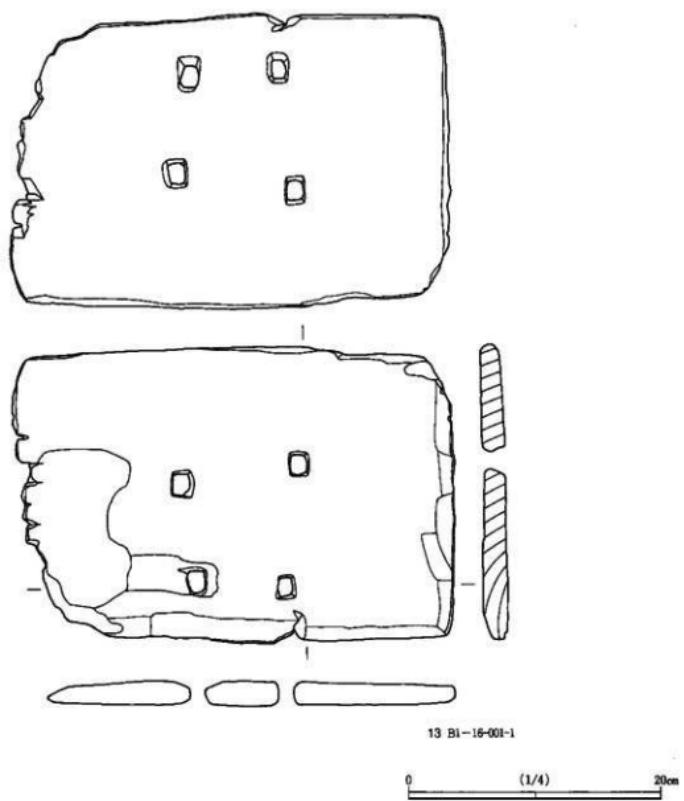
13は四孔田下駄で、III区から出土した。第40図、図版25に掲載。遺物番号はB 1-16-001-1である。実測番号は28である。端が破損しているが、ほぼ完形品である。周囲の角は面取りされている。長さ34.9cm、幅23.6cm、厚さ2.0cmを計る。材質は不明である。



第38図 木製品実測図（横木）



第39図 木製品実測図（四孔田下駄）



第40図 木製品実測図（四孔田下駄）

14は四孔田下駄の足板で、II区から出土した。第41図、図版25に掲載。遺物番号はII C 4-87-002である。実測番号は4である。足台ではなく、この種の足板としては新しい部類に属すると思われる。完存で、長さ30.6cm、幅20.3cm、厚さ2.2cmを計る。材質はケヤキである。

⑦ 輪カンジキ型田下駄

a 板状足板（幅広）（第41～44図、第4表、図版26～28）

16～21は輪カンジキの足板で、形状が板状を呈するものを一括した。輪部との接合のための小穴が端にある。

16は輪カンジキの足板で、III区から出土した。第41図、図版26に掲載。遺物番号はB 1-12-004である。実測番号は72である。鼻緒の3孔が確認できるが、ほぼ半分を欠損する。形状は板状を呈し、輪部の圧痕が確認できる。足の当たっていたと推定される中央部に、足の形と思われるくぼみがみられる。残存法量は長さ22.7cm、幅11.0cm、厚さ1.4cmを計る。材質は不明である。

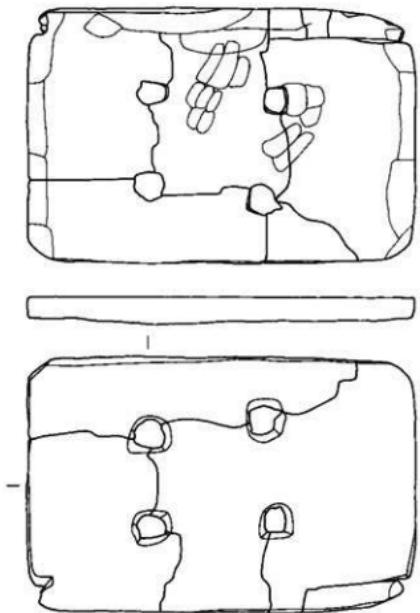
17は輪カンジキの足板で、III区から出土した。第42図、図版26に掲載。遺物番号はB 1-23-001である。実測番号は14である。形状は板状を呈し、ほぼ完形である。輪部との接合のための止孔が端に各2孔ずつある。完存で、長さ44.1cm、幅13.0cm、厚さ2.3cmを計る。材質は不明である。

18は輪カンジキの足板で、III区から出土した。第42図、図版27に掲載。遺物番号はT 46-008である。実測番号は74である。形状は板状を呈し、かかと寄りの一部を欠損する。輪部との止孔が先端部に2孔あり、欠損している反対側にもあると推定される。完存で、長さ38.7cm、幅13.0cm、厚さ0.8cmを計る。材質は不明である。

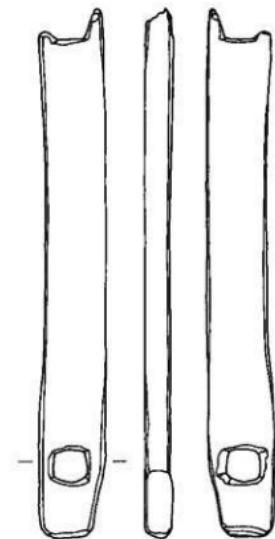
19は輪カンジキの足板で、III区から出土した。第43図、図版28に掲載。遺物番号はB 0-91-001-1である。実測番号は213である。形状は板状であるが、輪部との接地部は若干幅が狭くなる。遺物取り上げ時はB 0-92としていたが、その後のグリッド確認でB 0-91が正しいことが判明した。かかとに近い位置に加工された部分があり、他のものからの転用と思われるが、何からの転用かは不明である。大きさ、厚さとも他の足板と比較して大きく、大きさから木棒型大足の足板とも思われる。完存で、長さ53.7cm、幅23.1cm、厚さ3.1cmを計る。材質は不明である。

20は輪カンジキの足板で、2片に割れてIII区から出土した。第44図、図版26に掲載。実測番号6のB 1-12-002と実測番号9のB 1-12-003である。板状足板で、端部の形状は箱形である。ほぼ中央で二分されているが、2片をつなぐための小孔がみられる。このことは使用されていた時にも2片に分かれており、廃棄、畦畔の補強時に割られたものでないことがわかる。輪部との組み合わせのために両端に2孔が認められる。002は長さ44.3cm、幅13.4cm、厚さ1.4cmを計る。003は長さ44.0cm、幅6.0cm、厚さ1.2cmを計る。材質はヒノキである。

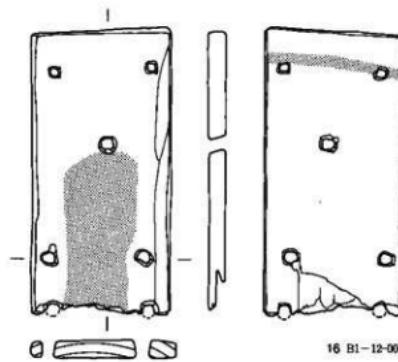
21は輪カンジキの足板で、約半分を欠損する。I区から出土した。第44図、図版27に掲載。遺物番号はII C 6-52-001である。実測番号は143である。欠損部が多く、全体の形状は不明であるが、板状を呈するものと推定される。輪部との接合は孔が確認できず、辺の中央部にある裂け目が孔の残存と思われる。足板面は上面には凸凹が多くあり、下面は逆に平坦である。残存法量は長さ27.6cm、幅14.7cm、厚さ0.8cmを計る。材質は不明である。



14 EC4-87-02



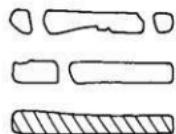
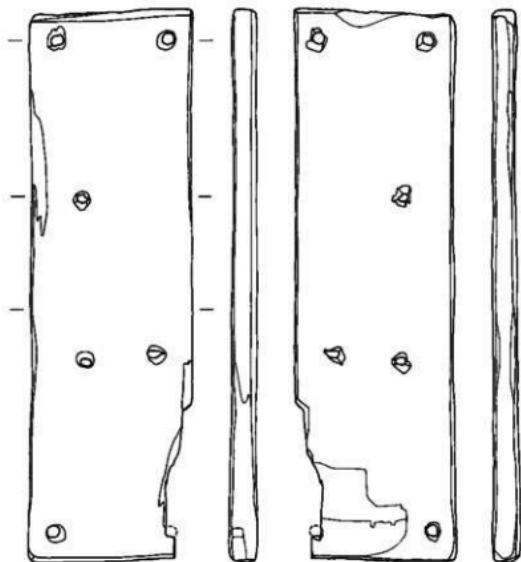
15 A1-29-010



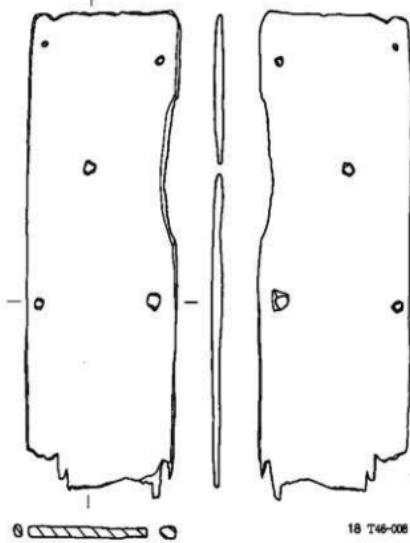
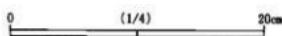
16 B1-12-004

0 (1/4) 20cm

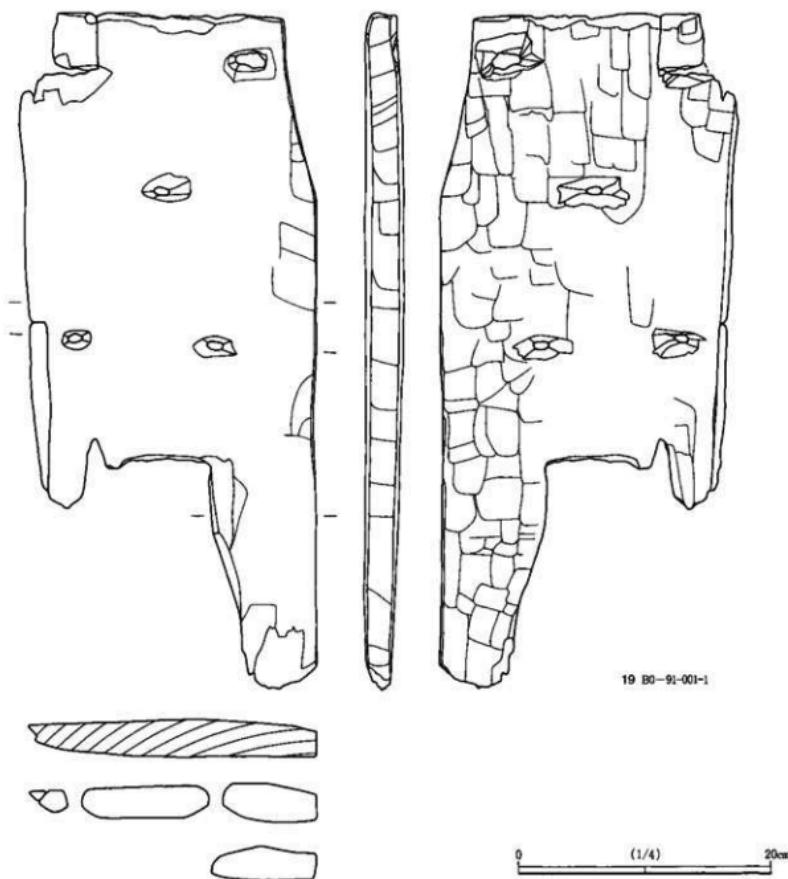
第41図 木製品実測図（四孔田下駄、縦木、足板）



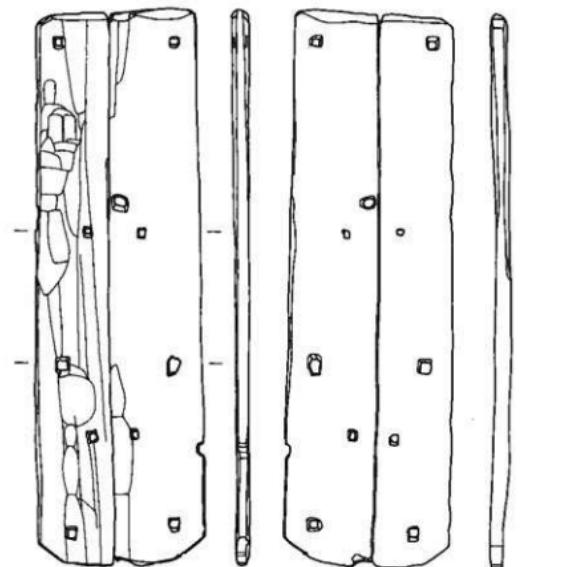
17 BI-23-001



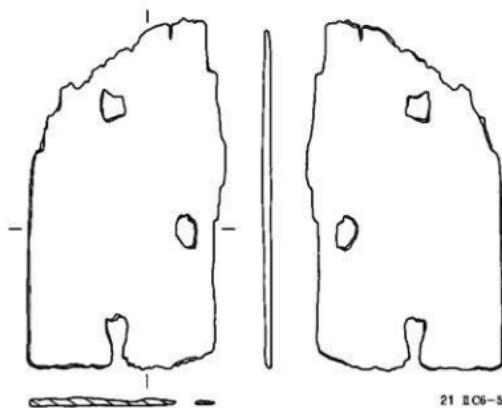
第42図 木製品実測図（足板）



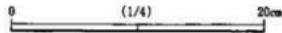
第43図 木製品実測図（足板）



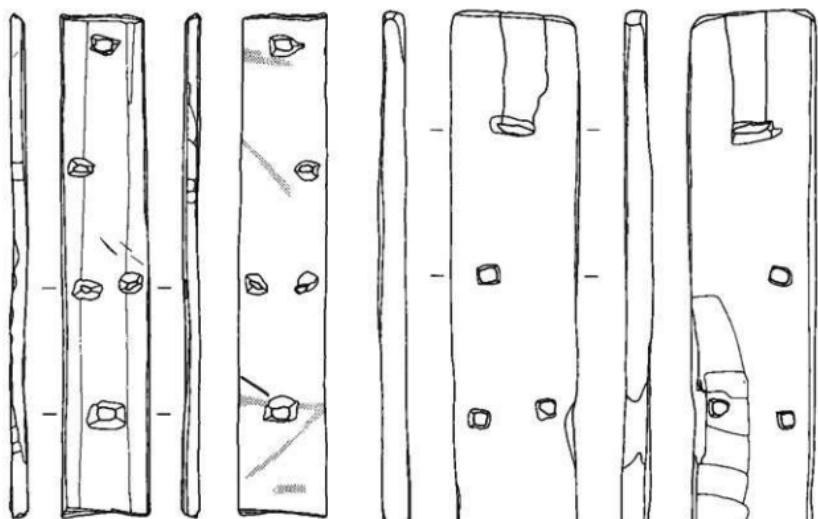
20 BI-12-002
BI-12-003



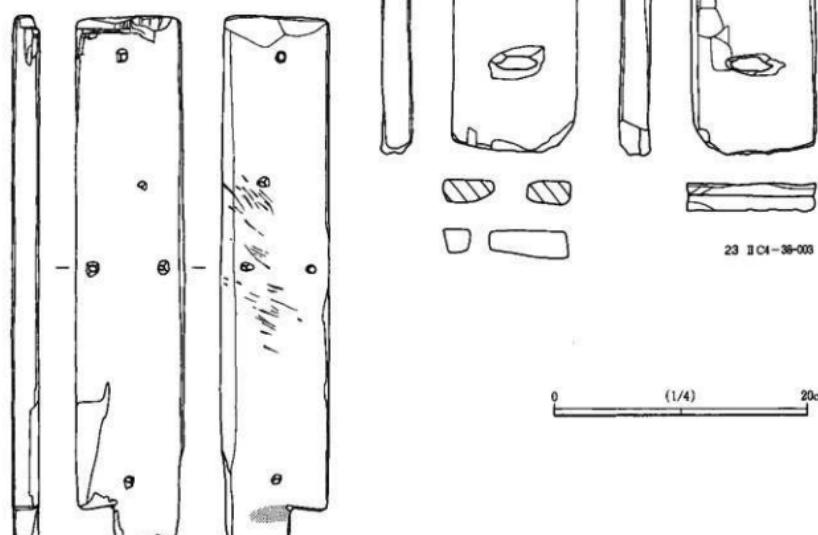
21 II C6-52-001



第44図 木製品実測図（足板）



22 B1-10-010



23 II C4-36-003



24 A1-49-002

0 (1/4) 20cm

第45図 木製品実測図（足板）

b 板状足板（幅狭）（第45～48図、第4表、図版28～30）

22～30は輪カンジキの足板で、幅の狭いものを一括した。幅が狭いだけで、長さは逆に長いものもみられる。輪部との接合は、幅の広いものが2孔あるのに対して、狭いものは1孔であることに特徴がある。

22は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第45図、図版28に掲載。遺物番号はB 1-10-010である。実測番号は21である。形状は板状であるが、幅が狭い。止孔は各端に1孔ずつある。足板裏面には輪部との接地痕がみられる。孔は大きい。完存で、長さ40.2cm、幅7.0cm、厚さ1.5cmを計る。材質は不明である。

23は輪カンジキの足板で、Ⅱ区から出土した。第45図、図版28に掲載。遺物番号はⅡ C 4-38-003である。実測番号は12である。形状は板状で、幅は狭い。両端に止孔が各1孔ずつある。孔は横に若干長い。完存で、長さ60.8cm、幅10.3cm、厚さ2.3cmを計る。材質はモミ属である。

24は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第45図、図版29に掲載。遺物番号はA 1-49-002である。実測番号は26である。形状は板状で、幅は狭い。かかと近くに切り込みがあることから、他の板材からの転用と思われる。裏面には刃痕がある。両端に止孔が各1孔ずつあり、輪カンジキとの接地痕もみられる。完存で、長さ42.4cm、幅8.6cm、厚さ2.2cmを計る。材質は不明である。

25は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第46図、図版29に掲載。遺物番号はB 1-10-001である。実測番号は29である。形状は板状で、このタイプとしては大型である。足板との接地のための止孔が各2孔ずつある。中央にも1孔があり、横板として転用された可能性がある。完存で、長さ67.0cm、幅13.4cm、厚さ2.5cmを計る。材質は不明である。

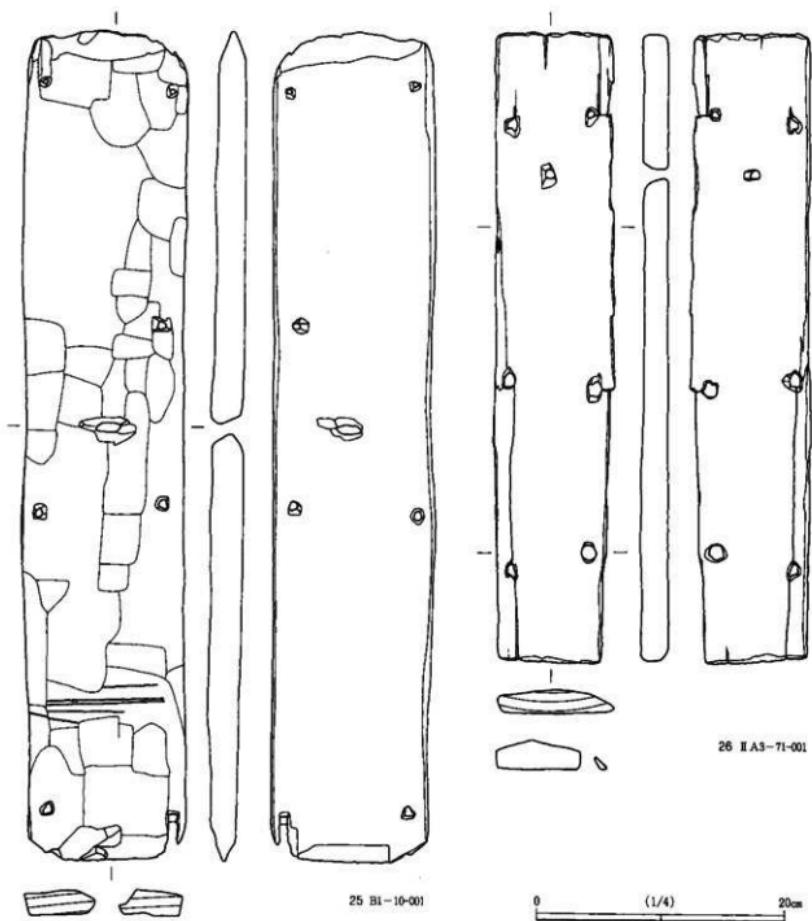
26は輪カンジキの足板で、Ⅱ区から出土した。第46図、図版29に掲載。遺物番号はⅡ A 3-71-001である。実測番号は99である。形状は板状である。輪部との接合部には2孔の止孔がある。他の足板に比較すると幅に対して厚さがあり、あまり良好な作りとは言えない。完存で、長さ51.6cm、幅9.8cm、厚さ2.3cmを計る。材質は不明である。

27は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第47図、図版29に掲載。遺物番号はB 1-03-001である。実測番号は102である。形状は板状である。かかと側に1孔あるが、輪部との止孔はこれ以外はみられない。表側に圧痕がみられる。完存で、長さ43.5cm、幅10.1cm、厚さ2.2cmを計る。材質は不明である。

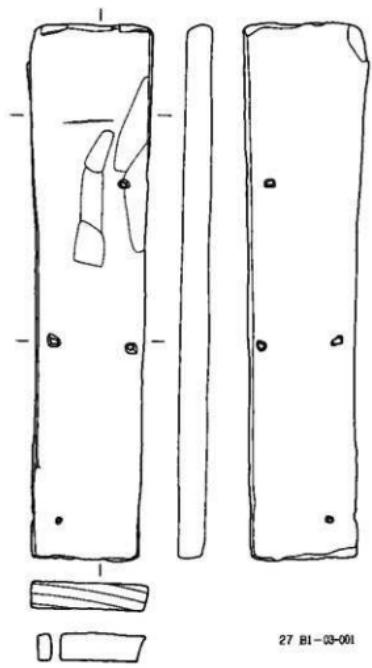
28は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第47図、図版30に掲載。遺物番号はT 46-038である。実測番号は438である。形状は板状で、かかと側に切り込みがあり、24と類似する。輪部との止孔は各1孔ずつある。完存で、長さ43.4cm、幅9.0cm、厚さ1.9cmを計る。材質は不明である。

29は輪カンジキの足板と思われる。Ⅱ区から出土した。第47図、図版30に掲載。2か所に分かれて出土した。実測番号146（遺物番号Ⅱ B 3-46-001）と実測番号139（遺物番号Ⅱ B 3-46-002）で、2片が接合した。形状は先端が箱形で細く、板状を呈し、止孔は各1孔確認できる。001は完存で、長さ28.0cm、幅5.0cm、厚さ1.0cmを計り、002は長さ36.7cm、幅8.4cm、厚さ1.4cmを計る。材質は不明である。

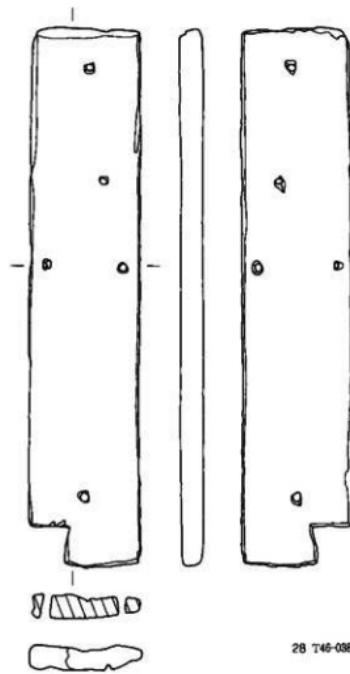
30は輪カンジキの足板で、Ⅱ区から出土した。第48図、図版30に掲載。遺物番号はⅡ A 3-15-001-1である。実測番号は20である。形状は箱形を呈するが、先端に向かってやや狭くなる。止孔と推定されるものは1孔あるが、鼻緒孔は1孔のみしか確認できない。大きさや形状から足板と推定したが、他の部材の可能性もある。完存で、長さ45.0cm、幅9.3cm、厚さ1.7cmを計る。材質は不明である。



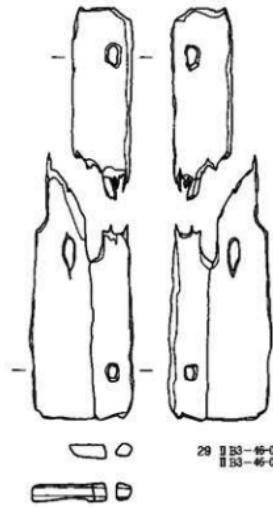
第46図 木製品実測図（足板）



27 B1-03-001



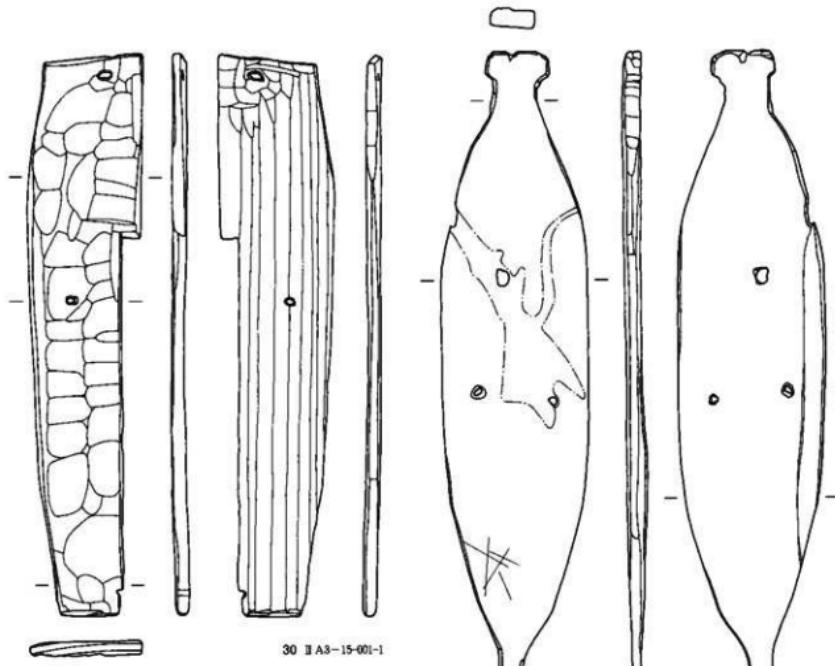
28 T46-038



29 B3-46-001
29 B3-46-002

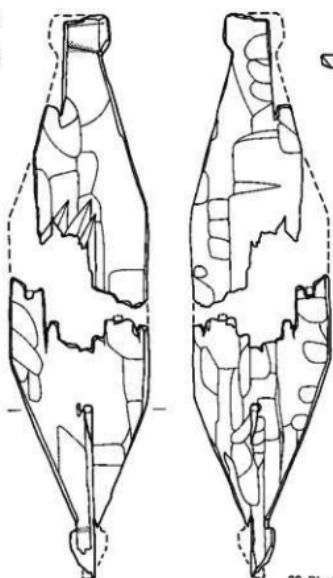
0 (1/4) 20cm

第47図 木製品実測図（足板）



30 II A3-15-001-1

31 B0-91-002



32 B1-20-001

0 (1/4) 20cm

第48図 木製品実測図（足板）

c 板状足板（船形）（第48～49図、第4表、図版30・31）

31～33は輪カンジキの足板で、形状が船形のように両端が狭くなり、端部が再び広がるものの一括した。31は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第48図、図版30に掲載。遺物番号はB 0-91-002である。実測番号は19である。船形を呈する輪カンジキの足板で、両端部は船形様になり、先端部は少し幅が広がる。表面には刃痕がある。整形はいたって大まかに削っている。完存で、長さ51.5cm、幅11.8cm、厚さ1.6cmを計る。材質は不明である。

32は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第48図、図版31に掲載。遺物番号はB 1-20-001である。実測番号は122である。船形を呈する輪カンジキの足板で、両端部は船形様になり、31と同様に先端部は少し幅が広がる。端部は少し開き気味になる。表面の整形は粗く、削り痕がみられる。2片に分かれて出土したが、元々は同一個体のものと思われる所以復元実測をした。残存法量は長さ45.0cm、幅11.3cm、厚さ1.5cmを計る。材質は不明である。

33は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第49図、図版31に掲載。遺物番号はB 1-22-001である。船形を呈する輪カンジキの足板で、両端部は船形様になり、32と同様に削り痕が目立つ。完存で、長さ46.0cm、幅12.9cm、厚さ1.8cmを計る。材質は不明である。

d 板状足板（くびれをもつもの）（第50図、第4表、図版31・32）

36～38は輪カンジキの足板で、輪部との接合部がくびれているものを一括した。

36は輪カンジキの足板で、Ⅱ区から出土した。第50図、図版32に掲載。遺物番号はⅡ A 4-12-001である。実測番号は76である。一端を欠損する。先端が丸形を呈し、輪部との接合孔のところでくびれる。船形に比べて先端は広い。輪部との止孔は各1孔ずつある。わりに厚く、作りは雑である。孔の径は大きい。残存法量は長さ32.8cm、幅10.8cm、厚さ2.0cmを計る。材質は不明である。

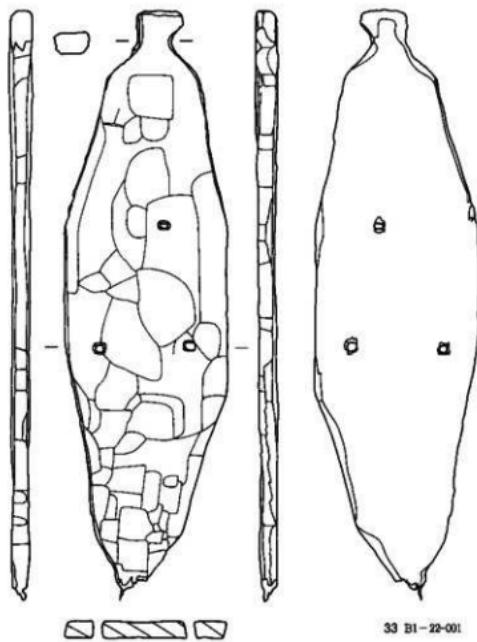
37は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第50図、図版31に掲載。遺物番号はA 1-29-003である。実測番号は17である。先端は一端くびれたあと横に開く。くびれた部分に止孔が1孔ある。足が接していたと思われる面は平らになっているが、裏面は削り痕が明瞭に観察される。完存で、長さ53.5cm、幅10.9cm、厚さ2.0cmを計る。材質は不明である。

38は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第50図、図版31に掲載。遺物番号はB 1-00-005である。実測番号は33である。鼻緒の3孔のうち1孔がない。先端は37と同様に、一端くびれたあと横に開くが、丸みを帯びる。くびれた部分に止孔が1孔ある。上、下面ともに平らで、削り痕は観察されない。鼻緒の孔の1つが確認できないが、裂け目のところにあると推定される。完存で、長さ50.7cm、幅10.4cm、厚さ1.8cmを計る。材質は不明である。

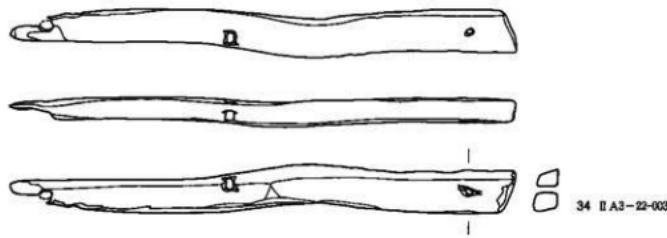
e その他の板状足板（第51図、第4表、図版32）

39～41は上記以外の足板を一括した。

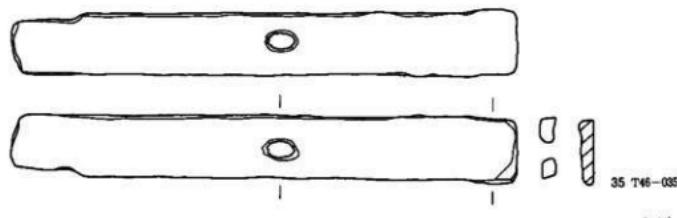
39は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第51図、図版32に掲載。遺物番号はB 1-77-001である。実測番号は119である。かかとの位置から約半分を欠損する。足板の先端は途中から狭くなる。輪部との止孔は1孔確認でき、反対側にもあったものと考えられる。形が6に類似しており、小口板の転用の可能性もある。残存法量は長さ29.1cm、幅8.0cm、厚さ1.6cmを計る。材質は不明である。



33 B1-22-001



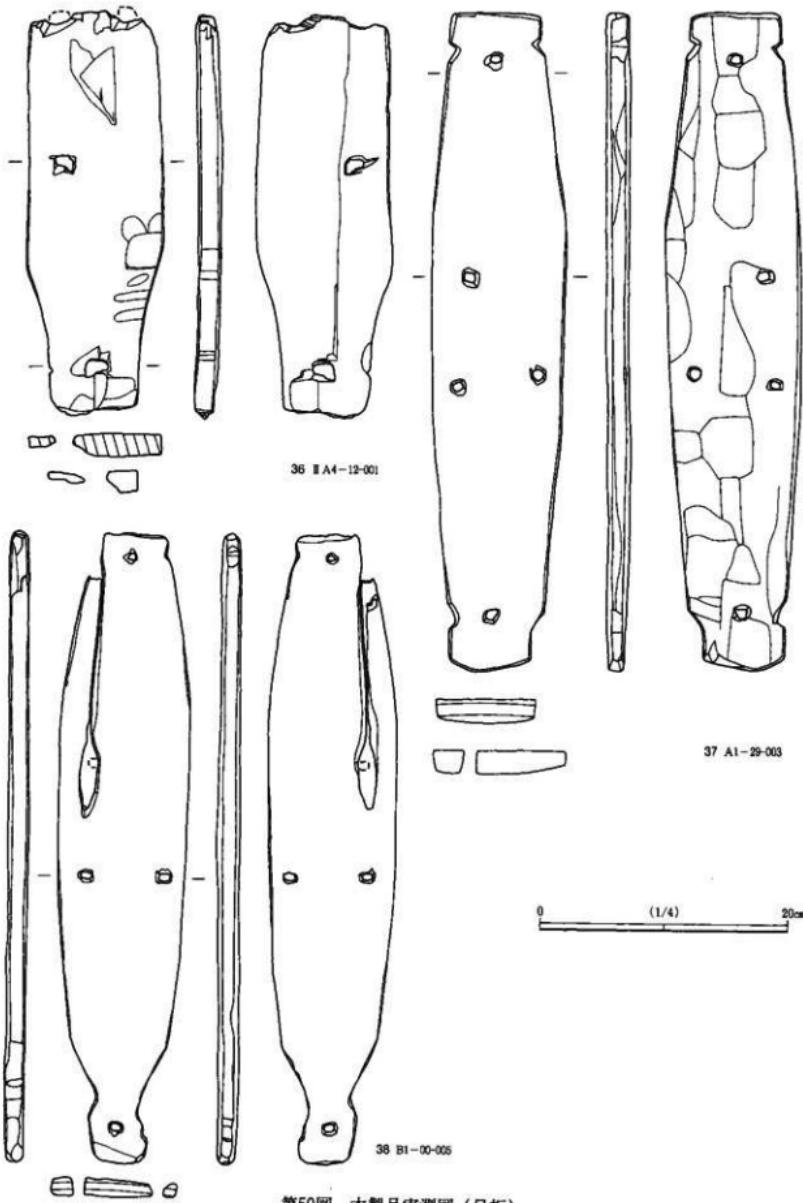
34 II A3-22-003



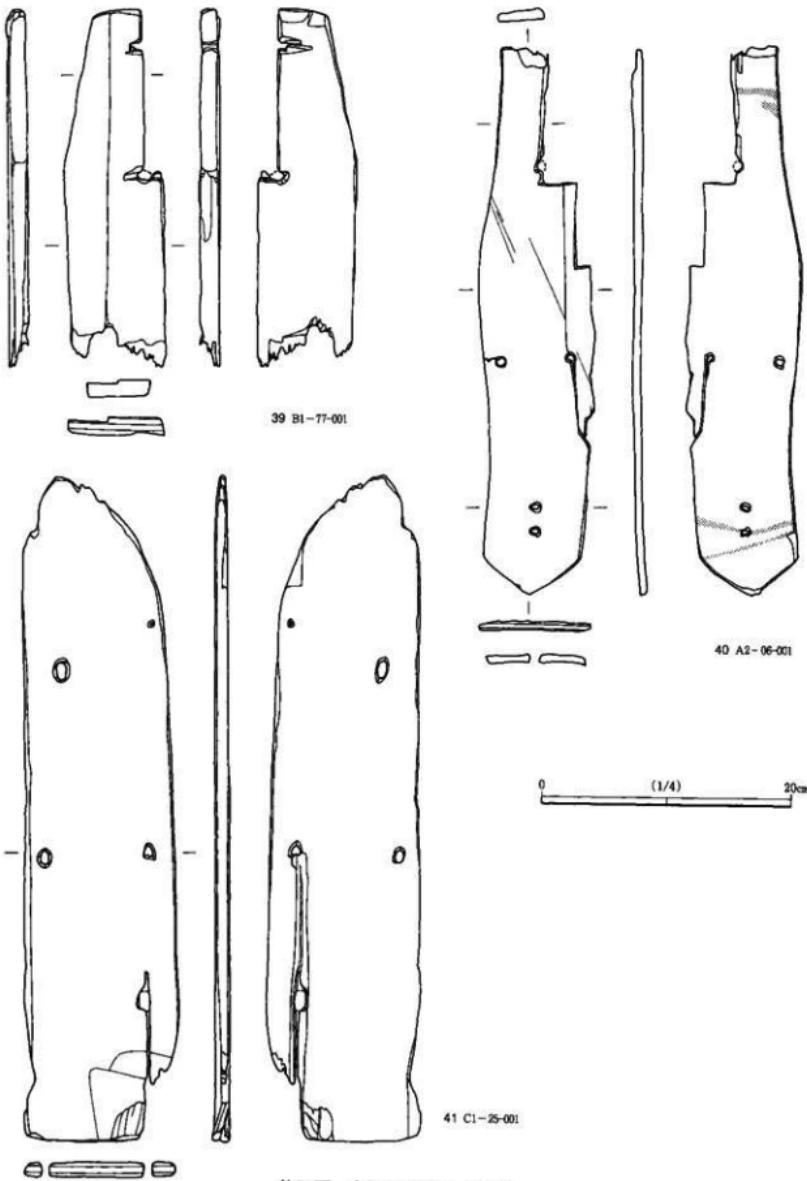
35 T46-035

0 (1/4) 20cm

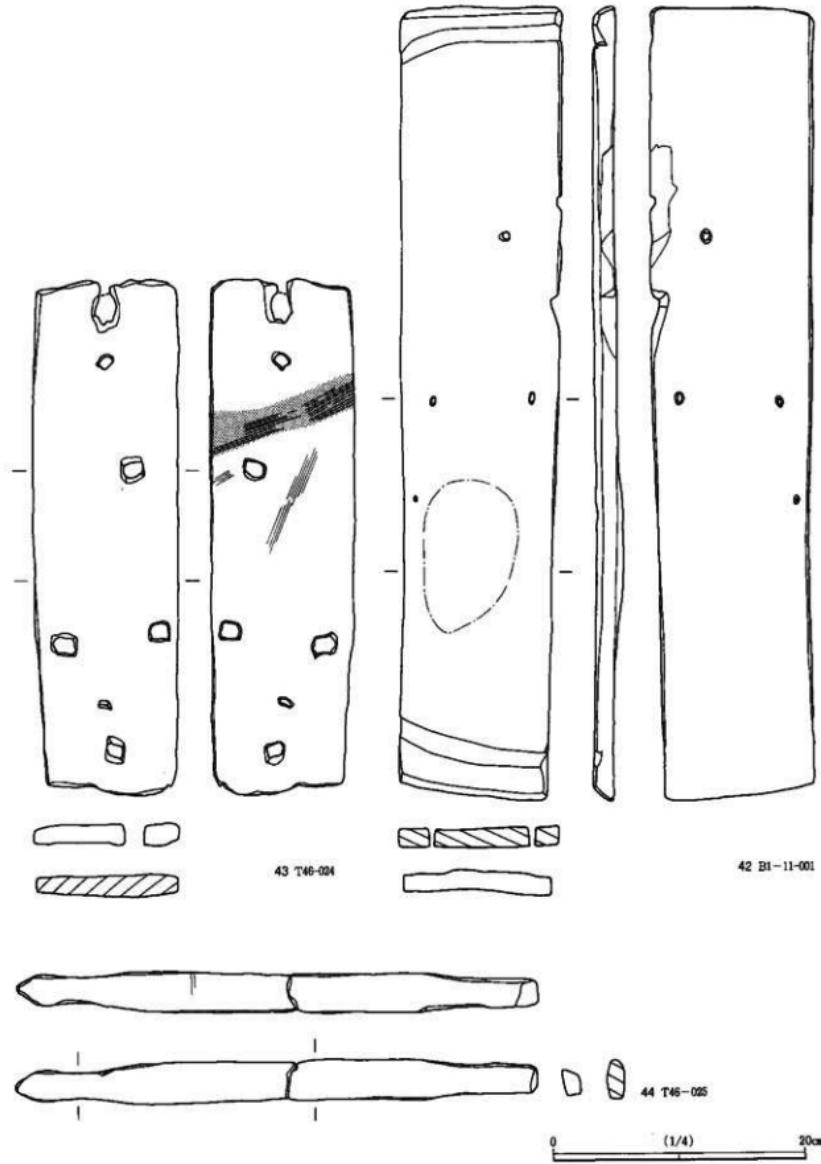
第49図 木製品実測図（足板、横木、横板）



第50図 木製品実測図（足板）



第51図 木製品実測図（足板）



第52図 木製品実測図（足板、輪カンジキ）

40は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第51図、図版32に掲載。遺物番号はA 2-06-001である。実測番号は87である。先端が尖っており、この形の足板は唯1点のみである。輪部との止孔は2孔あり、本遺跡では他に例がない。輪部との接合部には輪部の圧痕がある。刃痕があり、何かの転用かとも思われる。厚さは他の足板に比して薄く、輪カンジキの足板としては多少疑問がある。残存法量は長さ44.3cm、幅9.0cm、厚さ0.8cmを計る。材質は不明である。

41は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第51図、図版32に掲載。遺物番号はC 1-25-001である。実測番号は78である。形状はかかと寄りは四角に角張っているが、先は一方に弧を描く。厚さは薄い。小孔が1つあり、曲げ物のカキゾコ底板の転用の可能性もある。残存法量は長さ53.6cm、幅12.5cm、厚さ1.2cmを計る。材質は不明である。

f 輪カンジキセット（第52・53図、第4表、図版37）

43~45は輪カンジキで、輪部と横板・横木が組み合わさって出土したものである。

43は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第52図、図版37に掲載。遺物番号はT 46-024である。実測番号は34である。ほぼ長方形に近い形状であるが、端部はあまり丁寧でない。鼻緒は3孔が確認できる。輪部との止孔は2孔ずつある。先端部の孔は裂けて、孔にはなっていない。外側の孔がやや大きめである。裏側には横木との圧痕がみられる。完存で、長さ41.1cm、幅11.5cm、厚さ1.8cmを計る。材質は不明である。

44は輪カンジキの横木で、43と組みになる。Ⅲ区から出土した。第52図、図版37に掲載。遺物番号はT 46-025である。実測番号は35である。輪部との接合部がやや細くなるが、全体に太い。中央で折れており、一端を欠損する。完存で、長さ41.9cm、幅8.2cm、厚さ1.9cmを計る。材質は不明である。

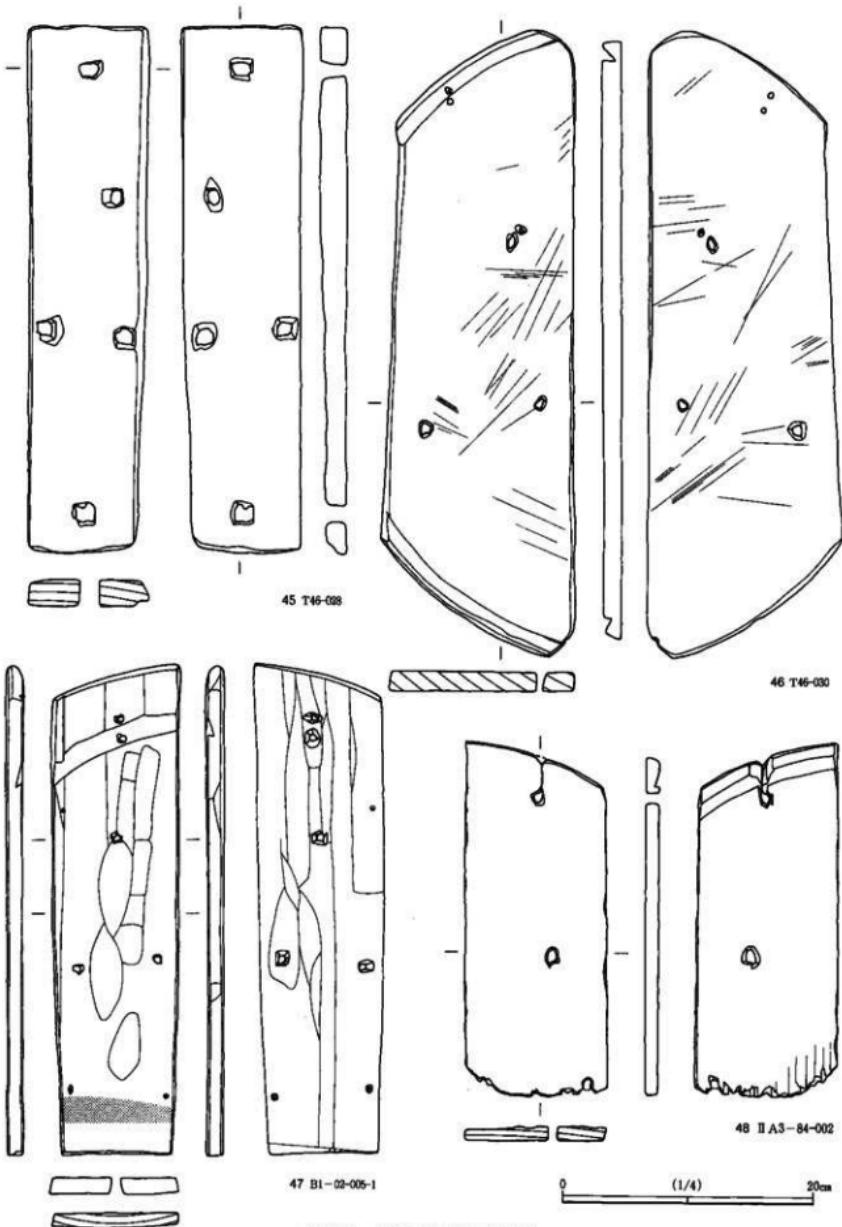
45は輪カンジキの足板で、一緒に輪部も出土したが、もろくて取り上げができなかつた。調査時点では沖田東地区として取り扱っていた。Ⅲ区から出土した。第53図、図版37に掲載。遺物番号はT 46-028である。実測番号は37である。輪カンジキとして組み合わさって出土した。全体にしっかりした作りで、止孔も1孔ずつあり、鼻緒孔も3孔が確認できる。孔は太い。完存で、長さ42.7cm、幅9.7cm、厚さ2.3cmを計る。材質は不明である。

g 輪カンジキの足板（第52~55図、第4表、図版33・34）

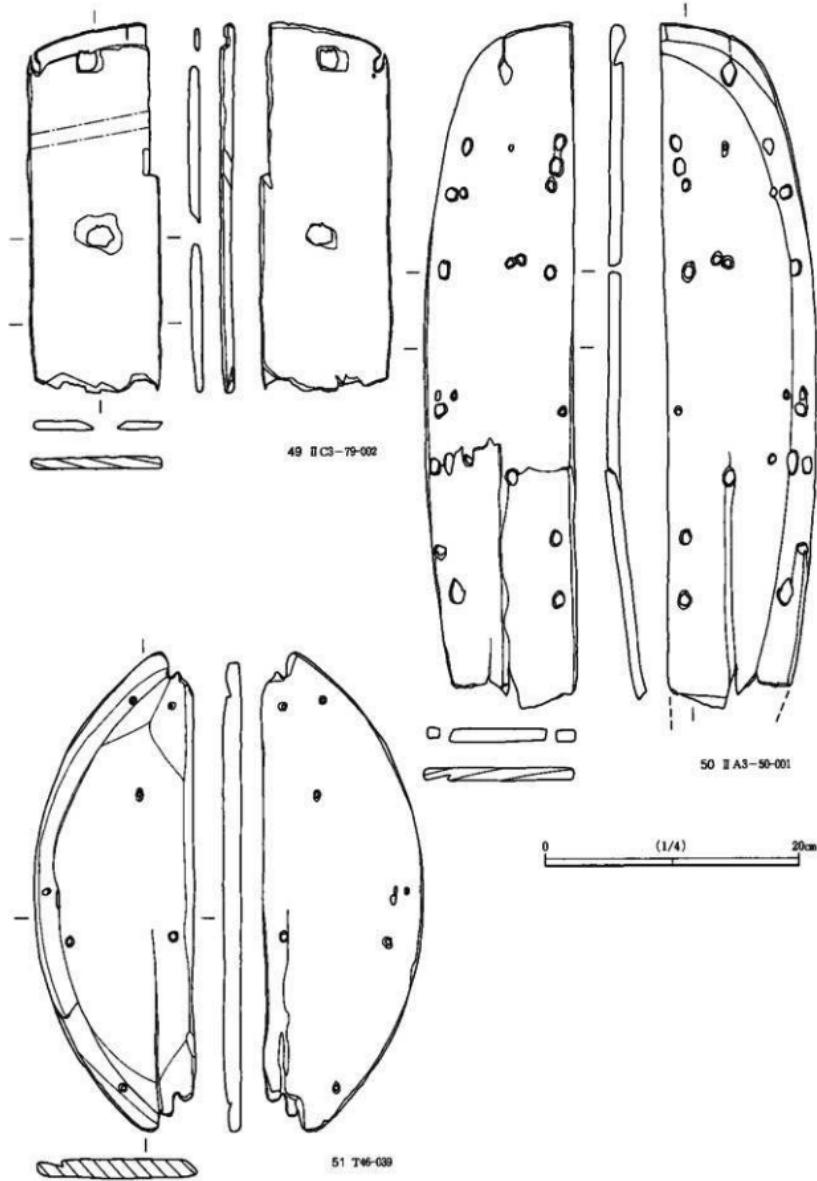
42・46~51・53は輪カンジキの足板で、曲げ物の底板を転用したものを一括した。

42は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第52図、図版33に掲載。遺物番号はB 1-11-001である。実測番号は22である。足板としては大型で、長方形を呈する。両端に断面三角形の溝がある。このことから、カキゾコ底板の転用と思われる。中央のかかとの部分に該当するくぼみがある。鼻緒孔は3孔あり、他に小孔が1孔ある。この小孔は使用しない時に吊しておくための、吊るし紐の穴と推定される。完存で、長さ63.1cm、幅13.1cm、厚さ2.2cmを計る。材質は不明である。

46は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第53図、図版33に掲載。遺物番号はT 46-030である。実測番号は30である。これもカキゾコ底板の転用である。曲げ物として使用していた時の、側板と底板とのつなぎのための小孔も確認できる。両面に刃痕があり、木台として使用されていたことが伺われる。完存で、長さ45.6cm、幅15.3cm、厚さ1.6cmを計る。材質は不明である。



第53図 木製品実測図（足板）



第54図 木製品実測図（足板）

47は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第53図、図版33に掲載。遺物番号はB 1 - 02 - 005 - 1である。実測番号は16である。カキゾコ底板の転用であるが、底板としては一部欠損している。輪部との止孔はかかと寄りに2孔ある。つま先寄りは側板との止孔を再利用していると思われる。この足板にも小孔が1孔あり、使用しない時の保管の方法が伺われる。かかと寄りの止め孔の間に圧痕がある。完存で、長さ39.3cm、幅10.3cm、厚さ1.5cmを計る。材質は不明である。

48は輪カンジキの足板で、Ⅱ区から出土した。第53図、図版33に掲載。遺物番号はⅡ A 3 - 84 - 002である。実測番号は32である。中央から約半分を残存する。カキゾコ底板の転用である。止孔は側板との止孔を再利用している。完存で、長さ28.4cm、幅11.5cm、厚さ1.1cmを計る。材質は不明である。

49は輪カンジキの足板で、Ⅱ区から出土した。第54図、図版34に掲載。遺物番号はⅡ C 3 - 79 - 002である。実測番号は92である。カキゾコ底板の転用で、約半分を欠損する。形状から足板としたが、横板の可能性もある。残存法量は長さ29.5cm、幅10.5cm、厚さ1.2cmを計る。材質は不明である。

50は輪カンジキの足板で、Ⅱ区から出土した。第54図、図版34に掲載。遺物番号はⅡ A 3 - 50 - 001である。実測番号は79である。カキゾコ底板の転用で、小孔が多数あるが、左右対になっている。このことから、これらの小孔は止孔と思われ、輪カンジキとして度数の作り換えをしたことが考えられる。残存法量は長さ54.5cm、幅12.0cm、厚さ1.0cmを計る。材質は不明である。

51は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第54図、図版34に掲載。遺物番号はT46 - 039である。実測番号は82である。カキゾコ底板の転用である。止孔はつま先部には1対ある。かかと部には1孔しか確認できないが、破損部にもう1孔あることが考えられる。完存で、長さ37.9cm、幅12.8cm、厚さ1.5cmを計る。材質は不明である。

53は輪カンジキの足板で、Ⅲ区から出土した。第55図、図版34に掲載。遺物番号はB 1 - 02 - 001である。実測番号は103である。カキゾコ底板の転用である。曲げ物の底板としては、約半分を欠損する。鼻緒孔が2孔しかなく、使用状況は不明である。かかと部は直線的に切られており、ここには止孔と思われる孔が1孔のみある。つま先部にも1孔の小孔があり、他の足板が2孔あるか、中央に1孔あるのとは異なっている。完存で、長さ38.5cm、幅9.0cm、厚さ1.1cmを計る。材質は不明である。

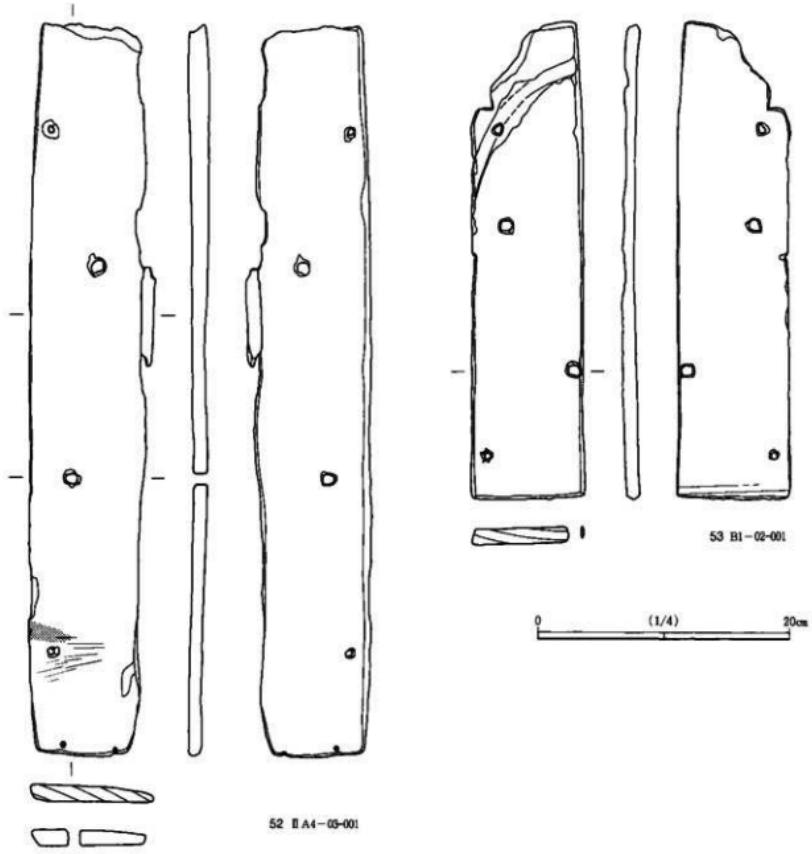
h 輪カンジキの横木・横板（第49・55～57図、第4・5表、図版35・36）

34・35・52・54～59で、横木と横板を一括した。中央に足板を止める孔があるもの、または、両端に輪部を止めるための孔があるものを一括したので、多少は無理があるかもしれない。

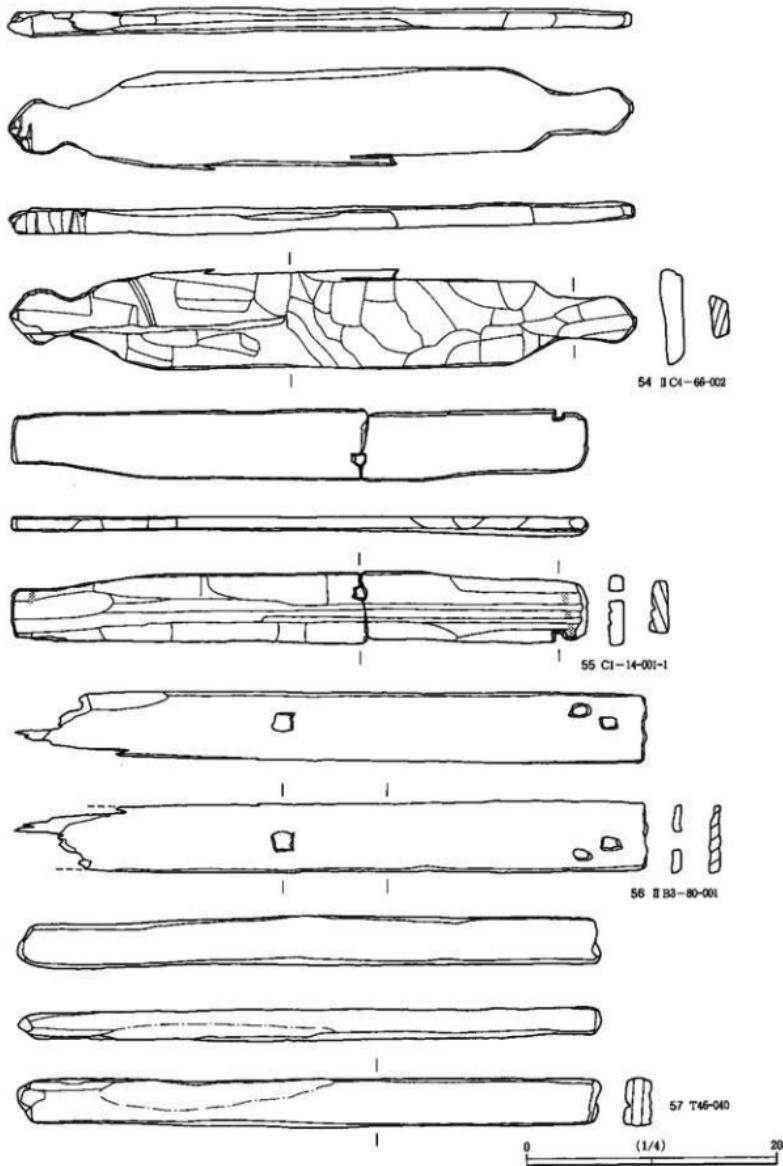
34は輪カンジキの横木で、Ⅱ区から出土した。第49図、図版35に掲載。遺物番号はⅡ A 3 - 22 - 003である。実測番号は170である。一端を欠損する。中央に孔が1孔あり、足板を止める穴と考えた。残存する端にも1孔あり、輪部を止める孔と思われる。直線的でなく、若干ねじれている。完存で、長さ40.0cm、幅3.3cm、厚さ1.9cmを計る。材質は不明である。

35は輪カンジキの横板で、Ⅲ区から出土した。第49図、図版35に掲載。遺物番号はT46 - 035である。実測番号は48である。中央に孔がある。わりに薄い作りで、丁寧に作られている。完存で、長さ40.4cm、幅5.0cm、厚さ1.2cmを計る。材質は不明である。

52は輪カンジキの横板で、Ⅱ区から出土した。第55図、図版36に掲載。遺物番号はⅡ A 4 - 03 - 001である。実測番号は93である。大きめの横板である。第55図は縦位に掲載したが、本来は横位で使用する。



第55図 木製品実測図（横板、足板）



第56図 木製品実測図（横板、横木）

中央に孔が1対あり、これが足板を止める孔である。両脇に保部を止める孔が1孔ずつある。この部分には輪部との圧痕が確認される。両面ともに丁寧な作りで、曲げ物の底板を横板に転用したものかもしれない。完存で、長さ58.2cm、幅10.0cm、厚さ1.6cmを計る。材質は不明である。

54は輪カンジキの横板で、II区から出土した。第56図、図版36に掲載。遺物番号はII C 4-66-2である。実測番号は3である。全体の形状は、足板と組み合わされて出土した44に類似する。整形痕は削り痕を残す面と、きれいに調整している面がある。足板や輪部との接合のための孔はなく、幅は狭い。完存で、長さ50.4cm、幅8.0cm、厚さ2.0cmを計る。材質はモミ種である。

55は輪カンジキの横木で、III区から出土した。第56図、図版35に掲載。遺物番号はC 1-14-001-1である。実測番号は27である。同一の遺物番号の遺物が2点あり、枝番をつけて処理した。丁寧な作りで、周囲は角をとっている。中央に小孔が1孔ある。両端部に圧痕がある。完存で、長さ46.6cm、幅5.5cm、厚さ1.5cmを計る。材質は不明である。

56は輪カンジキの横板で、II区から出土した。第56図、図版35に掲載。遺物番号はII B 3-80-001である。実測番号は352である。片方の先端部を欠損する。中央に1孔の止孔があり、端には止孔と思われる孔が2孔ある。残存法量は長さ51.0cm、幅55.5cm、厚さ0.9cmを計る。材質は不明である。

57は輪カンジキの横木で、III区から出土した。第56図、図版35に掲載。遺物番号はT46-040である。実測番号は61である。断面は四角形に近い形状である。大きさ等から横木としたが、他の建築材の可能性もある。完存で、長さ47.3cm、幅4.0cm、厚さ2.5cmを計る。材質は不明である。

58は輪カンジキの横板で、I区から出土した。第57図、図版36に掲載。遺物番号はII C 6-53-002である。実測番号は123である。板材で薄く、横板としては疑問もあるが、圧痕が確認され、中央に1孔の止孔らしきものがあるので横板とした。残存法量は長さ46.1cm、幅10.3cm、厚さ1.0cmを計る。材質は不明である。

59は輪カンジキの横板で、II区から出土した。第57図、図版36に掲載。遺物番号はII B 3-70-001である。実測番号は90である。端に圧痕があり、形状から一応横板とした。残存法量は47.8cm、幅6.5cm、厚さ0.9cmを計る。材質は不明である。

⑧ 椅（第57図、第5表、図版37）

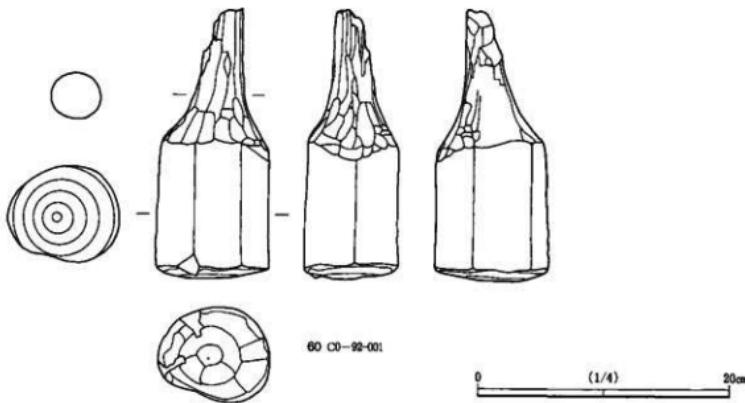
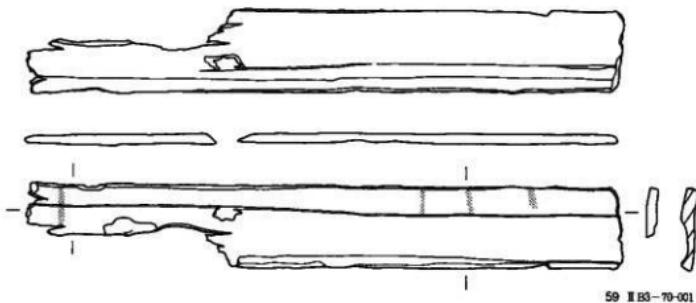
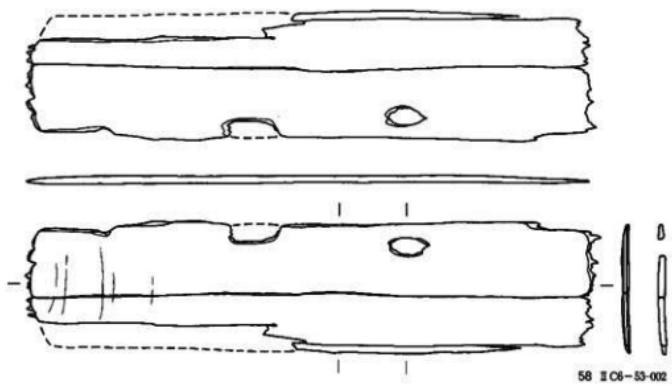
60は楕で、III区から出土した。第57図、図版37に掲載。遺物番号はC 0-92-1である。実測番号は2である。縦楕で、柄の元を一部欠損する。完存で、長さ21.0cm、幅9.2cm、厚さ7.6cmを計る。材質はヒイラギ種である。

⑨ 鍬（第58図、第5表、図版38）

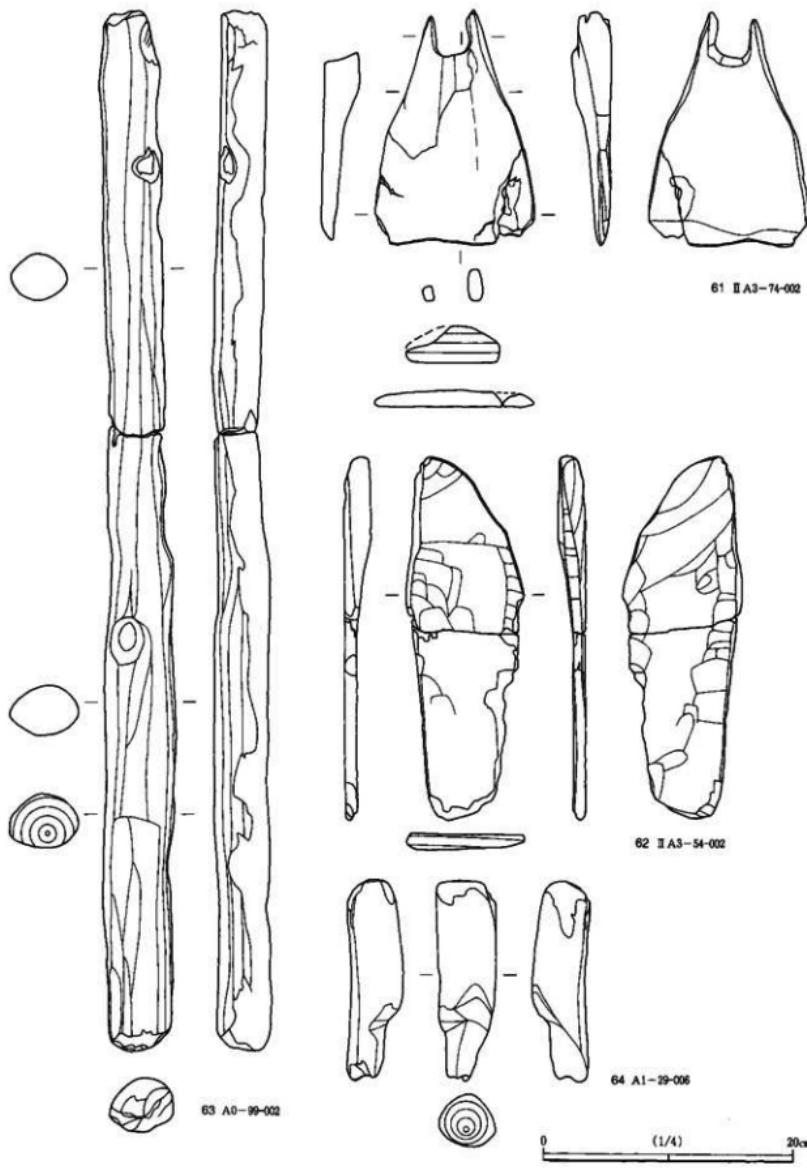
61・62の2点が出土している。完存品はなく、2点とも破損品である。

61は鍬で、II区から出土した。第58図、図版38に掲載。遺物番号はII A 3-74-002である。実測番号は62である。直柄の平鍬と思われる。全体に小型である。残存法量は長さ19.1cm、幅12.9cm、厚さ3.1cmを計る。材質はコナラ属アカガシ亜属である。

62は鍬で、II区から出土した。第58図、図版38に掲載。遺物番号はII A 3-54-002である。実測番号は157である。曲柄の鍬で、約1/2を欠損する。残存法量は長さ29.1cm、幅9.6cm、長さ2.1cmを計る。材



第57図 木製品実測図（横板、柾）



第58図 木製品実測図（平歛、曲歛、柄）

質はコナラ属アカガシ亜属である。

⑩ 柄（第58・59図、第5表、図版39）

63～67は柄と思われるものを一括した。使用状況は不明である。

63は丸柄で、Ⅲ区から出土した。第58図、図版39に掲載。遺物番号はA 0-99-002である。実測番号は101である。断面は正円ではなく、楕円形を呈する。周囲は丁寧に削られているが、節等は残している。残存法量は長さ83.9cm、幅5.6cm、厚さ4.4cmを計る。材質は不明である。

64は丸柄の破片で、Ⅲ区から出土した。第58図、図版39に掲載。遺物番号はA 1-29-006である。実測番号は178である。丸柄の端部で、そのほとんどを欠損する。残存する端部は丁寧に丸く削られている。残存法量は長さ16.1cm、幅4.7cm、厚さ4.3cmを計る。材質は不明である。

65は丸柄で、Ⅲ区から出土した。第59図、図版39に掲載。遺物番号はA 1-28-001である。実測番号は165である。両端を欠損するが、周囲は丁寧に削られている。具体的な用途は不明。残存法量は長さ23.9cm、幅2.5cm、厚さ2.5cmを計る。材質は不明である。

66は丸柄で、Ⅲ区から出土した。第59図、図版39に掲載。遺物番号はB 1-10-003である。実測番号は206である。両端を欠損する。3片に割れて出土した。残存法量は長さ36.4cm、幅2.4cm、厚さ2.5cmを計る。材質は不明である。

67は丸柄で、Ⅲ区から出土した。第59図、図版39に掲載。遺物番号はA 1-18-002-2である。実測番号は172である。両端を欠損するが、一方の端部には刃痕がみられ、再利用時の加工痕と思われる。残存法量は長さ37.0cm、幅3.8cm、厚さ3.7cmを計る。材質は不明である。

2 祭祀具（第60図、第5表、図版39）

68は祭祀具の有頭状木製品とした。Ⅲ区から出土した。第60図、図版39に掲載。遺物番号はB 1-10-004である。実測番号は173である。ほぼ完存品である。頭部の一部を欠損する。完存で、長さ43.8cm、幅6.8cm、厚さ5.5cmを計る。材質はサカキである。

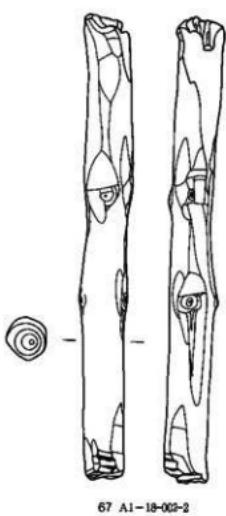
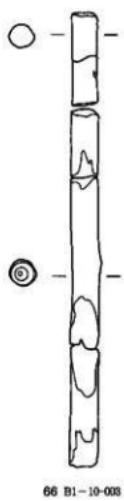
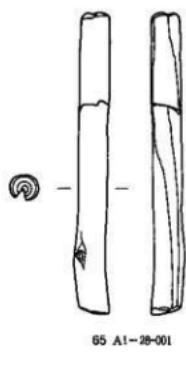
3 生活用具（第60・61図、第5表、図版39～41）

69～73は生活用具等を一括した。

69は木針と思われる製品で、Ⅲ区から出土した。第60図、図版39に掲載。遺物番号はB 1-02-004である。実測番号は42である。丁寧に削られている。太さおよび加工の丁寧さから、木針と推定した。出土状況は不明である。完存で、長さ17.2cm、幅1.1cm、厚さ0.9cmを計る。材質は不明である。

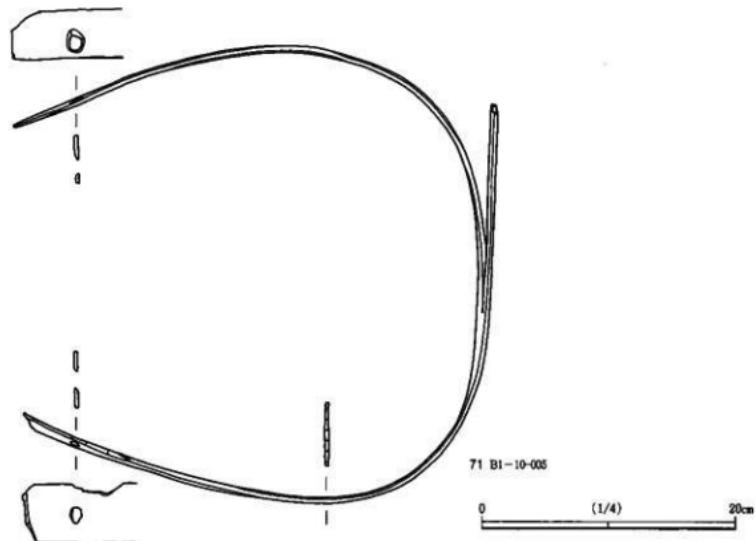
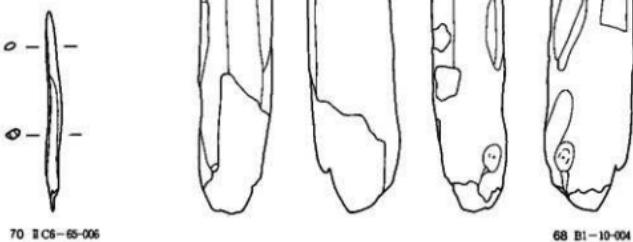
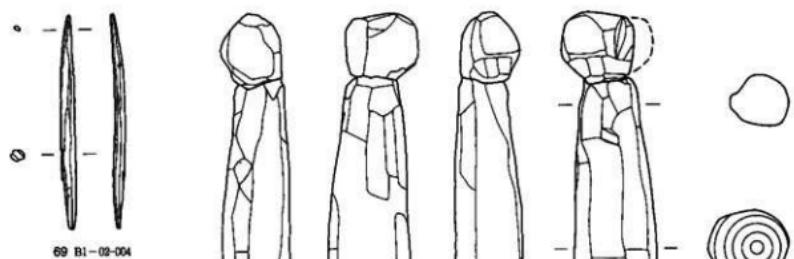
70は箸と思われる。I区から出土した。第60図、図版39に掲載。遺物番号はII C 6-65-006である。実測番号は217である。69と同様に丁寧な作りである。一端を欠損する。太さおよび形状から、箸と推定した。残存法量は長さ15.8cm、幅1.1cm、厚さ1.0cmを計る。材質は不明である。

71は曲げ物の側板と思われる。Ⅲ区から出土した。第60図、図版40に掲載。遺物番号はB 1-10-005である。実測番号は40である。U字形をしており、底板などの他の部材は伴出していない。止孔と思われる孔が、端部に1孔ずつある。しかし、これが直接に接して、輪状になっていたとは思えない。完存で、長さ37.2cm、幅35.8cm、厚さ4.6cmを計る。材質は不明である。

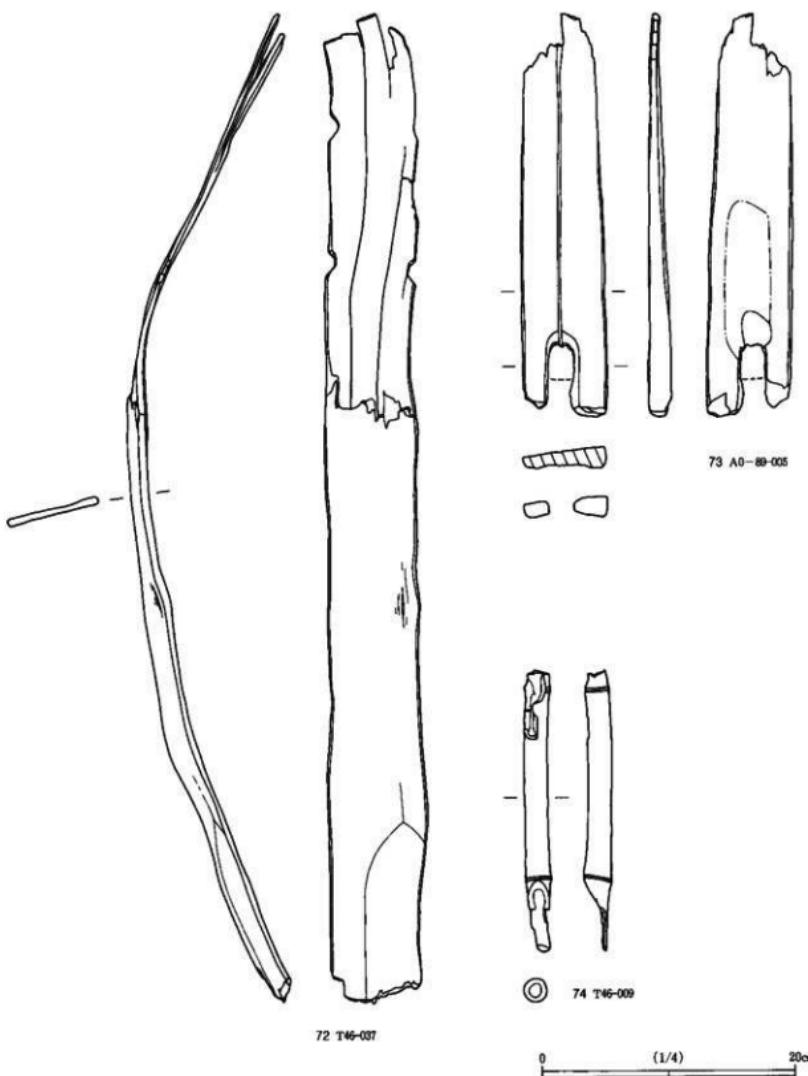


0 (1/4) 20cm

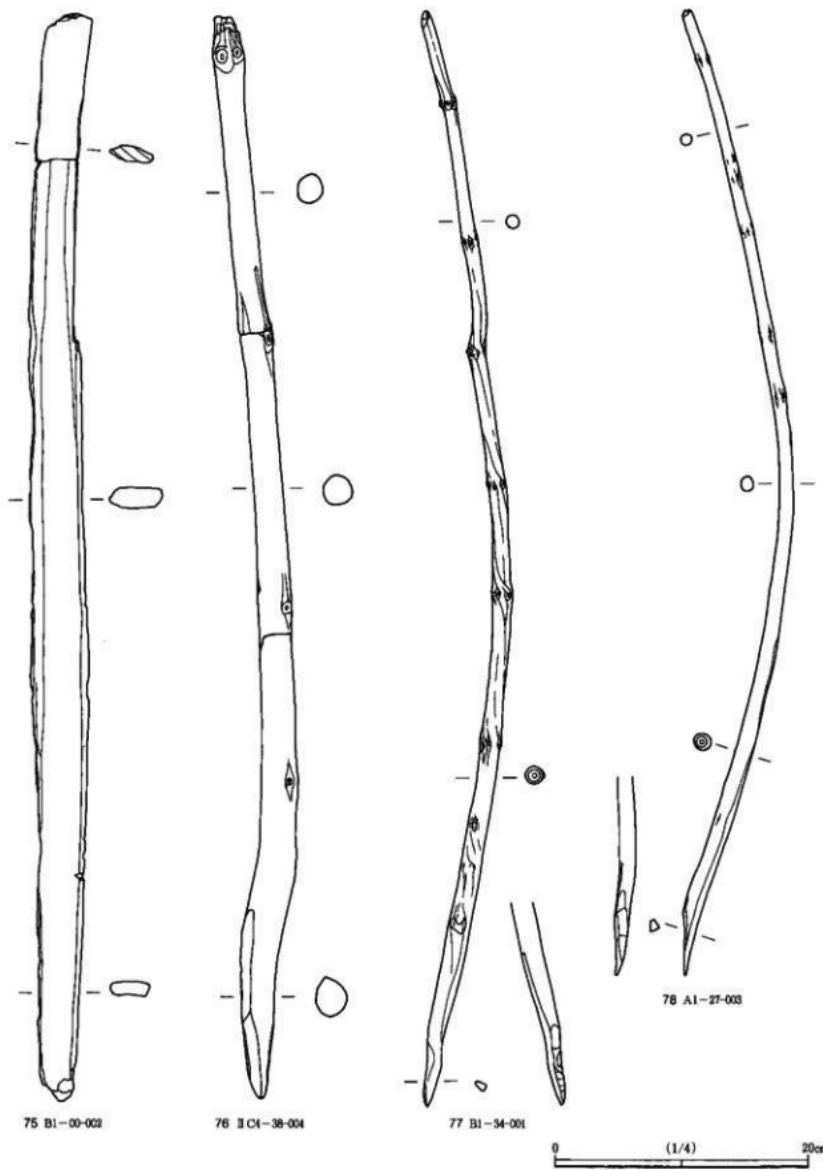
第59図 木製品実測図（柄）



第60図 木製品実測図（箸、有頭状、曲げ物）



第61図 木製品実測図（曲げ物、板材、竹材）



第62図 木製品実測図（板材、えつり）

72は曲げ物の側板で、Ⅲ区から出土した。第61図、図版41に掲載。遺物番号はT46-037である。実測番号は81である。側板で止孔などは確認できない。残存法量は長さ78.0cm、幅8.0cm、厚さ0.7cmを計る。材質は不明である。

73は生活用具に伴う部材と思われる。Ⅲ区から出土した。第61図、図版41に掲載。遺物番号はA 0-89-005である。実測番号は83である。一端を欠損する。厚さは一端に向かって薄くなる。残存部には孔があつたと推定されるが、欠損してつながっている。残存法量は長さ32.0cm、幅6.2cm、厚さ1.8cmを計る。材質は不明である。

4 竹材（第61図、第5表、図版41）

74は竹材の製品で、Ⅲ区から出土した。第61図、図版41に掲載。遺物番号はT46-009である。実測番号は210である。加工品としては唯一の製品である。先端部が鋭利な刃物によって加工されている。加工痕の反対側に窓状の孔がある。用途は不明である。残存法量は長さ22.4cm、幅2.1cm、厚さ2.3cmを計る。材質は不明である。

5 建築用具

① えつり（第62図、第5表、図版41）

76-78はえつりと思われるものを一括した。

76はえつりで、Ⅱ区から出土した。第62図、図版41に掲載。遺物番号はII C 4-38-004である。実測番号は23である。ほぼ完形で、先端は鋭利な刃物で削っている。一方の端部は丁寧に面取り様に削っている。3片に割れて出土した。完存で、長さ128.0cm、幅4.8cm、厚さ3.6cmを計る。材質は不明である。

77はえつりで、Ⅲ区から出土した。第62図、図版41に掲載。遺物番号はB 1-34-001である。実測番号は116である。先端部は鋭利な刃物で加工している。節はそのまま削り、全体を整えている。えつりか櫛木と思われ、ここではえつりとした。完存で、長さ219.0cm、幅5.0cm、厚さ4.0cmを計る。材質は不明である。

78はえつりで、Ⅲ区から出土した。第62図、図版41に掲載。遺物番号はA 1-27-003である。実測番号は179である。先端部は他の例と同様に丁寧に加工している。柄部分は樹皮を剥いだのみで、小枝の節の部分は削ってなめらかに加工している。完存で、長さ191.7cm、幅2.1cm、厚さ3.1cmを計る。材質は不明である。

② その他の部材

a 建築材の杭先（第63図、第5表、図版42）

79・80は建築材の杭先を一括した。

79は建築材の杭で、Ⅲ区から出土した。第63図、図版42に掲載。遺物番号はA 1-27-001である。実測番号は107である。杭先のみ残存している。柄の一部とも考えられるが、ここでは杭先としておく。残存法量は長さ40.8cm、幅6.0cm、6.6cmを計る。材質は不明である。

80は杭先で、Ⅱ区から出土した。第63図、図版42に掲載。遺物番号はII A 3-05-001である。実測番号は71である。杭先のみ残存しており、周囲から加工している。残存法量は長さ33.1cm、幅6.1cm、厚さ5.2

cmを計る。材質は不明である。

b 建築材の板材（第62・63～68図、第5表、図版42～47）

75・81～97で建築材の板材を一括した。

75は建築材の板材で、Ⅲ区から出土した。第62図、図版42に掲載。遺物番号はB 1-00-002である。実測番号は135である。長さに比べて、幅が狭い。特に目立つ加工痕はない。全体に遺存状況は悪く、ヒビが入っている。用途は横木として使用した建築材と推定される。ほぼ完存と思われ、長さ211.0cm、幅11.8cm、厚さ4.0cmを計る。材質は不明である。

81は建築材の板材で、Ⅲ区から出土した。第63図、図版42に掲載。遺物番号はT 46-010である。実測番号は125である。小孔が2孔あるが、用途は不明である。厚さは薄く、58・59と類似するところもある。残存法量は長さ37.5cm、幅7.5cm、厚さ1.0cmを計る。材質は不明である。

82は建築材の板材で、Ⅱ区から出土した。第63図、図版42に掲載。遺物番号はⅡ B 3-94-001-1である。実測番号は185である。一端を欠損する。端部に孔があり、欠損して裂けている。厚さは幅などと比較して厚い。側面に刃痕があり、再利用の加工痕と思われる。残存法量は長さ28.0cm、幅9.1cm、厚さ2.1cmを計る。材質は不明である。

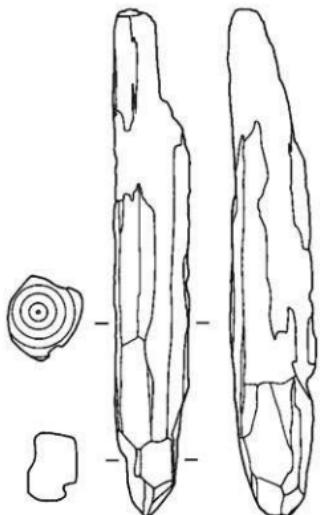
83は建築材の板材で、Ⅲ区から出土した。第64図、図版43に掲載。遺物番号はA 1-59-001-1である。実測番号は234である。大型の板材で、用途は不明である。遺存状態は悪く、中央が半分ほど裂けている。加工の途中とも思われる。完存で、長さ194.1cm、幅15.3cm、厚さ8.6cmを計る。材質は不明である。

84は建築材の丸材で、Ⅱ区から出土した。第64図、図版45に掲載。遺物番号はⅡ A 3-04-001である。実測番号は230である。湾曲し、丸太状の木材である。先は杭先のように加工されていたものと推定されるが、一端を欠損している。丁寧に加工しており、周囲も丁寧に作っているが、特に目立った加工痕はない。ほぼ完存と思われ、長さ226.8cm、幅9.0cm、厚さ6.5cmを計る。材質は不明である。

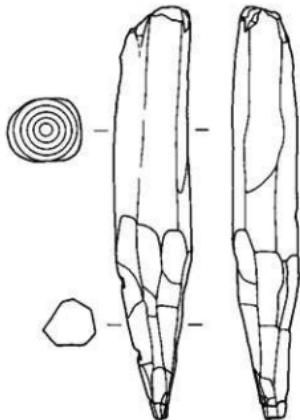
85は建築材の板材で、Ⅱ区から出土した。第64図、図版42に掲載。遺物番号はⅡ A 3-22-001である。実測番号は248である。板材で、木心外部を使用している。中央部で2片に分かれている。残存法量は長さ182.6cm、幅20.5cm、厚さ4.0cmを計る。材質は不明である。

86は建築材の板材で、Ⅲ区から出土した。第65図、図版43に掲載。遺物番号はC 1-14-001-2である。実測番号は43である。丁寧に加工がされている。一端を欠損する。一方にはぼぞ穴様の切り込みがある。外面は樹皮を剥いだ状態である。完存で、長さ284.0cm、幅16.0cm、厚さ5.5cmを計る。材質はヒノキである。

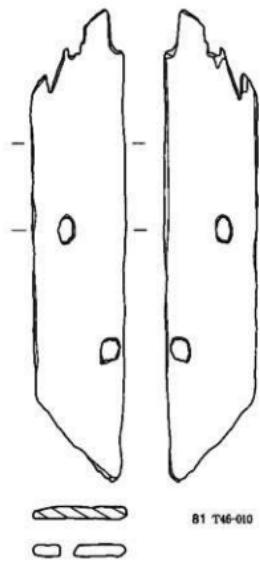
87は建築材の板材で、Ⅲ区から出土した。第65図、図版44に掲載。遺物番号はC 1-34-001である。実測番号は47である。両端で加工が異なっている。一端は直線的に加工しているが、他の端は斜めに処理している。ほぼ完形である。丁寧な加工が施されており、両面には手斧による加工痕が明瞭にみられる。これは一種の文様的な表現で、この材がその文様的な削り痕を意識していることが伺われる。中央にはぼぞ穴があり、端にもぼぞ穴があるが、左右で位置が若干異なる。両端にもぼぞ穴が1孔ずつみられる。また、中央部のぼぞ穴にはぼ接して抉り痕があり、他の部材と組み合わせられていたことが伺われる。88と同様な作りで、使用目的も同一であったと思われる。ほぼ完存と思われる。長さ264.0cm、幅8.0cm、厚さ4.0cmを計る。材質はヒノキである。



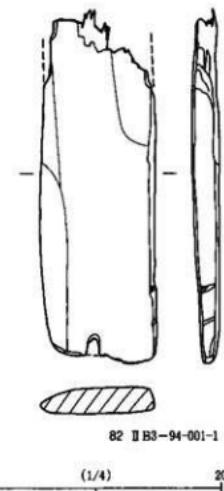
79 A1-27-001



80 II A3-05-001

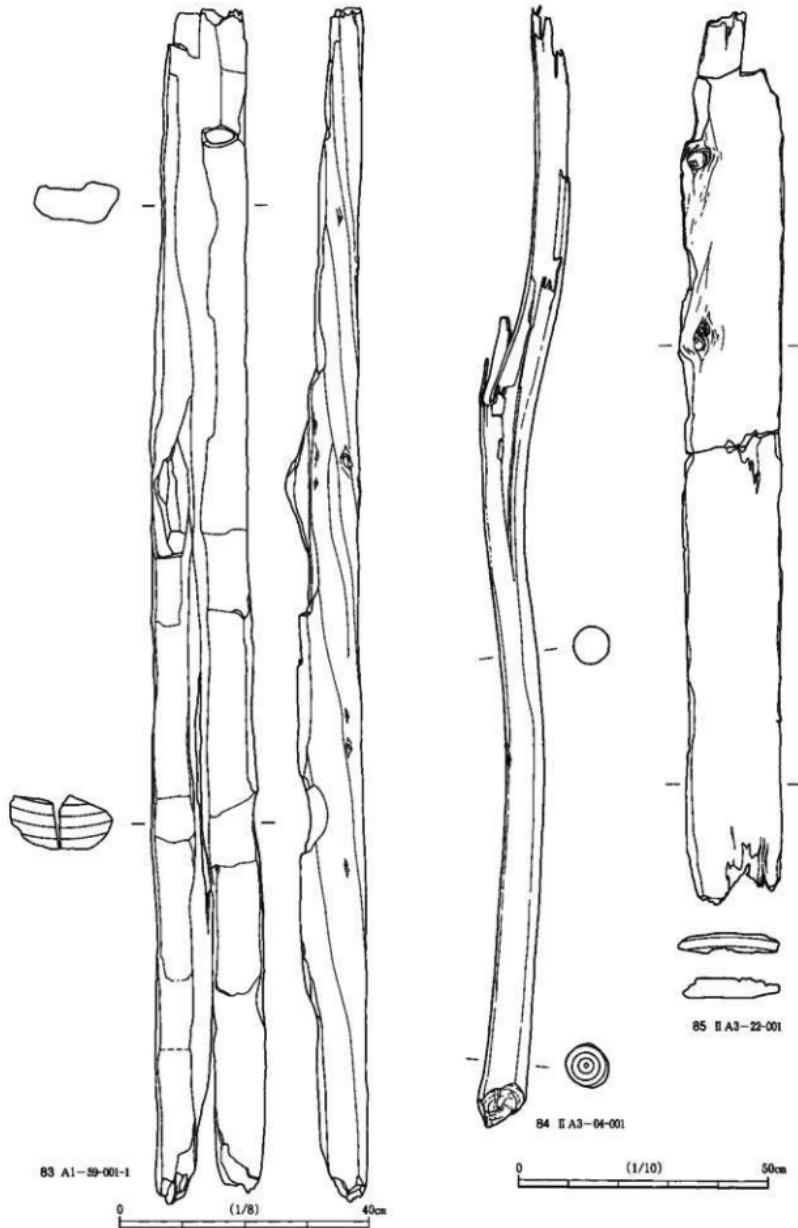


81 T46-010

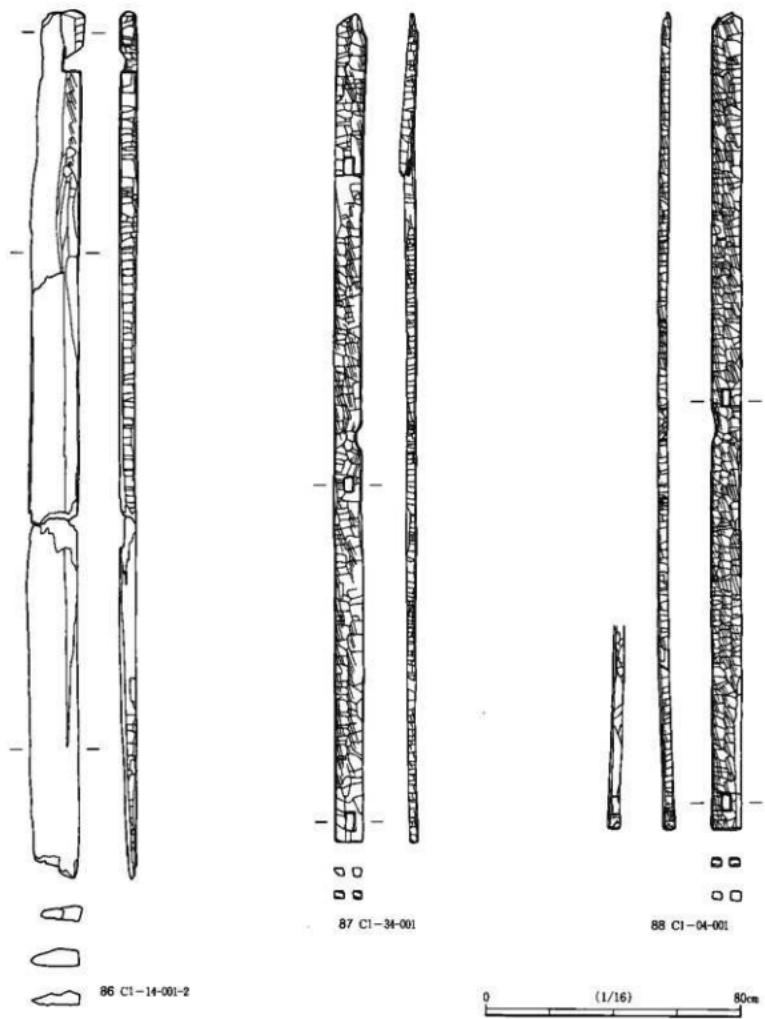


82 II B3-94-001-1

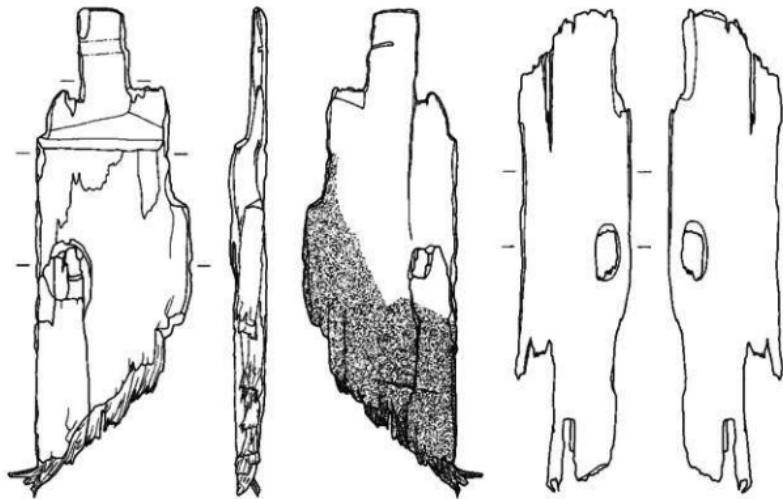
第63図 木製品実測図（杭、板材）



第64図 木製品実測図（建築材）

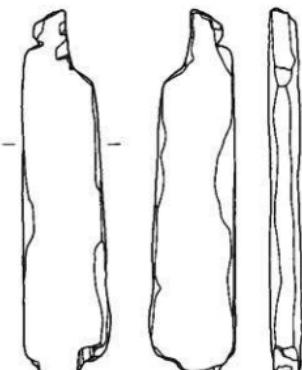
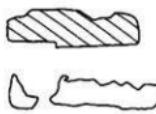


第65図 木製品実測図（板材、建築材）

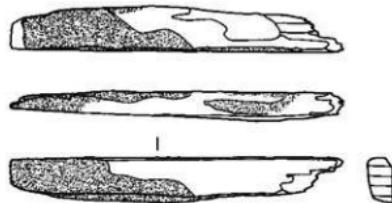


99 II B4-43-001

90 II C8-66-001



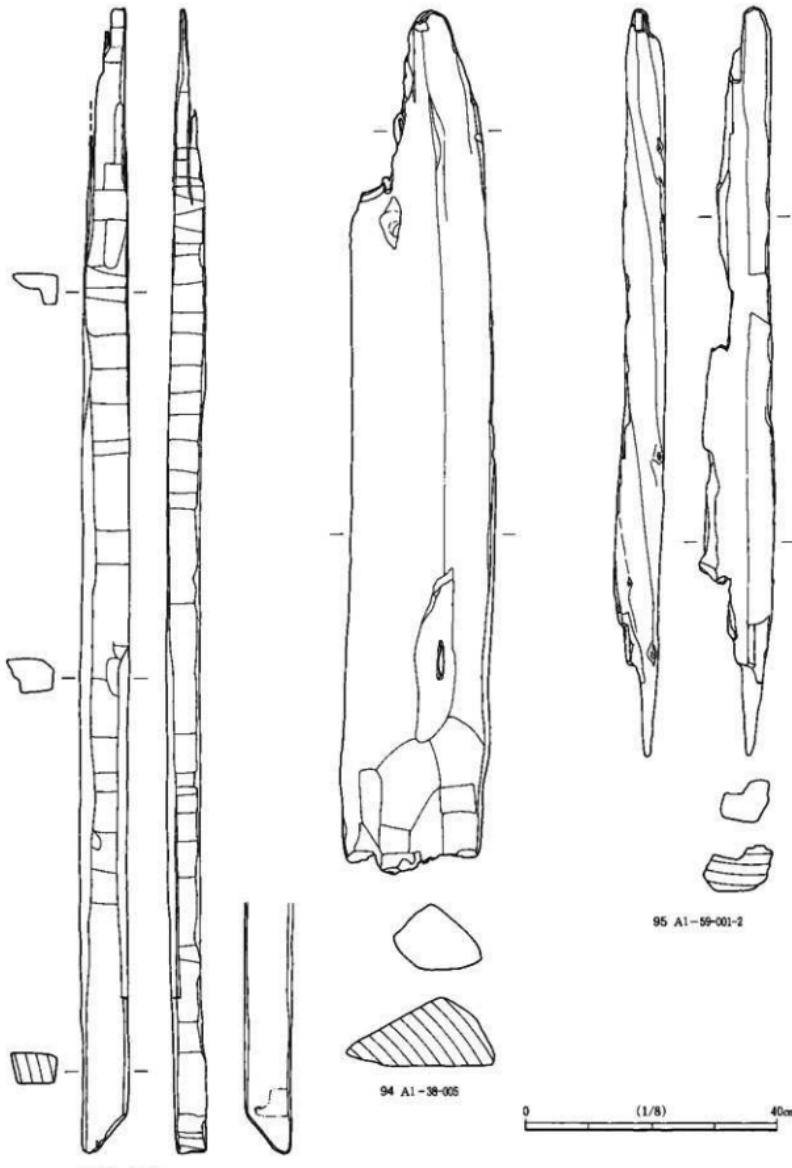
91 C0-50-001



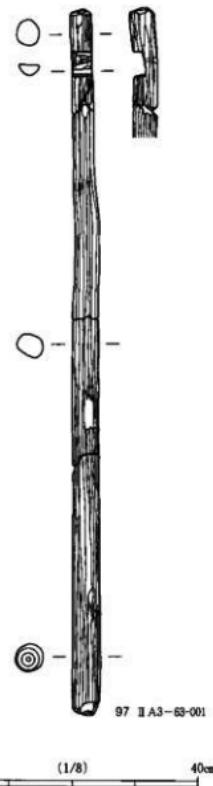
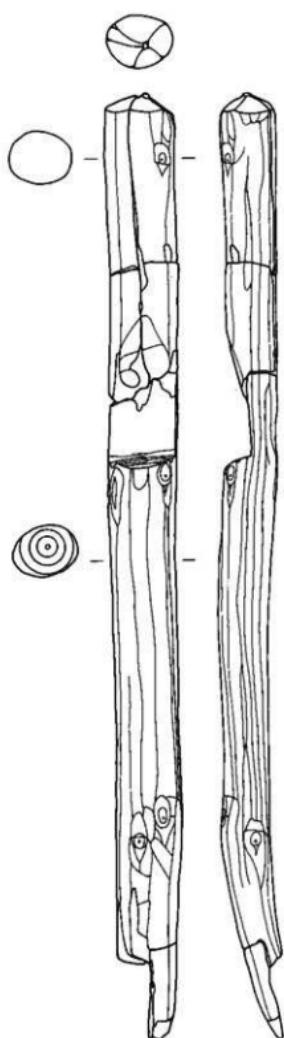
92 II A3-23-001

0 (1/4) 20mm

第66図 木製品実測図（板材、不明）



第67図 木製品実測（板材、建築材）

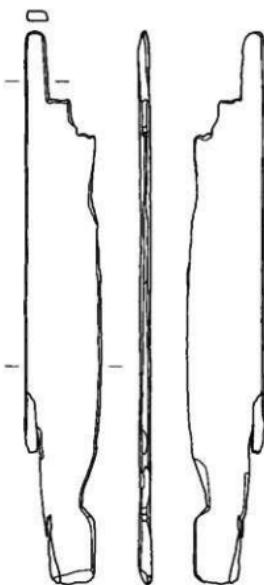


0 (1/4) 20cm

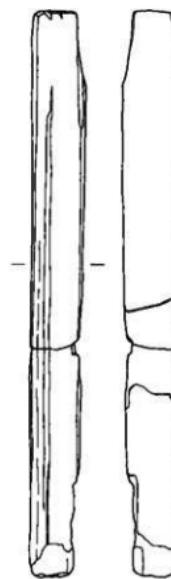
96 II A3-74-001

0 (1/8) 40cm

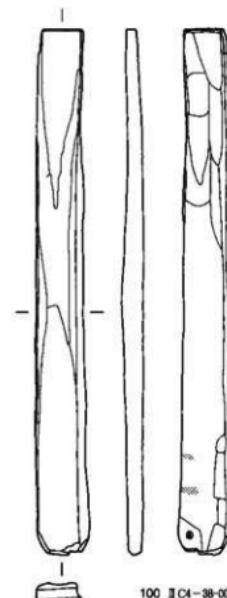
第68図 木製品実測図（建築材）



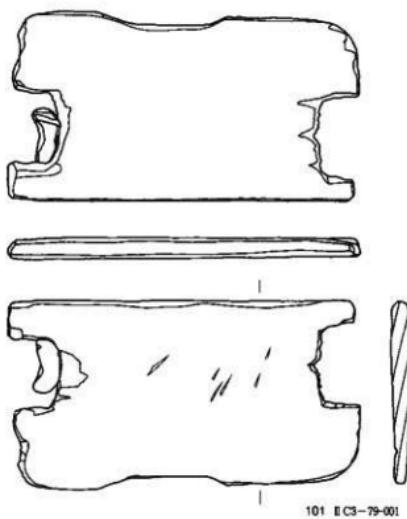
98 A0-89-004



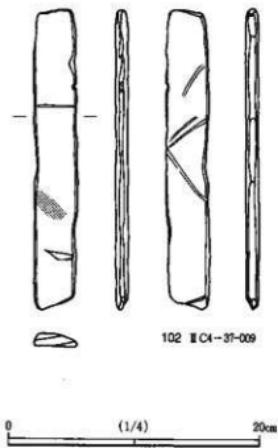
99 B1-57-001



100 II C4-38-002



101 II C5-79-001



102 II C4-37-009

0 (1/4) 20cm

第69図 木製品実測図（板材）

88は建築材の板材で、Ⅲ区から出土した。第65図、図版44に掲載。遺物番号はC 1-04-001である。実測番号は49である。87と同様な作りであり、同一目的で使用されていたものと考えられる。端のはぞ穴は1孔だけである。87に比較して孔が一方のみにあることだけで、他はほぼ同一である。ほぼ完存と思われるが一部を欠く。長さ258.0cm、幅9.0cm、厚さ3.0cmを計る。材質はヒノキである。

89は建築材の板材で、Ⅱ区から出土した。第66図、図版45に掲載。遺物番号はⅡ B 4-43-001である。実測番号は84である。はぞが残存するが、他は欠損している。はぞ部分は他の部分に比較して薄くなっている。こまかに細工が施されている。残存法量は長さ39.8cm、幅12.6cm、厚さ3.0cmを計る。材質は不明である。

90は建築材の板材で、Ⅰ区から出土した。第66図、図版45に掲載。遺物番号はⅡ C 6-66-001である。実測番号は120である。全体に破損がひどいが、しっかりした板材である。断面の形状は82に類似し、用途的には同一と思われる。残存法量は39.4cm、幅9.0cm、厚さ1.7cmを計る。材質は不明である。

91は建築材の部材で、Ⅲ区から出土した。第66図、図版47に掲載。遺物番号はC 0-50-001である。実測番号は98である。用途不明の板材である。幅に比較して厚さは厚く、丁寧な作りである。残存法量は29.9cm、幅7.0cm、厚さ2.5cmを計る。材質は不明である。

92は建築材の横木で、Ⅱ区から出土した。第66図、図版46に掲載。遺物番号はⅡ A 3-23-001である。実測番号は127である。一部炭化している部分がある。表面は磨かれている。両端を欠損しており、使用目的は不明である。残存法量は長さ26.9cm、幅3.7cm、厚さ2.2cmを計る。材質は不明である。

93は建築材の部材で、角材である。Ⅲ区から出土した。第67図、図版45に掲載。遺物番号はB 1-00-001である。実測番号は130である。一端を欠損する。用途不明の角材であるが、4面のうち3面は加工痕を明瞭に残している。端部は斜めに切断されており、枠組みの部材とも考えられる。残存法量は長さ189.3cm、幅7.3cm、厚さ5.2cmを計る。材質は不明である。

94は建築材の部材で、Ⅲ区から出土した。第67図、図版46に掲載。遺物番号はA 1-38-005である。実測番号は151である。両端を欠損する。用途不明の角材である。断面は三角形で、重量感のあるものである。完存で、長さ139.6cm、幅23.1cm、厚さ10.8cmを計る。材質は不明である。

95は建築材の板材で、Ⅲ区から出土した。第67図に掲載。遺物番号はA 1-59-001-2である。実測番号は444である。用途不明で、遺存状態は悪い。両端を欠損する。縦に半裁した材である。残存法量は長さ120.0cm、幅11.2cm、厚さ7.9cmを計る。材質は不明である。

96は建築材の丸材で、Ⅱ区から出土した。第68図、図版45に掲載。遺物番号はⅡ A 3-74-001である。実測番号は207である。用途は不明である。断面は丸形で、一方の端には切り込みがあるが、他の端には切り込みがない。完存と推定され、長さ75.3cm、幅5.5cm、厚さ4.4cmを計る。材質は不明である。

97は建築材の丸材で、Ⅱ区から出土した。第68図、図版46に掲載。遺物番号はⅡ A 3-63-001である。実測番号は396である。断面は丸形で、96同様に一端に組み合わせの切り込みがある。他の端は丁寧に丸く削られている。完存で、長さ113.6cm、幅4.3cm、厚さ4.3cmを計る。材質は不明である。

6 用途不明の加工材（第69・70図、第5表、図版46～48）

98～107で用途不明の板材を一括した。

98は用途不明の板材で、Ⅲ区から出土した。第69図、図版47に掲載。遺物番号はA 0-89-004である。

実測番号は140である。薄く、丁寧に加工された板材である。一端を欠損する。残存する一端に足板のくびれ様の刷りがみられるが、足板としては薄すぎる。完存で、長さ44.4cm、幅6.1cm、厚さ0.8cmを計る。材質は不明である。

99は用途不明の板材で、Ⅲ区から出土した。第69図、図版47に掲載。遺物番号はB 1-57-001である。実測番号は58である。丁寧な作りの板材で、長辺の一辺は直線で、定規かと思われるものである。断面はかまぼこ型を呈している。完存と思われ、長さ45.6cm、幅4.1cm、厚さ0.9cmを計る。材質は不明である。

100は用途不明の板材で、Ⅱ区から出土した。第69図、図版47に掲載。遺物番号はⅡ C 4-38-002である。実測番号は54である。用途不明の板材であるが、丁寧な作りである。中央に最大厚があり、端につれて薄くなる。端に貫通しない小孔があるが、性格は不明である。この小孔の近くに圧痕がみられる。完存で、長さ42.6cm、幅4.2cm、厚さ1.7cmを計る。材質は不明である。

101は用途不明の板材で、Ⅱ区から出土した。第69図、図版46に掲載。遺物番号はⅡ C 3-79-001である。実測番号は86である。板材で、両側に切り込みがあり、何らかの組みものと思われる。全体にどっしりとした作りで、木枠型大足の小口板の可能性も捨てきれない。圓化したものの上辺の中央は直線的でなく、使用によって磨滅した様子をしている。刃痕がみられる。完存と思われ、長さ28.0cm、幅15.1cm、厚さ1.6cmを計る。材質は不明である。

102は用途不明の板材で、Ⅱ区から出土した。第69図、図版47に掲載。遺物番号はⅡ C 4-37-009である。実測番号は129である。断面が三角形になっており、形状からは99に類似する。しかし、表面に圧痕によるくぼみがあり、横木的な使われ方をしていたものと推定される。残存法量は長さ24.0cm、幅3.4cm、厚さ1.0cmを計る。材質は不明である。

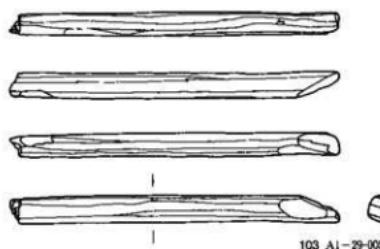
103は用途不明の部材で、Ⅲ区から出土した。第70図、図版48に掲載。遺物番号はA 1-29-005である。実測番号は11である。横木と思われるが、用途不明である。丁寧な作りで、一端は鋭利な刃物で切られている。断面は太く、面取りがされている。残存法量は長さ26.3cm、幅2.2cm、厚さ1.8cmを計る。材質は不明である。

104は用途不明の板材で、Ⅲ区から出土した。第70図、図版46に掲載。遺物番号はB 1-02-003である。実測番号は96である。端を欠損する。残存する部分は厚く、徐々に薄くなり欠損部になる。薄くなるのは一面側のみである。厚い部分には孔が1孔ある。吊すためのものと思われる。残存法量は長さ21.4cm、幅5.2cm、厚さ0.9cmを計る。材質は不明である。

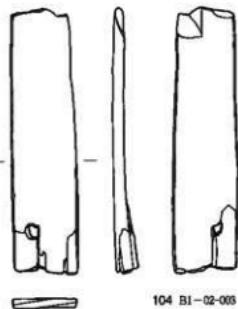
105は用途不明の部材で、Ⅲ区から出土した。第70図、図版48に掲載。実測番号105（遺物番号B 0-71-001）と、実測番号64（遺物番号B 0-81-002）の2片が接合する。用途不明であるが、横木に使用されていたものと思われる。端は鋭利な刃物で切断されている。B 0-71-001は長さ52.6cm、幅3.4cm、厚さ2.0cmを計り、B 0-81-002は長さ32.9cm、幅3.3cm、厚さ2.1cmを計る。材質は不明である。

106は用途不明の部材で、Ⅱ区から出土した。第70図、図版48に掲載。遺物番号はⅡ A 3-54-001である。実測番号は177である。一方の端に吊すための孔がある。先端部には、紐状のものを引っかける目的か、溝がある。断面は四角形に近く、しっかりしている。完存で、長さ36.5cm、幅3.1cm、厚さ1.7cmを計る。材質は不明である。

107は用途不明の板材で、Ⅲ区から出土した。第70図、図版48に掲載。遺物番号はC 0-84-001である。実測番号は66である。全体に丁寧な作りで、曲げ物の底板のカキゾコ板を転用したものと思われる。106



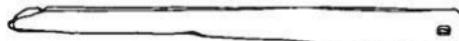
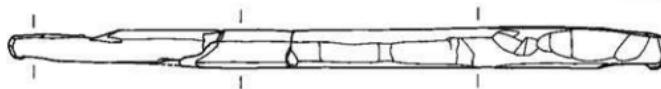
103 AI-29-005



104 BI-02-003



105 BO-71-001
BO-81-002



106 II A3-54-001



107 CO-84-001



0 (1/4) 20cm

第70図 木製品実測図（板材、不明）

と同様に紐状のものを引っかけるために使用したと思われる。完存で、長さ34.5cm、幅4.1cm、厚さ1.2cmを計る。材質は不明である。

第5章 まとめ

1 遺跡の性格と条里制の遺構について

本遺跡で出土した木製品の性格と検出された畦畔について検討するには、I区から出土した木製品の出土状況が参考になる。先にも述べたが、これらの木質部および木製品の出土状況からは、まさに畦畔の補強や補修のために畦畔の構築材のなかに埋め込まれた様子がよみとれる。また、出土した木製品は製品として使用された直後にそのままで廃棄された状態のものと、水田耕作を行っていた時に廃棄されたか、補強のための補強材にするために若干加工して使用されたものと推定できるものが多い。

II区では木製品の出土状況から、これらの木製品が畦畔の補強材の可能性がある。また、III区からは2方向の畦畔が検出されているが（第17図）、この畦畔は条里制としての企画性がなく、直行しない。この畦畔が、I区で推定された畦畔と同一企画のものなのか、他の条里制に基づく畦畔なのか不明である。といって、II区・III区においては畦畔が全くなかったのかというと、そうではない。それは調査区の壁で畦畔と推定される断面が確認できたこと（第17図）などから、調査時点での見落としの可能性も考えられる。木質部および木製品の出土に調査の目が向いてしまったことに起因している可能性がある。ただし、他の区および確認トレンチから検出された溝状遺構については、畦畔に関するものは確認できなかった。

本遺跡出土の木質部および木製品は、その出土状況から、畦畔の補強のために使用された木製品が多くみられることから、畦畔の遺構は直接には明確にできなかったが、畦畔の存在は推定されよう。

笛生衛氏は、東西等位方向に向く畦と、やや東へ傾く（N-25°-Eの方向）畦畔の、2方向の畦を推定している。本遺跡でも、I区で検出された畦畔は、笛生氏の推定した外箕輪遺跡での発掘成果の条里地割にほぼ一致し、8世紀後半までさかのばれると思われる。渡邊氏（君津都市文化財センター）は、畦畔、水路を調査し、それらのうち4号畦畔としたものは、笛生推定の畦畔と方向がほぼ一致していること、削木による畦畔の補強がみられたことから、笛生氏が想定した、条境をN-25°-E前後の方向の条里地割りがさらに東まで存在していることを確認した。本調査区はそのさらに東に位置している。

このように、三直中郷遺跡坂ノ下地区の発掘の成果であるI区での木製品の出土したラインは、渡邊氏が調査した3号畦畔としたものと方向がほぼ一致し、同一ラインに所在している。II区の木製品の出土状況は、I区で検出された木製品の出土状況から畦畔と推定したが、明確に一致はしていない。III区で確認された擬畦畔が検出されているが、笛生・渡邊両氏の確認した畦畔とは一致しない。

そこで、明治15年に作成された参謀本部陸軍部測量局作製の迅速図に、笛生・渡邊両氏の想定した条里制を重ねると、第71図になる。また、明治以後のは場整備および宅地造成等による変更があるので、君津市の都市計画図に同様に基準線を設定すると、第72図になる。この両図から、三直中郷遺跡周辺でも、また坂ノ下地区、沖田地区の周辺においても、笛生・渡邊両氏の想定した条里制の線とほぼ一致する道路および、畦が見受けられる。また、I区の木製品の出土がこれらと同一の畦畔とすれば、三直中郷遺跡坂ノ下地区出土の木製品も、ほぼこの時代の遺物と推定して良いと思われる。

2 木製品

今回の調査では300点以上の実測可能な木質品・木製品が出土したが、残存状況や分類により実測図をとることにした木製品は107点であった。第4章で出土木製品の概要をみたが、簡単にこれらのまとめ

をしたい。

三直中郷遺跡坂ノ下地区出土の遺物の出土状況や出土遺物から以下のことが確認できた。

- ① 出土した木質品・木製品の多くのものが、製品あるいは2次的加工を受けたもので、未製品はみられない。
- ② 木枠型大足と四孔田下駄については、その場に放置されたような様子がみられる。
- ③ 木製品の多くは輪カンジキの足板であり、他に木枠型大足の小口板や鉢の破損品などがある。
- ④ 建築材として板材や角材、特に遺物番号87・88のように加工痕が明瞭に残されているものがある。
- ⑤ 自然木や木株がある。

Ⅲ区の遺構検出面の地形測量によると、西北隅に向かって傾斜しており（第17図）、この方向に向かって遺物が流れのように出土している。このことは、出土した木製品の多くが、畦畔の補強材として埋め込まれたことと、低地部へ流れ集まつたものの両者があることを裏付けている。一方、木枠型大足が使用された形に近い状態で出土したことは、畦畔の脇に廃棄されたことが考えられる。このことは、長期にわたってこの場所で水田耕作が行われていたことを推測させる。出土遺物の多数が輪カンジキの足板であることは、この地域が昔から深田で、泥田であったことを物語っており、特に、木枠型大足が三直中郷遺跡から3個出土しているのは、これらのことと裏付けている。

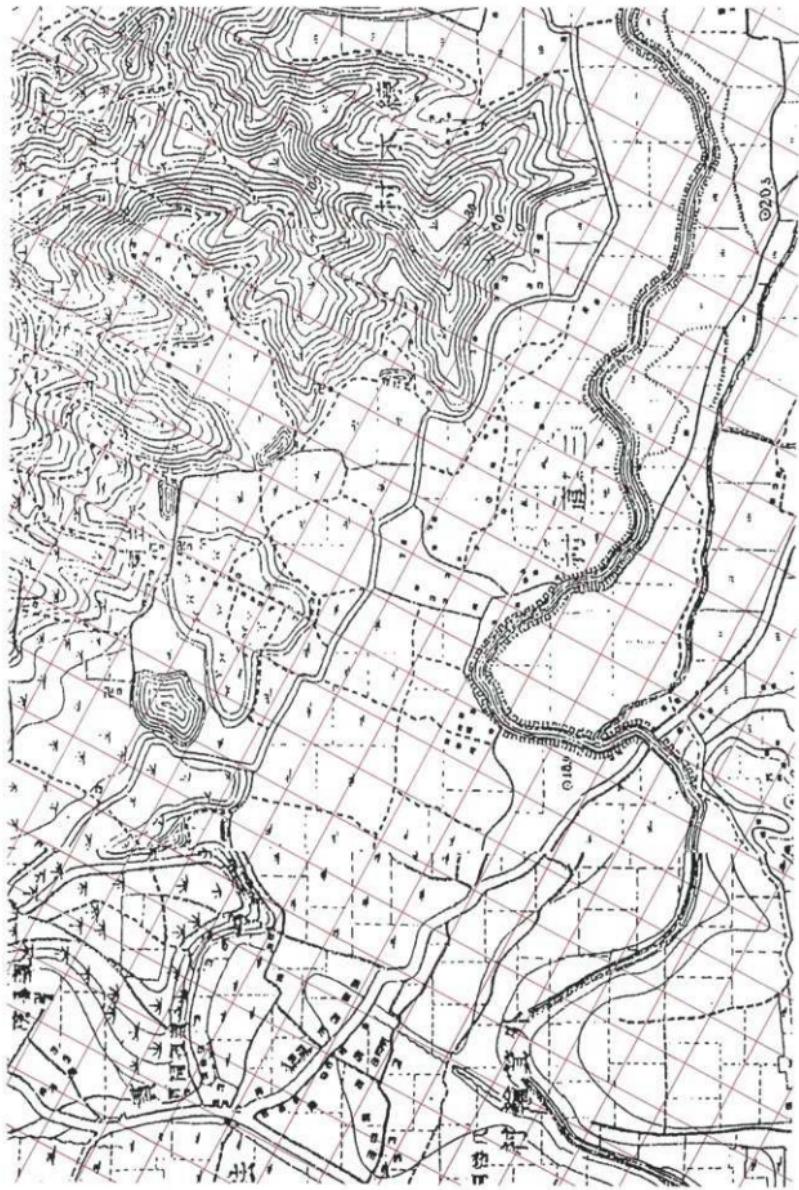
輪カンジキの足板に曲げ物の底板を転用している例が多くみられる。曲げ物底板の転用の上限を、9世紀頃にみられる曲げ物の流通の発達の結果と考えることが可能であるならば、曲げ物底板は9世紀後半頃と推定でき、三直中郷遺跡の畦畔は8世紀後半で構築され、9世紀代まで修復されながら継続して使用されてきたと推定される。このことは、笹生・渡邊両氏が想定した畦畔の築造時期とはほぼ一致している。また、補修年代もほぼこの頃に設定することが可能である。このように考えると、三直中郷遺跡の畦畔は8世紀後半で築造され、その後、修復を繰り返しながら現在まで連続として使用してきたと考えられる。

出土した遺物は弥生土器と、8世紀前半から9世紀後半の遺物が出土している。畦畔の築造期と修復期が8世紀後半頃、遅っても8世紀代であることと矛盾しない。また、畦畔の補修時期を9世紀後半頃と推定したこととも一致する。木製品の製作者については直接の資料はない。出土した土師器は摩滅しているが、壺形土器や壺形土器の破片がある。土器や木製品の中に箸や木針と思われるもの、有頭状木製品、それに建築材などの出土などから、近くに集落があったことが推定される。出土した木製品の製作者は、この集落に居住していたと推定することは可能であろう。

3 使用樹木

坂ノ下地区から出土した木製品で、樹種同定を実施したのは第6表の19点である。これら19点は保存処理を実施したもので、残存状態が良好のもののみである。したがって、出土木製品の材質の傾向を知ることはできない。その上19点だけでは樹種と木製品との関係も難しいかもしれない。知り得た資料をまとめると次のようになる。モミ属（田下駄）、ヒノキ（田下駄、木枠型大足）、スギ（小口板、田下駄）、ヒイラギ（植）、ケヤキ（田下駄）、コナラ属アカガシ亜属（鉢）、サカキ（有頭状木製品）である。これらの農具と樹種は、千葉県の弥生時代から古代の木製農具にはカシ類が多いとの指摘と一致している。鉢はコナラ属アカガシ亜属であり、市原条里制遺跡の鉢と同種である。また、有頭状木製品の樹種はサカキで、

第71图 遗跡周辺地形圖（迅速図1:10,000）



第72圖 進場周邊地形圖（都市計畫圖1:10,000）



同じく市原条里制遺跡出土の特殊な彫刻のある棒状品と同種である。これら少ない分析結果からも、本遺跡出土の木製品は、他遺跡の傾向とほぼ一致していることがわかる。次に、製作者についてであるが、前節で触れたとおり近隣の人たちとすれば、材料も近くで入手したものと考えられよう。

付編 三直中郷遺跡坂ノ下地区から出土した木製品の材同定報告

はじめに

本編では、平成13年度に（株）東都文化財保存研究所に保存処理を依頼した遺物についての報告である。本報告書には114点の木製品の実測図を掲載しているが、（株）東都文化財保存研究所に保存処理依頼した遺物はそのうちの一部である。保存処理を委託した遺物の点数は平成13年度は12点、平成14年度は6点である。以下が（株）東都文化財保存研究所の報告である。

1. 試料

試料は、出土した木製品12点（試料番号1～12）である。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに第6表に記した。

2. 方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

樹種同定結果を第6表に示す。木材は、針葉樹3種類（モミ属、スギ・ヒノキ）と広葉樹2種類（ケヤキ・ヒイラギ）に同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・スギ (*cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ (*chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ケヤキ (*zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部はほぼ単列で時に2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ヒイラギ (*Osmanthus Heterophyllus* (G. Don) P. S. Green) モクセイ科モクセイ属
紋様孔材で、道管は多数が集まって放射方向・斜方向に配列し、木口面で火炎状やY字状などの紋様を呈する。道管は單穿孔を有する。放射組織は異性II型、1~2細胞幅、1~20細胞高。

第6表 樹種同定結果

番号	掲載番号	遺物番号	分類	樹種	備考
1	23	II C 4 - 3 8 - 0 0 3	足板	モミ属	
1	3	II A 4 - 4 1 - 0 0 1	小口板	ヒノキ	
3	54	II C 4 - 6 6 - 0 0 2	横板	モミ属	
4	12	B 1 - 3 5 - 0 0 1	四孔田下駄	ヒノキ	
5	12	B 1 - 3 5 - 0 0 2	四孔田下駄	ヒノキ	
6	20	B 1 - 1 2 - 0 0 2	足板	スギ	
7	20	B 1 - 1 2 - 0 0 3	足板	スギ	
8	60	C 0 - 9 2 - 0 0 1	桶	ヒイラギ	
9	14	II C 4 - 8 7 - 0 0 2	四孔田下駄	ケヤキ	
10	2	A 1 - 2 9 - 0 0 2	小口板	スギ	
11		A 2 - 4 7 - 0 0 1	足板	ヒノキ	沖田地区
12	大足	II C 4 - 3 7	木栓型大足	ヒノキ	
13	86	C 1 - 1 4 - 0 0 1 - 2	板材	ヒノキ	
14	87	C 1 - 3 4 - 0 0 1	板材	ヒノキ	
15	88	C 1 - 0 4 - 0 0 1	板材	ヒノキ	
16	68	B 1 - 1 0 - 0 0 4	有頭状木製品	サカキ	
17	62	II A 3 - 5 4 - 0 0 2	歛	コナラ属アカガシ亜属	
18	61	II A 3 - 7 4 - 0 0 2	歌	コナラ属アカガシ亜属	
19	大足	II C 4 - 3 8 - 0 0 7	横木	ヒノキ	

第7表 樹種同定顕微鏡写真一覧

番号	遺物番号	試料番号	種類名	断面	倍率	図版番号	写真番号
1	23	1	モミ属	木口	8	49-1a	
2	23	2	モミ属	柾目	20	49-1b	
3	23	3	モミ属	柾目	20	49-1c	
4	12	4	ヒノキ	木口	8	49-3a	
5	12	4	ヒノキ	柾目	20	49-3b	
6	12	4	ヒノキ	柾目	20	49-3c	
7	20	7	スギ	木口	8	49-2a	
8	20	7	スギ	柾目	20	49-2b	
9	20	7	スギ	柾目	20	49-2c	
10	60	8	ヒイラギ	木口	8	50-5a	
11	60	8	ヒイラギ	柾目	20	50-5b	
12	60	8	ヒイラギ	柾目	20	50-5c	
13	14	9	ケヤキ	木口	8	50-4a	
14	14	9	ケヤキ	柾目	20	50-4b	
15	14	9	ケヤキ	柾目	20	50-4c	

写 真 図 版





1 三直中郷遺跡坂ノ下地区（西から）



2 三直中郷遺跡坂ノ下地区（東から）



1 I 区遺物出土状況 (IIC-06)



2 II 区全景 (北から)



1 II区 SD001 (東から)



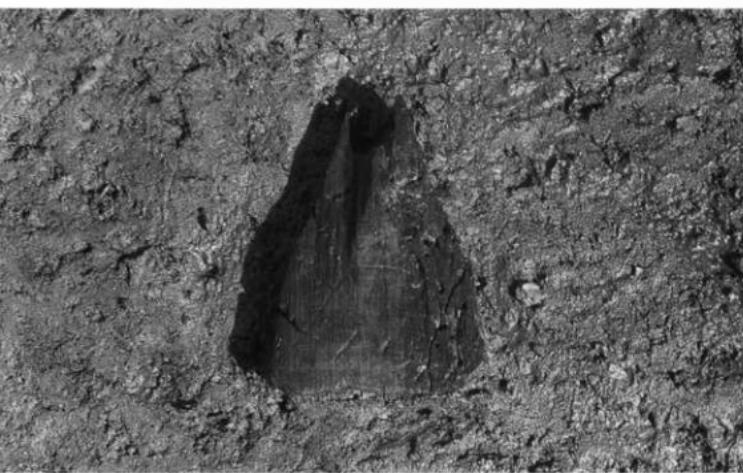
2 II区 SD001
土層断面 (A - A')



3 木枠型大足出土状況



1 14 (四孔田下駄)



2 61 (鍊出土状況)



3 木製品出土状況
(II C 4-98)



1 III区全景（北東から）



2 III区全景（西から）



3 III区全景（北西から）



1 Ⅲ区 SD001A・B全景



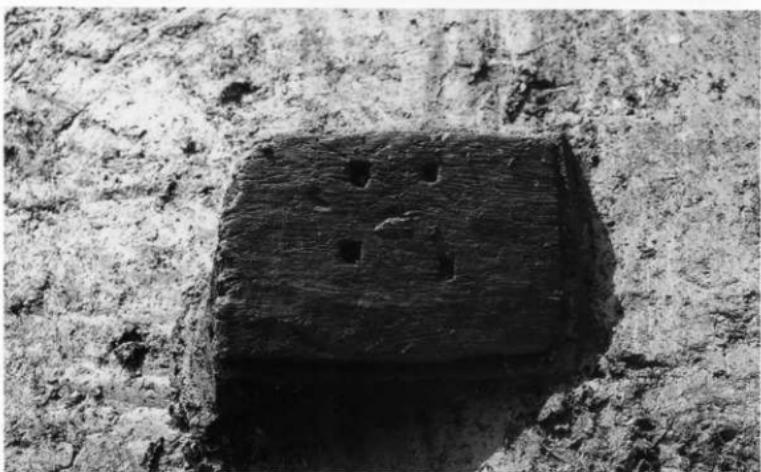
2 遺物出土状況
(C0-92)
60(楕)



3 遺物出土状況
(B1-10)
71(曲げ物)



1 遺物出土状況
(A 1-29)
1・2・103



2 遺物出土状況
(B 1-16)
13 (四孔田下駄)



3 遺物出土状況
(B 1-35)
12 (四孔田下駄)



1 遺物出土状況 (A 2-04)



2 遺物出土状況 (A 1~B 1)



3 遺物出土状況 (A 1~B 1)



1 遺物出土状況 (A1~B1)



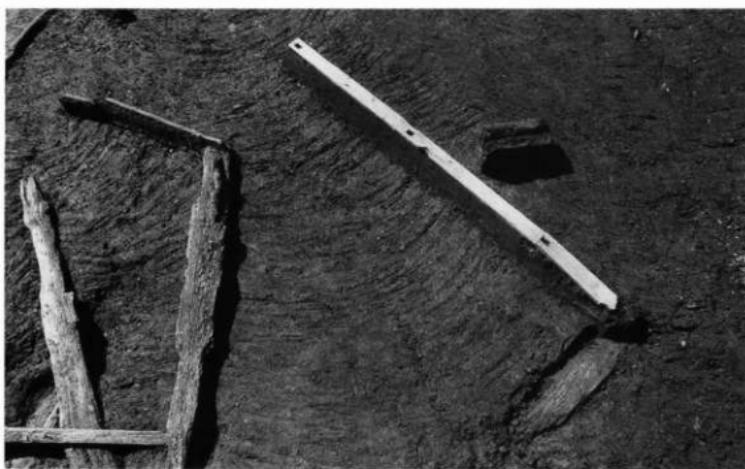
2 遺物出土状況 (B1)



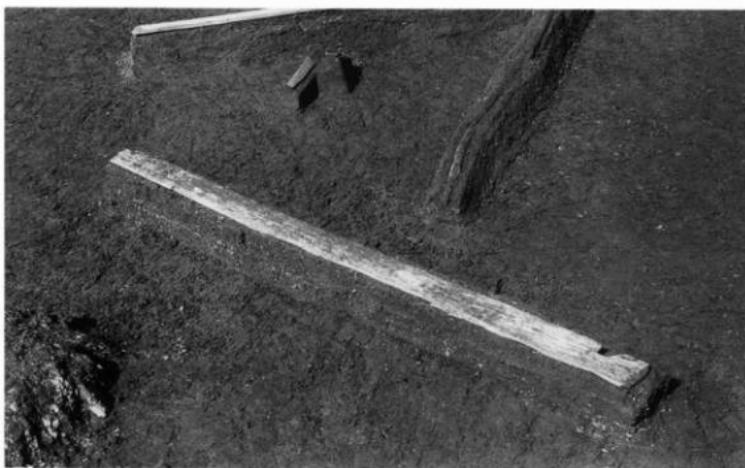
3 遺物出土状況 (B1)



1 遺物出土状況 (B 1-00)



2 遺物出土状況
(C 0~C 1)
87 (建築材)



3 遺物出土状況
(C 0~C 1)
86 (建築材)



1 遺物出土状況 (C0~C1)



2 IV区全景 (東から)



3 IV区全景 (西から)



1 V区 SD001



2 VI区 SD001



3 VII区 SD001



1 VII区 SD001



2 IX区 SD001



3 X区 SD001



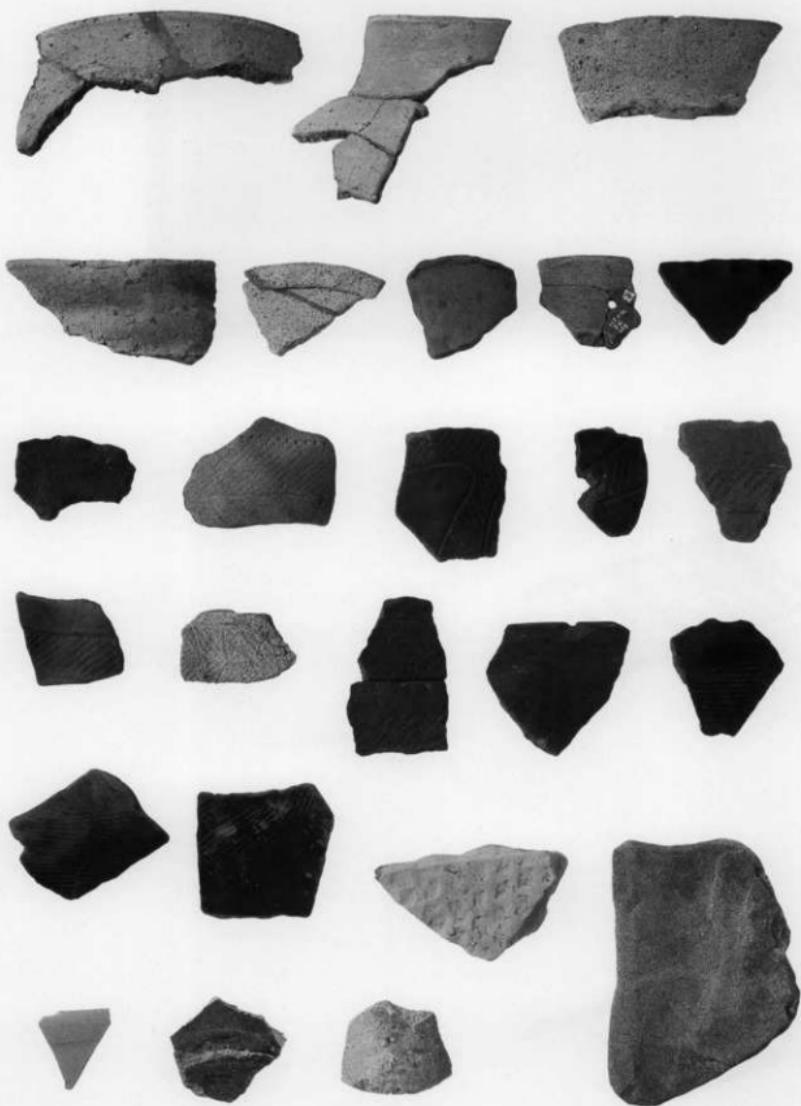
1 XI区 SD001



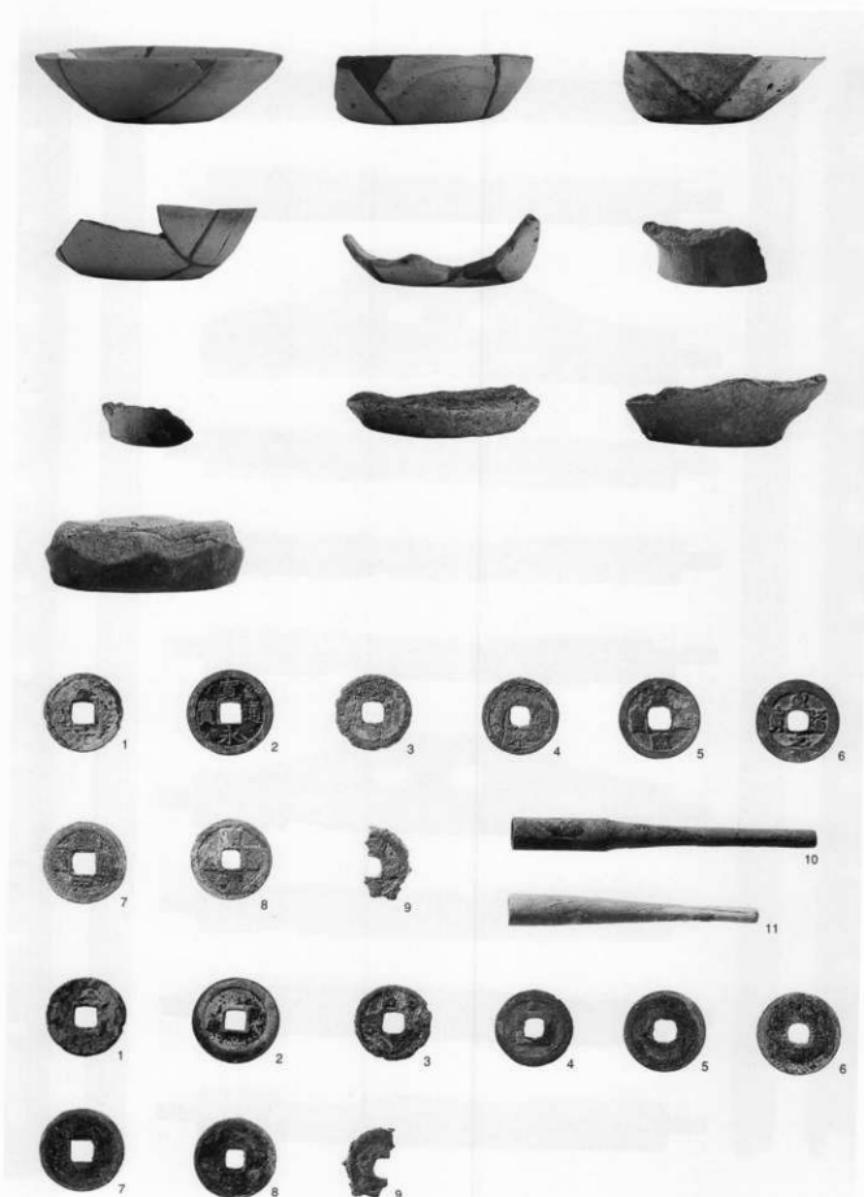
2 沖田地区出土木枠型大足 (1)
D1-38-001



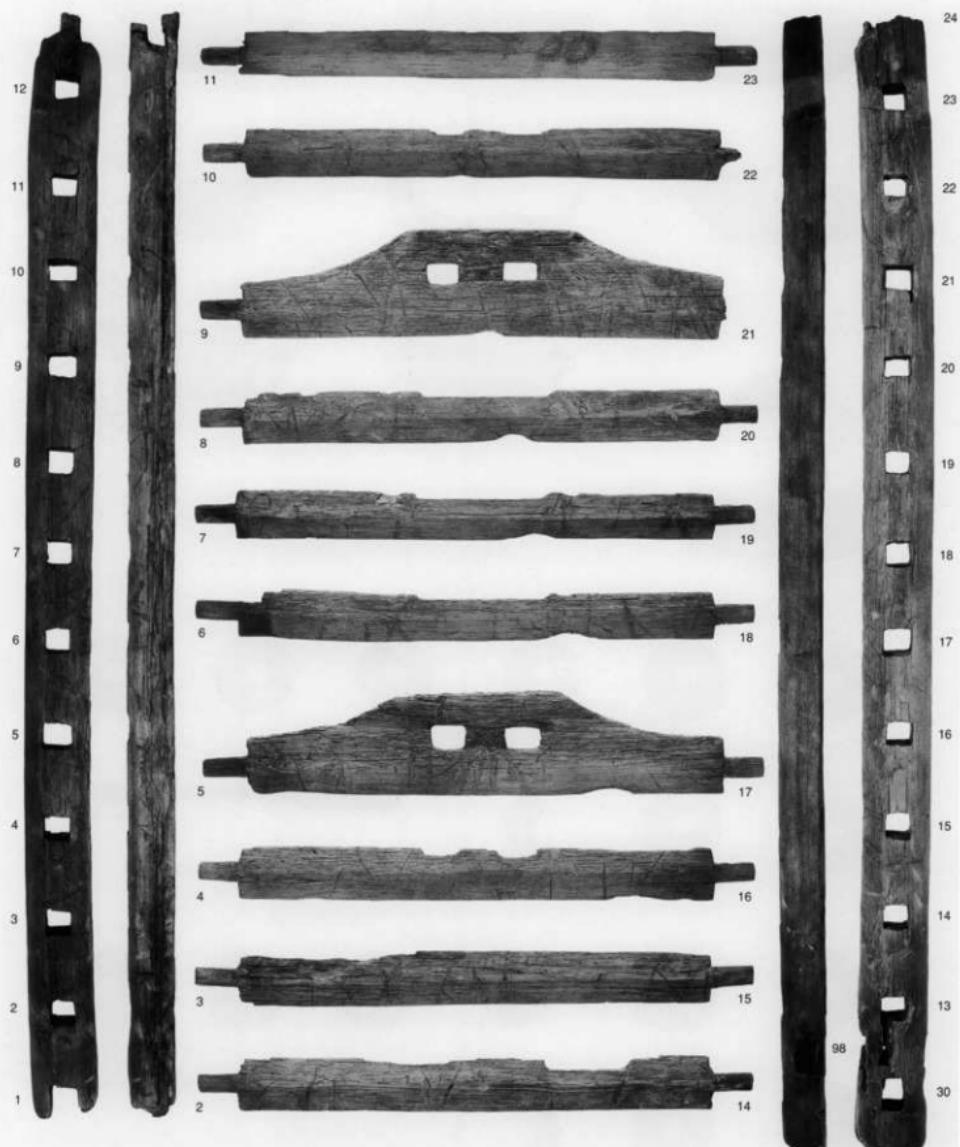
3 沖田地区出土木枠型大足 (2)
D1-38-002



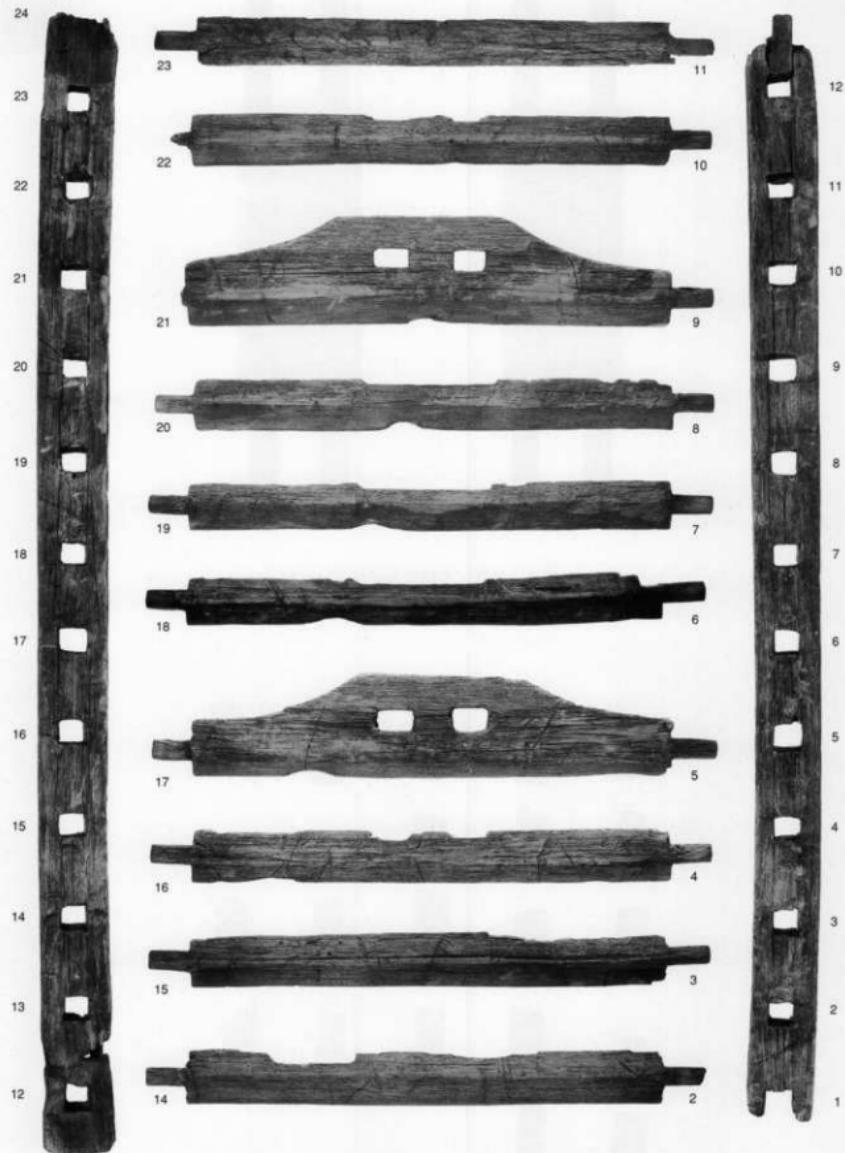
出土遺物（土器・陶磁器・石）



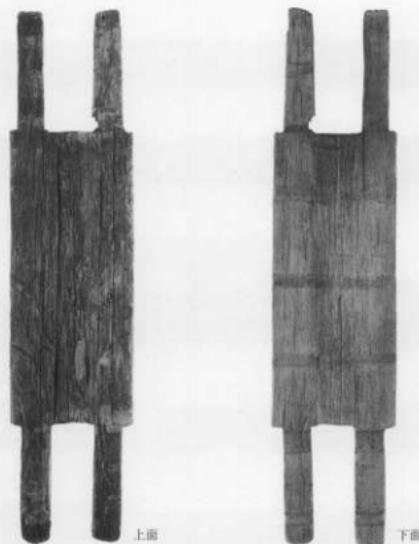
出土遺物（土器・錢貨・キセル）



木製品 農具 木枠型大足(1) 縦木、横木、小口板



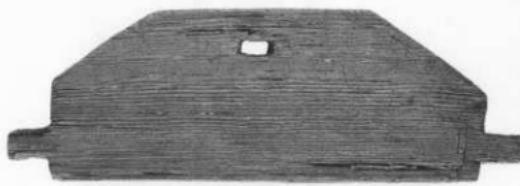
木製品 農具 木枠型大足(2) 縦木、横木、小口板



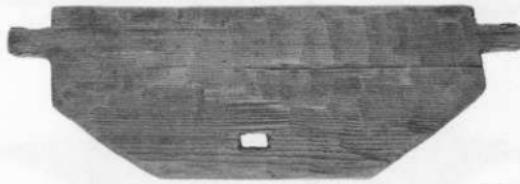
木製品 農具 木枠型大足（3）足板



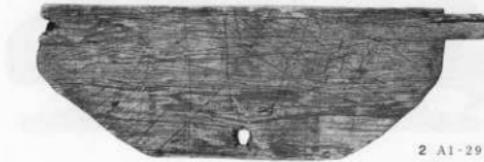
木製品 農具 木枠型大足（4）くさび



1 A1-29-001



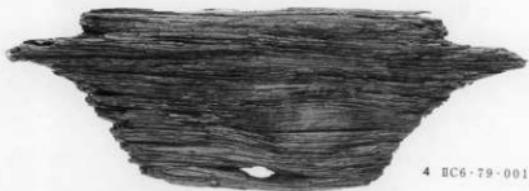
2 A1-29-002



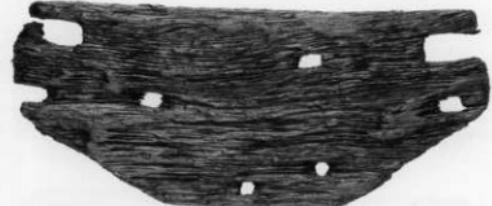
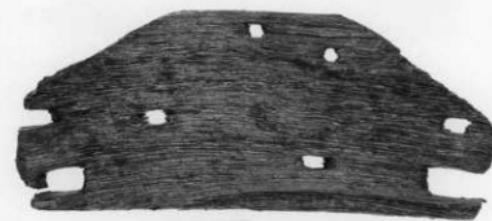
3 II A4-41-001



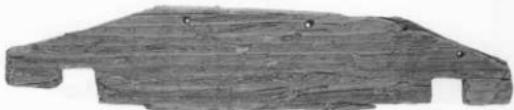
木製品 農具 小口板



4 II C6·79·001



5 II C6·88·001



6 B1-01-001



7 II C4-37-010



8 II C4-37-011



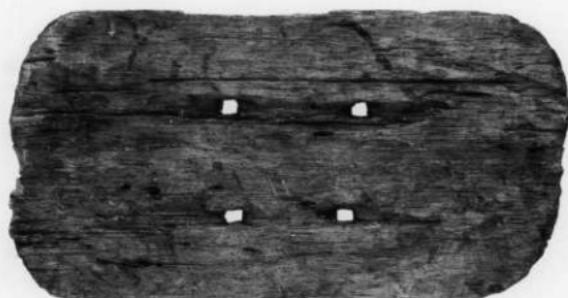
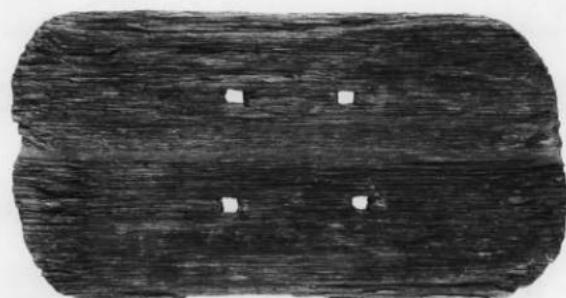
9 A2-06-003



10 II C4-38-007

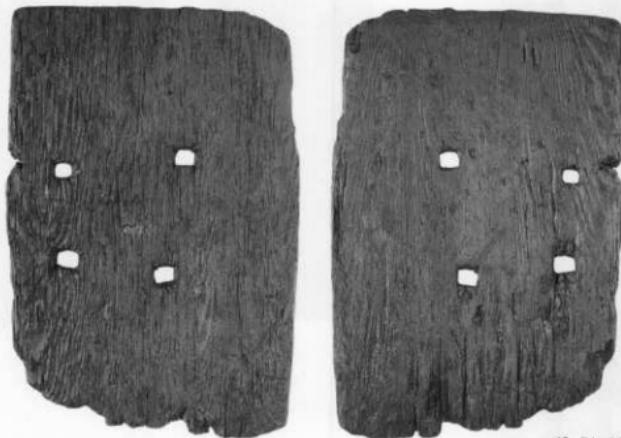


11 A1-56-001

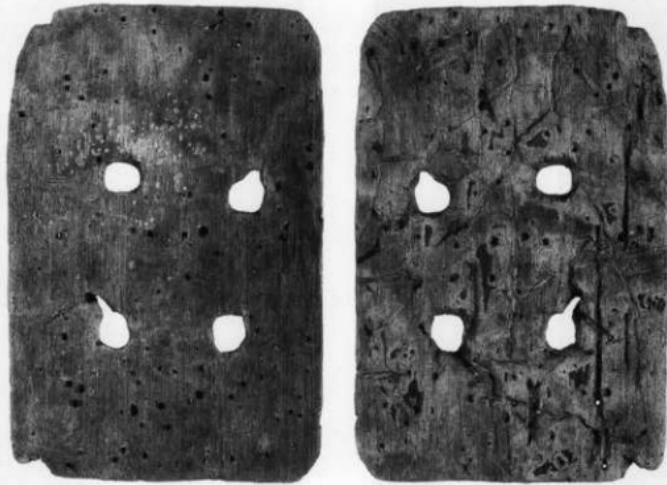


B1-35-001
12 B1-35-002

木製品 農具 横木、四孔田下駄



13 B1-16-001-1



14 IIc4-87-002

木製品 農具 四孔田下駄



15 A1-29-010



16 B1-12-004



17 B1-23-001

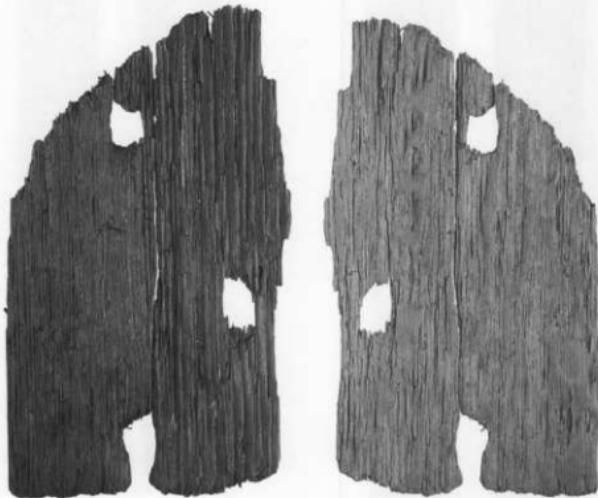


18 B1-12-002
20 B1-12-003





18 T46-008



21 BC6-52-001

木製品 農具 足板



19 B0-91-001-1



22 B1-10-010

23 BC4-38-003

木製品 農具 足板



24 A1-49-002



26 II A3-71-001



25 B1-10-001



27 B1-03-001

木製品 農具 足板



29 II B3-46-001
II B3-46-002



28 T 46-038



30 II A3-15-001-01



31 B0-91-002

木製品 農具 足板



32 B1-20-001



33 B1-22-001



37 A1-29-003



38 B1-00-005

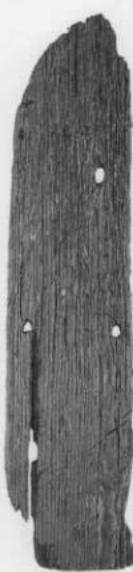
木製品 農具 足板



36 II A4-12-001



40 A2-06-001

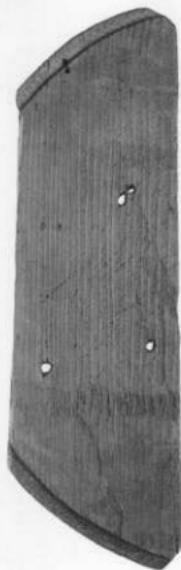


41 C1-25-001



39 B1-77-001





46 T46-030



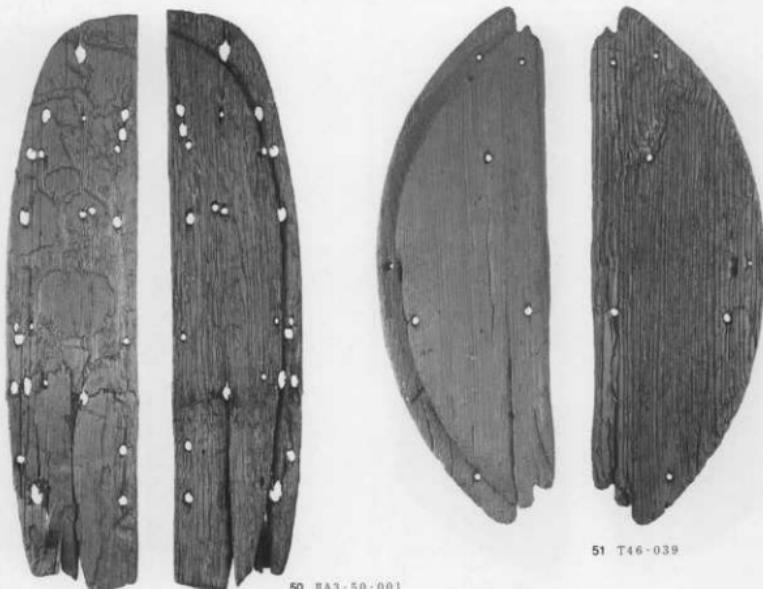
42 B1-11-001



48 II A3-84-002



47 B1-02-005-1



50 EA3-50-001



34 II A3-22-003



56 II B3-80-001



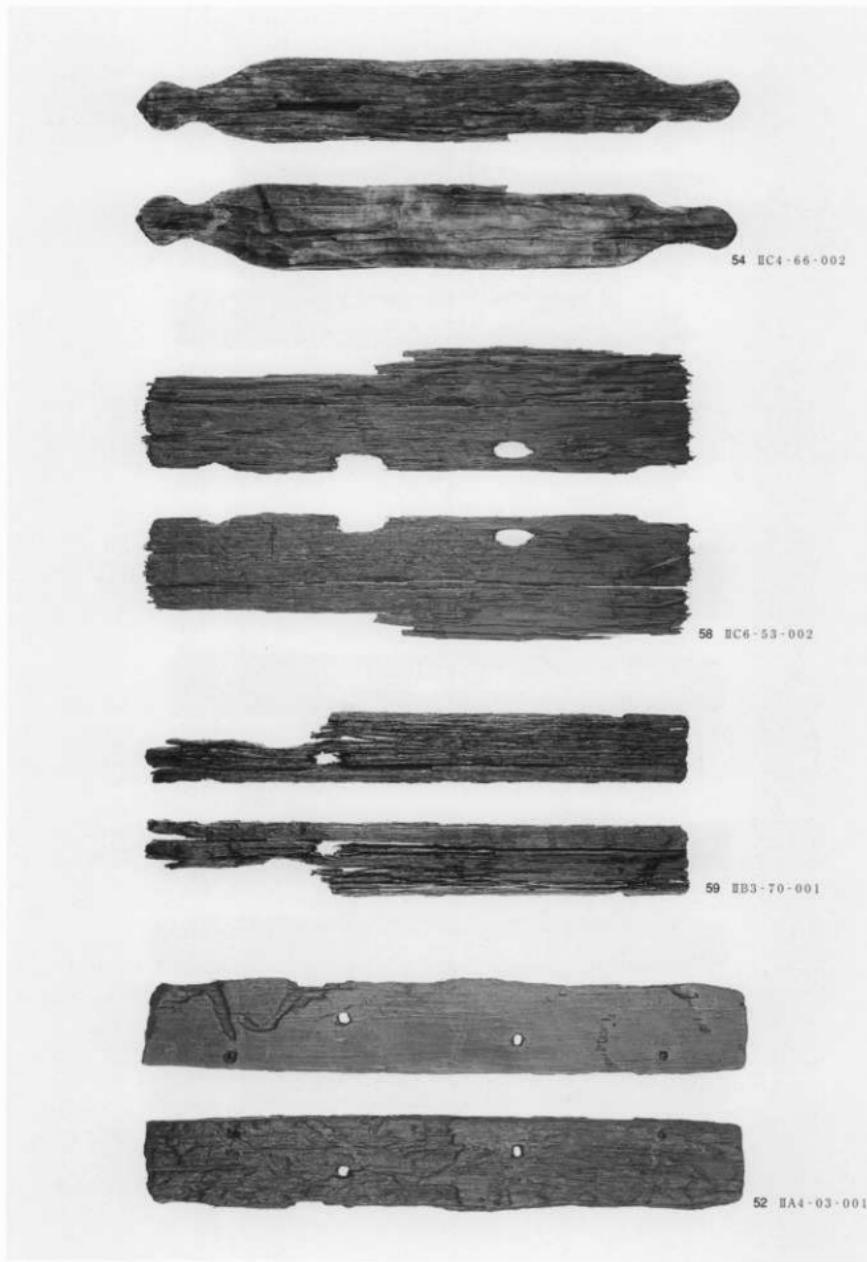
35 T 46-035



55 C1-14-001-1



57 T 46-040



木製品 農具 橫木、橫板



43 T46-024



44 T46-025



45 T46-028



60 C0-92-001



木製品 農具 輪カンジキ、足板、槌



61 II A3 - 74 - 002



62 II A3 - 54 - 002



68 A1-10-004



64 A1-29-006



65 A1-28-001



66 B1-10-003



63 A0-99-002



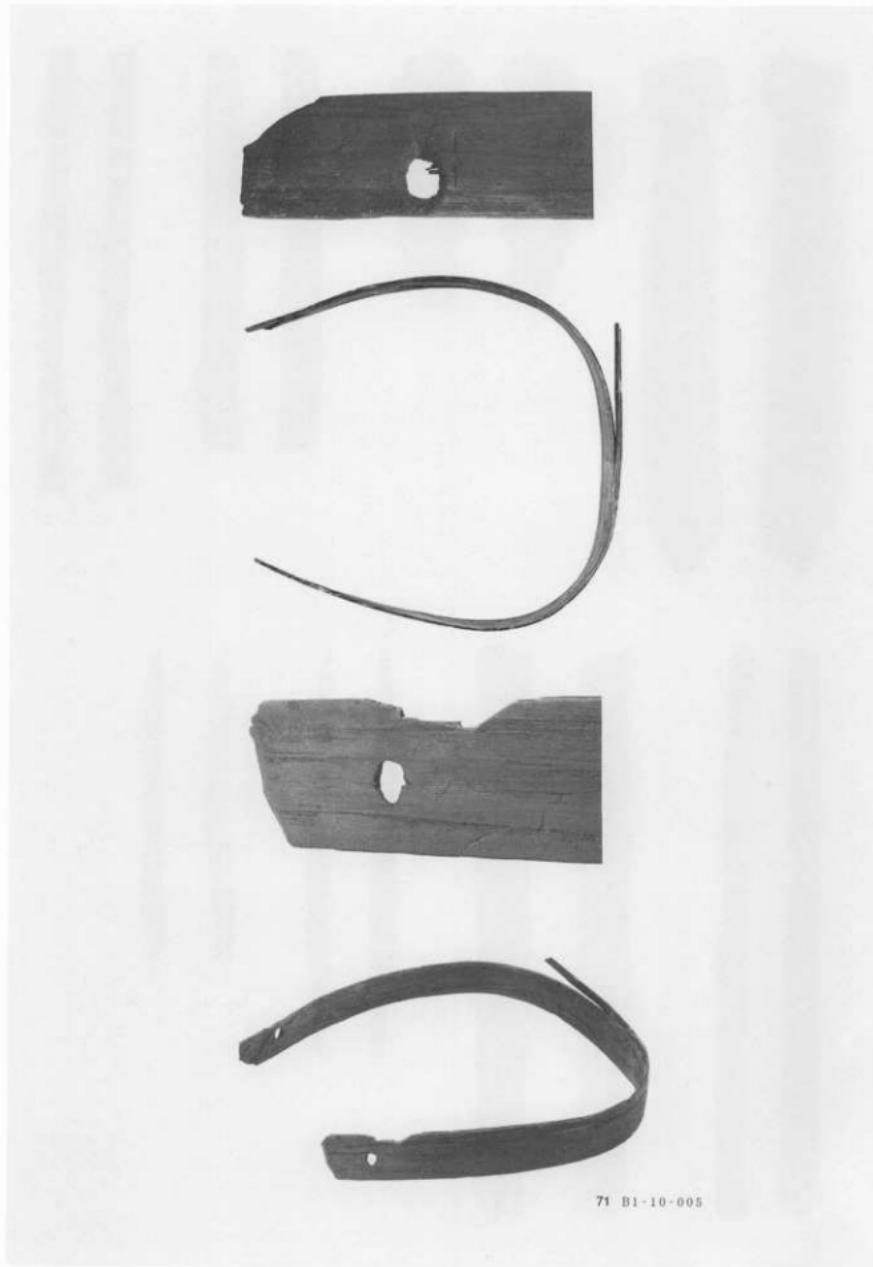
67 A1-18-002-2



69 B1-02-004



70 IIc6-65-006



71 B1-10-005

木製品 生活具 曲げ物



72 T46-037



73 A0-89-005



74 T46-009



76 BC4-38-004



77 B1-34-001



78 A1-27-003

木製品 曲げ物、建築材、竹、えつり



79 A1-27-001



80 EA3-05-001



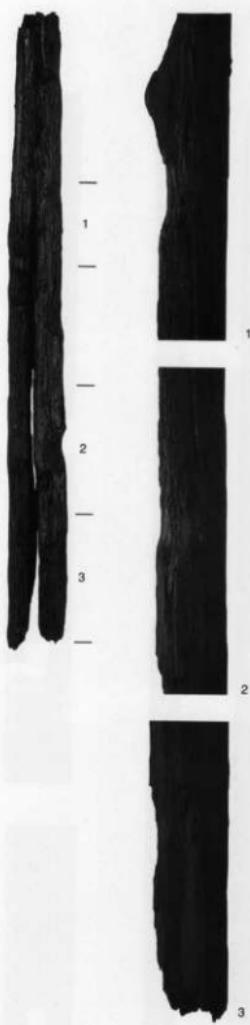
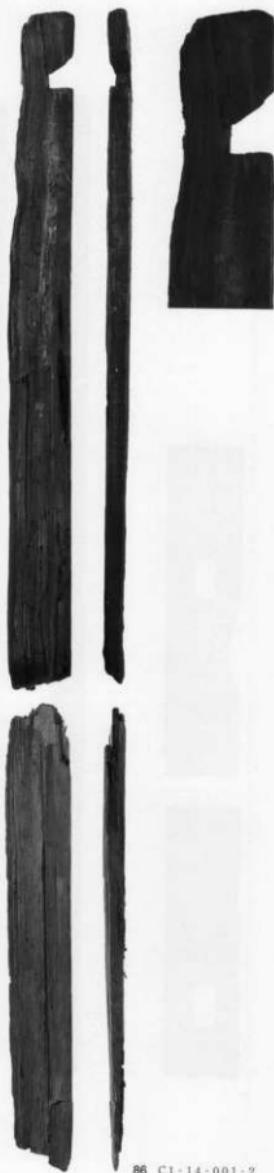
81 T46-010



82 II B3-94-001-1

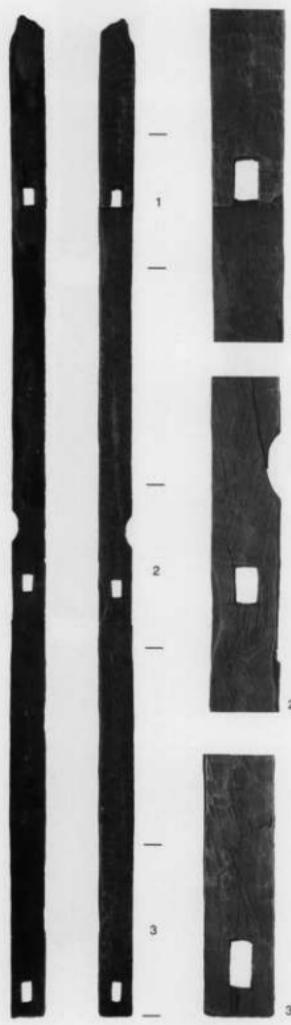


83 EA3-22-001

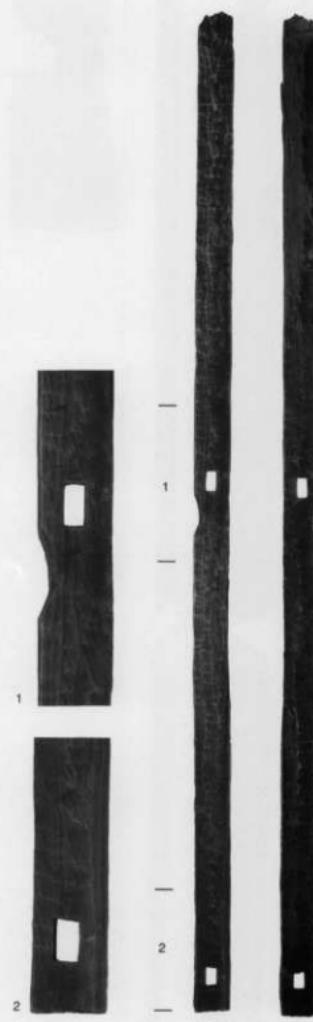


83 A1-59-001-1

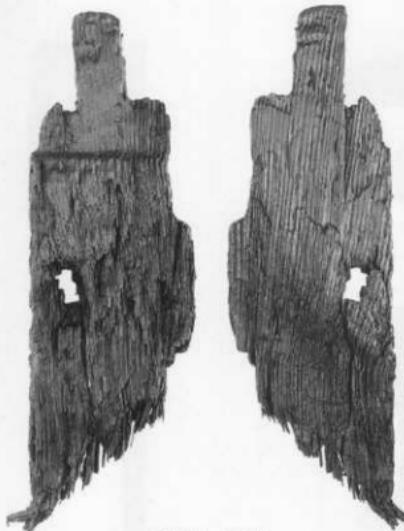
86 C1-14-001-2



87 CI-34-001



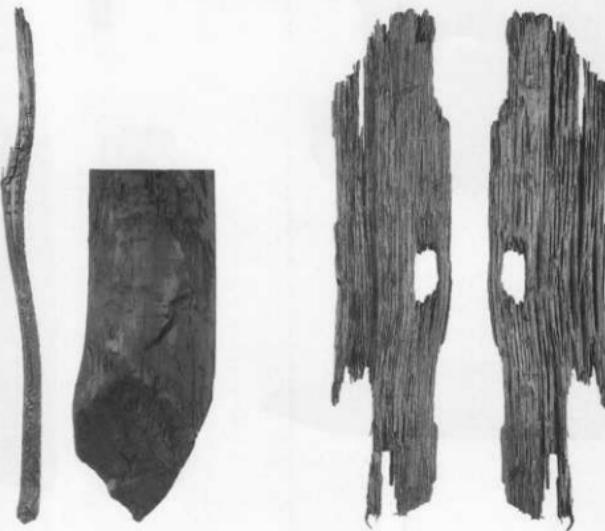
88 CI-04-001



89 II B4-43-001

96 II A3-74-001

93 B1-00-001

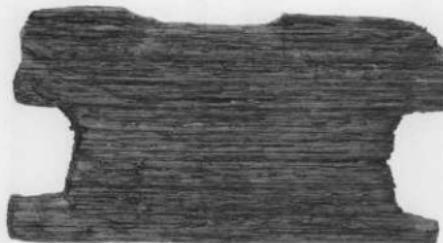


84 II A3-04-001

90 II C6-66-001



92 II A3-23-001



97 II A3-63-001



101 II C3-79-001



94 A1-38-005



104 B1-02-003

拡大





99 B1-57-001



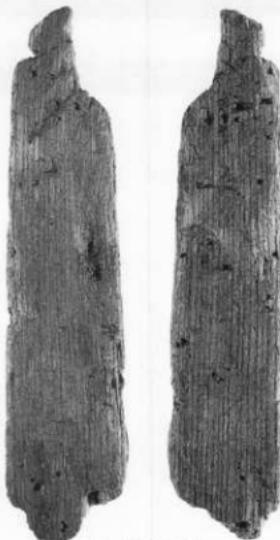
100 EC4-38-002



98 A0-89-004



102 EC4-37-009



91 C0-50-001

木製品 建築材、板材



107 C0-84-001



B0-71-001
105 B0-81-002

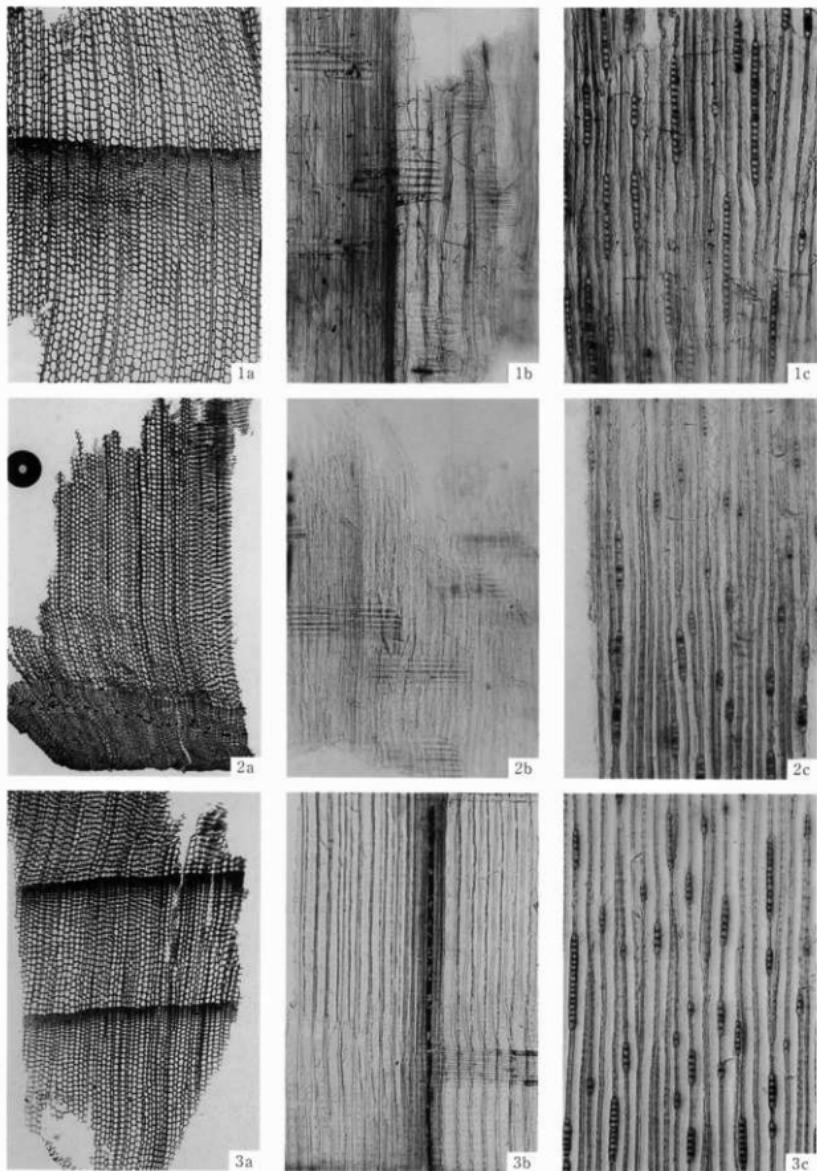


106 II A3-54-001



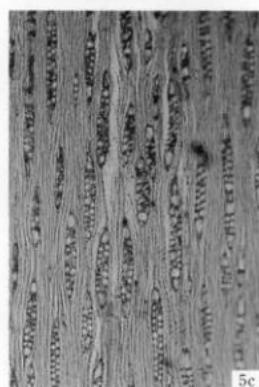
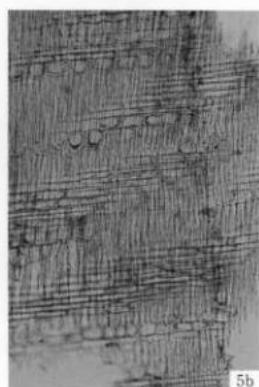
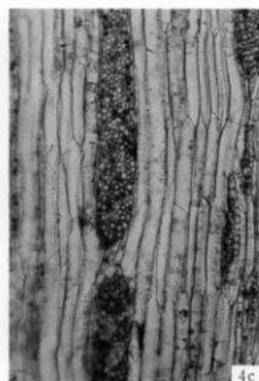
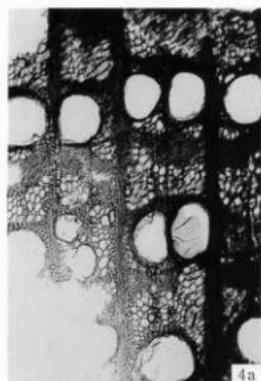
103 A1-29-005

木製品 建築材、板材



1. モク属 (試料番号 1)
 2. スギ (試料番号 7)
 3. ヒノキ (試料番号 4)
 a : 木口, b : 矢目, c : 板目

— 200 μm : a
 — 200 μm : b, c



4. ケヤキ (試料番号 9)

5. ヒイラギ (試料番号 8)

a : 木口, b : 横目, c : 板目

200 μm : a
200 μm : b, c

木製品顕微鏡写真 (2)

報告書抄録

ふりがな 書名	しゅようちほうどうきみつかもがわせんどうろかいりょうこうじにともなうまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ 主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
副書名	三直中郷遺跡坂ノ下地区							
卷次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第453集							
編著者名	相京邦彦、安川正行							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2							
発行年月日	西暦2003年3月25日							
ふりがな 所 在 地 名	ふりがな 所 在 地 名	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
三直中郷遺跡 坂ノ下地区	君津市三直字坂ノ下 799-2ほか	市町村 225	遺跡番号 010C	35度 18分 55秒	139度 56分 40秒	19991001~ 20000331	9,354m ²	主要地方道君津 鴨川線道路改良 工事に伴う埋蔵 文化財調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡		主な遺物		特記事項	
三直中郷遺跡 坂ノ下地区		弥生時代			土器		木製品(木枠型大足、 輪カンヅキ、田下駄、 鍔、楕、柄、曲げ物、 枕、その他)	
		古墳時代	溝跡	21条	土器			
		古代	溝跡	9条	土師器、須恵器			
		中世	溝跡	7条	土師器、須恵器			
		近世			キセル、陶磁器			

千葉県文化財センター調査報告第453集

主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

—三直中郷遺跡 坂ノ下地区—

平成15年3月25日発行

編 集	財団法人 千葉県文化財センター
発 行	千葉県土木部
	財団法人 千葉県文化財センター
	千葉県四街道市鹿渡809-2
印 刷	大和美術印刷株式会社
	千葉県木更津市潮浜2-1-10
